山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第244集

平田宮第２遺跡

― 新山梨環状道路建設に伴う発掘調査報告書 ―

２００７．３

山梨県教育委員会
山 梨 県 土 木 部

平田宮第２遺跡遠景

平田宮第２遺跡俯瞰写真（第Ⅲ面）

平田宮第２遺跡概要

ヒラタミヤくんの大冒険

ヒラタミヤくんは、山梨県中央市下河東に住んでいますが、近所で発掘調査が行われることとなりました。
ヒラタミヤくんはこの調査に興味しんしんです。ヒラタミヤくんは調査について調べるのとともに、おじいさん達から、平田宮第２遺跡にかかわるさまざまな歴史を学ぶことになったのです。
では、ヒラタミヤくんから冒険について話してもらいましょう。

平田宮第2遺跡の位置

調査した場所

調査の手順

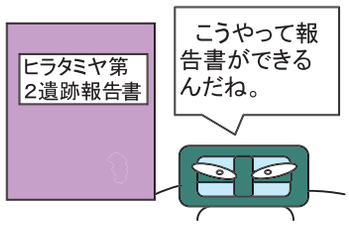
表土剥ぎ

遺構掘り下げ

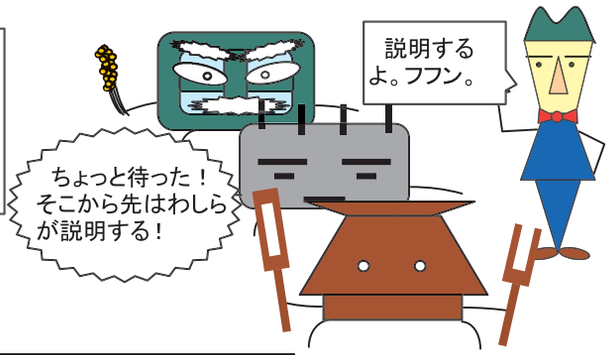
遺構掘り下げ

埋め戻し

報告書作成

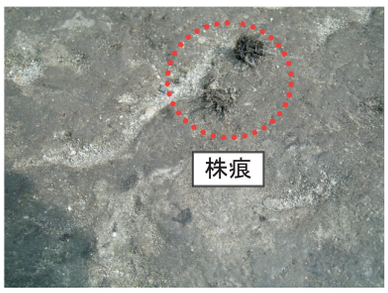


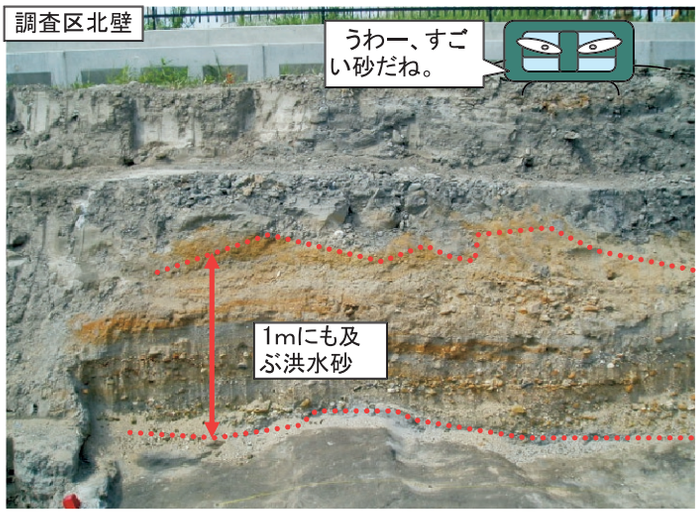
平田宮第2遺跡からは、4枚の生活面が見つかりました。この生活面の間には洪水による砂なんかがたまっているんだね。それで・・・



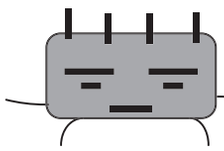
第Ⅰ面の調査

第Ⅰ面からは、4つの畦畔や水口・株痕などが見つかったんじゃ。これらの遺構から水田跡と推定されるな。この水田跡の年代は、遺跡周辺の調査から平安時代後半～鎌倉時代と考えられるのう。

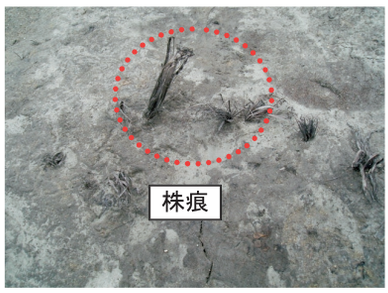


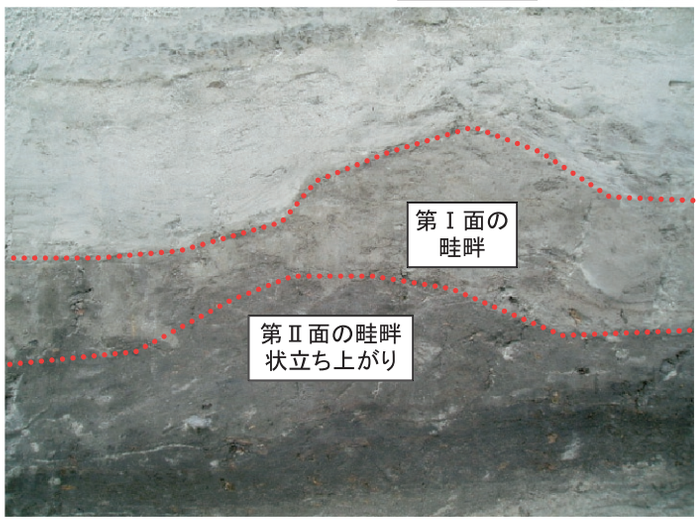


第Ⅱ面の調査



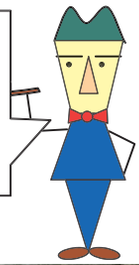
第Ⅱ面からは、多数の株痕と畦畔状の立ち上がりが1ヶ所で見つかりました。水田跡の可能性がありますね～。年代は、平安時代中頃（第Ⅲ面）～後半（第Ⅰ面）と考えられるんだな。ハイ



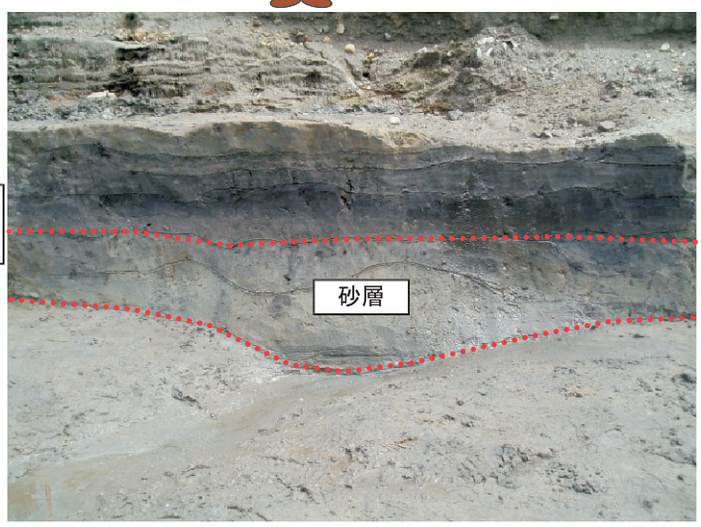


第Ⅳ面の調査

ちょっとスキップして、第Ⅳ面の説明をさせてもらうよ。なんせ、Ⅲ面のおじいさんがわしを最後にしろというもんでね。
第Ⅳ面からは畝が出てきたんだよ。このことから、畑跡だと分かるね。畝の方向や深さは同じではなく、ばらつきがあります。

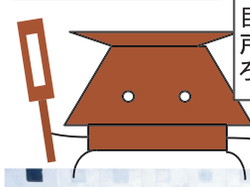


第Ⅳ面全景



第Ⅲ面の調査

やはり、しめはわしじゃな。なんせ最も多くの遺構・遺物がみつかっているからの。
検出された遺構は、竪穴建物跡1軒・井戸1基・土坑11基・溝状遺構20基じゃな。この中で注目すべきなのは、祭祀跡が見つかっている1号溝状遺構と木枠・曲物などでつくられている井戸跡じゃ。これらの遺構内からは、10世紀前半の遺物が見つかっておる。ということは、そのころの下河東には集落が展開し、人々が生活していたといえるの。

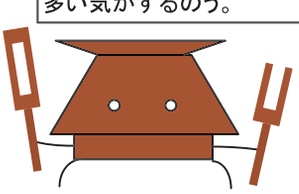


第Ⅲ面全景

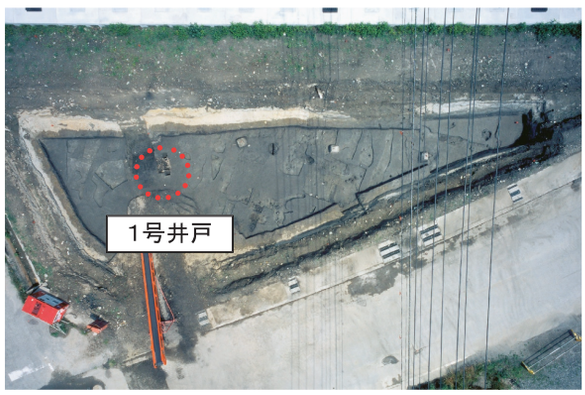
じーちゃん、よくしゃべるねー。

1号溝状遺構

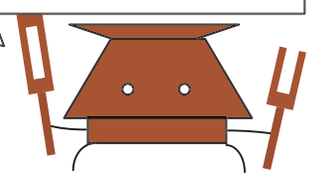
1号溝状遺構は南北に主軸を持つ溝と東西に主軸を持つ溝が交差しておるのじゃ。で、交差する場所の付近に斎串状木製品が集中する地点がある。交差する溝の角度が90度近いことからこの溝は土地の区画を示した可能性があるんじゃ。
また、この溝は遺物が多くでているの～。他の遺構と比較しても完全に近い形のものが多い気がするのう。



第Ⅲ面の調査の続き



1号井戸は平安時代の人々が壊して埋めた状態のまま見つかったんじゃ。貴重な発見といえるの。
井戸は木枠と曲物を併用しており、県内に類例がないんじゃ。井戸の作り方としては、まず、円形の大きな穴を掘って、中央をさらに一段低く、丸く掘り下げる。その中に、曲物を6段積み上げ、外側に杭を打ち込む。その杭に接して板材をはりつけ、方形の木枠をつくっておるんじゃ。
埋め戻したやり方も手がこんでおる。埋める前に土師器を投げ入れおまじないを行い、その後、板材を中央に向けて壊し、その上に土を埋め戻したんじゃ。



調査の順序

平田宮第2遺跡発掘調査のまとめ

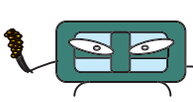
調査によって分かったことは次の通りです。

・中央市は甲府盆地の中央に位置しているため、昔から遺跡はないと言われてきました。しかし、洪水による砂の下に昔の生活の痕跡は残っていたのです。

・生活の痕跡として４つの時代が異なる遺構面が見つかりました。これにより、平田宮第２遺跡では、平安時代から人が活動をし始め、鎌倉時代に洪水があったために、埋没してしまったことがわかりました。

・鎌倉時代には水田、平安時代には水田・集落・畑として使われていました。

・注目すべき成果としては、祭祀の痕跡が確認されたことと、県内に類例がない井戸跡が検出されたことなどが挙げられます。



山梨県埋蔵文化財センターが行っている調査について、より詳しいことを知りたい方は
http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.htm を見てくださーい。

序　　文

本書は新山梨環状道路建設に伴い実施した、中央市下河東に位置する平田宮第２遺跡の調査成果をまとめた報告書です。中央市は近年の発掘調査により、平安時代・中世の遺構・遺物が検出されており、埋蔵文化財包蔵地が確認されなかった時代から、大きな進展をとげております。

埋蔵文化財センターが調査を実施した地点の周辺も中央市・旧玉穂町教育委員会により調査されており、平安時代の機織機などが発見されました

今回、調査を行った対象は、450平方メートルと決して広くはありませんでしたが、４枚の遺構面が検出され、平安時代から鎌倉時代の遺構・遺物が出土しました。その中でも、平安時代の集落跡より、井戸跡と土地を区画する溝とが検出されたことが主な成果として挙げられます。この井戸跡は平安時代の人々が廃棄した状態で検出されました。その構造は曲物を６段重ねた上に方形の木枠が構築されております。同様の形状は県内からは確認されておらず、貴重な事例と位置づけることができます。また、区画溝は溝状遺構が90度で連結する形状を呈しております。その内の一つからは、斎串状木製品が集中して出土している、祭祀跡が検出されております。

調査の結果、地中に埋没する遺跡を調査することにより、記憶から忘却されている歴史を復元することができました。また、繰り返し洪水の影響を受けつつも、諦めずに土地を開発した先人の努力を知り、文献には記されていない資料を得ることができました。

最後に、調査にあたって御協力頂いた関係者、関係機関、調査・整理作業に従事された皆様方に厚く御礼を申し上げます。

2007年３月

山梨県埋蔵文化財センター
所　長　**末　木　　健**

例　　言

1．本書は、山梨県中央市下河東1710－1他に所在する平田宮第２遺跡の発掘調査報告書である。
2．調査は山梨県土木部新環状・西関東道路建設事務所からの委託を山梨県教育委員会が受け、発掘調査・整理作業・報告書作成を山梨県埋蔵文化財センター（甲府市下曽根町所在）が担当した。
3．発掘調査は平成17年（2005年）５月16日から同年７月14日まで実施した。また、整理作業・報告書作成については、平成17年（2005年）８月15日から平成19年（2007年）３月19日まで実施した。発掘調査･整理作業･報告書作成は、網倉邦生・酒井玄暁が担当した。
4．本書の編集及び第Ⅰ章から第Ⅳ章、第Ⅵ章第１節・第２節・第３節１・３～５項の執筆は、網倉邦生・第Ⅵ章第３節２項は酒井玄暁が担当した。なお、自然科学分析（樹種同定・微細植物片の産状）については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その報告原稿を第Ⅴ章に掲載した。
5．本書に掲載した遺構写真及び作業風景写真は網倉邦生が撮影した。
6．本書に掲載した遺跡空中写真は株式会社シン技術コンサルに委託し、撮影した。
7．本書に掲載した遺物写真は、塚原写真事務所に委託し、塚原明生（日本写真家協会会員）が撮影した。
8．発掘調査に係る国土座標測量・グリッドポイント設定・基準標高測量は株式会社一瀬調査設計に委託した。
9．出土遺物(井戸曲物･木枠)のＰＥＧ法による保存処理と曲物の復元は帝京大学山梨文化財研究所に委託した。
10．出土遺物（井戸曲物・木枠）の図化・トレースは帝京大学山梨文化財研究所に委託した。
11．本報告書に係る出土品及び記録図面・写真・出土遺物・デジタル化したデータ等は、一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
12．調査にあたって、次の組織や方々にご指導及び協力を戴いた。記して謝意を表したい。
今村直樹（中央市教育委員会)、畑　大介・平野　修（帝京大学山梨文化財研究所）

凡　　例

1．掲載した遺構図面の縮尺は原則として下記の通りである。
［遺構全体図］　遺跡位置図　1/25,000　調査区位置図　1/2,000　基本土層図　1/20
第１次調査地点・第４次調査地点　1/300
［遺構微細図］　平面図　1/20　1/40　1/100　1/150　1/300　断面図・土層図　1/20　1/40　1/50
2．遺物実測図の縮尺は下記の通りである。
土師器・須恵器・灰釉陶器　1/3　　石製品　1/3　　木製品　1/3　1/6　1/12
3．遺構平面図の網目は次の通りである。
地山　　炭化物集中　　客土
4．遺構平面図中の表記は次の通りである。
● 土師器　　○ 須恵器　　■ 灰釉陶器　　□ 緑釉陶器　　▲ 株痕
5．遺物実測図中の網目は次の通りである。
［平面図］
内黒　　煤範囲　　墨範囲　　炭化範囲
（曲物図中表記）　　木釘　　樹皮　　穴　　ケビキの範囲
「断面図」
土師器　　須恵器　　灰釉陶器
6．遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。
7．遺構図・全体図などに示した方位（Ｎ）は国土座標による真北である。
8．遺物分布中の記号「　－　」は、「遺構番号・図版番号－図版中番号」である。

本　文　目　次

平田宮第２遺跡概要
序文
例言
凡例
本文目次
図版目次・写真図版目次・表目次
第Ⅰ章　調査経緯と経過…… 1
第１節　調査に至る経緯…… 1
第２節　調査経過…… 1
１．発掘調査の経過…… 1
２．整理作業の経過…… 2
３．調査に係る事務手続き…… 2
第３節　調査組織…… 2
第Ⅱ章　地理的環境と歴史的環境…… 3
第１節　地理的環境…… 3
第２節　歴史的環境…… 3
１．埋蔵文化財包蔵地…… 3
２．その他の文化財…… 4
３．文化財と微地形との関係…… 4
４．文献資料…… 4
第Ⅲ章　調査の方法と基本層位…… 7
第１節　発掘調査の方法…… 7
１．調査区の規模…… 7
２．調査グリッドの設定…… 7
３．表土層の除去…… 7
４．表土層除去後の調査…… 7
第２節　基本層位…… 9
第Ⅳ章　検出された遺構と概要…… 10
第１節　調査の概要…… 10
第２節　検出された遺構・遺物…… 10
１．第Ⅰ面の遺構…… 10
２．第Ⅱ面の遺構…… 10
３．第Ⅱ～第Ⅲ面の遺物…… 10
４．第Ⅲ面の遺構…… 10
５．第Ⅳ面の遺構…… 10
６．第Ⅳ面下の遺構…… 10
第Ⅴ章　理化学的分析…… 11
第１節　はじめに…… 11
第２節　木製品の樹種…… 11
１．試料…… 11
２．分析方法…… 11
３．結果…… 11
４．考察…… 12
第３節　微細植物片の産状…… 13
１．試料…… 13
２．分析方法…… 13
（１）１号井戸埋土…… 13
（２）２号溝状遺構埋土…… 13
（３）炭化物集中地点…… 13
３．結果…… 13
（１）遺構別検出状況…… 14
（２）種実の記載…… 14
４．考察…… 17
（１）植物利用…… 17
（２）古植生…… 20
第Ⅵ章　調査の成果と課題…… 24
第１節　遺構の変遷と地形の変化…… 24
第２節　検出された遺構…… 24
１．水田…… 24
２．竪穴建物跡…… 26
３．井戸…… 26
４．土坑…… 27
５．溝状遺構…… 27
６．畝状遺構…… 28
第３節　検出された遺物…… 28
１．墨書土器…… 28
２．斎串状木製品…… 28
３．井戸木枠…… 29
４．井戸曲物…… 29
５．その他の遺物…… 30
写真図版…… 75
抄録

図　版　目　次

第１図　遺跡分布図…… 5
第２図　調査区位置図・グリッド設定図…… 8
第３図　基本土層図…… 9
第４図　第Ⅰ面遺構図…… 39
第５図　株痕分布状況図…… 40
第６図　第Ⅱ面遺構図　…… 41
第７図　第Ⅱ～Ⅲ面遺物分布図…… 42
第８図　第Ⅲ面遺構図（E-1・2、F-1・2グリッド）
…… 43
第９図　第Ⅲ面断面図…… 44
第10図　第Ⅲ面遺構図（D-1・2、E-1・2グリッド）
…… 45
第11図　第Ⅲ面遺構図（D-2、E-2グリッド）…… 46
第12図　第Ⅲ面遺構図（C-2、D-2グリッド）…… 47
第13図　第Ⅲ面遺構図（C-2グリッド）　…… 48
第14図　第Ⅲ面断面図　…… 49
第15図　第Ⅲ面遺構図（C-2グリッド）　…… 50
第16図　１号井戸出土遺物分布図（１）…… 51
第17図　１号井戸出土遺物分布図（２）…… 52
第18図　第Ⅲ面遺構図（A-2、B-2グリッド）…… 53
第19図　第Ⅱ～Ⅲ面出土遺物　…… 54
第20図　第Ⅱ～Ⅲ面・第Ⅲ面出土遺物　…… 55
第21図　第Ⅲ面出土遺物　…… 56
第22図　第Ⅲ面・第Ⅲ～Ⅳ面・第Ⅳ面出土遺物… 57
第23図　１号井戸出土遺物（１）…… 58
第24図　１号井戸出土遺物（２）…… 59
第25図　１号井戸出土遺物（３）…… 60
第26図　１号井戸出土遺物（４）…… 61
第27図　１号井戸出土遺物（５）…… 62
第28図　１号井戸出土遺物（６）…… 63
第29図　１号井戸出土遺物（７）…… 64
第30図　１号井戸出土遺物（８）…… 65
第31図　１号井戸出土遺物（９）…… 66
第32図　１号井戸出土遺物（10）…… 67
第33図　１号井戸出土遺物（11）…… 68
第34図　１号井戸出土遺物（12）…… 69
第35図　１号井戸出土遺物（13）…… 70
第36図　１号溝状遺構出土遺物　…… 71
第37図　第Ⅰ面・第Ⅲ面・第Ⅳ面出土遺物　…… 72
第38図　第Ⅳ面遺構図　…… 73
第39図　第１次・第４次調査地点平面図　…… 74

写真図版目次

図版１　第Ⅰ面調査…… 77
図版２　第Ⅱ面調査…… 78
図版３　第Ⅲ面調査（１）…… 79
図版４　第Ⅲ面調査（２）…… 80
図版５　第Ⅲ面調査（３）…… 81
図版６　第Ⅲ面調査（４）…… 82
図版７　第Ⅳ面調査…… 83
図版８　１号井戸出土遺物（１）…… 84
図版９　１号井戸出土遺物（２）…… 85
図版10　１号井戸出土遺物（３）…… 86
図版11　１号井戸出土遺物（４）…… 87
図版12　出土遺物（１）…… 88
図版13　出土遺物（２）…… 89
（第Ⅴ章中の写真図版）
図版１　木材…… 21
図版２　種実遺体（１）…… 22
図版３　種実遺体（２）…… 23

表　目　次

第１表　遺跡一覧表…… 6
第２表　基本土層一覧表…… 9
第３表　樹種同定結果…… 12
第４表　微細植物片分析結果（１）…… 18
第５表　微細植物片分析結果（２）…… 19
第６表　２号溝状遺構出土木片の樹種同定結果… 20
第７表　第Ⅲ面遺構一覧表…… 32
第８表　遺物一覧表（土師器・須恵器等）…… 33
第９表　遺物一覧表（木製品・石製品）…… 36

第Ⅰ章　調査経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

発掘調査を実施した地点は山梨大学医学部の南側に位置している。調査地点周辺には水田が広がっているが、近年の土地区画整理事業などにより宅地へと景観が変りつつある。今回の調査は、新山梨環状道路建設に伴う発掘調査である。新山梨環状道路は甲府都市圏の周囲を巡る道路として整備されており、東西南北の４区間がある。平田宮第２遺跡が所在する下河東は中部横断自動車道の南アルプスインターチェンジと中央自動車道甲府南インターチェンジ付近を結ぶ南部区間にあたる。南部区間における埋蔵文化財調査は平成12年度まで当該市町村事業として調査が行われてきたが、平成13年度からは高規格道路であることから県事業として位置づけがされた。また、旧玉穂町域については、土地区画整理事業地内を新山梨環状道路が通過するため、土地区画整理事業地内は旧玉穂町（現中央市）教育委員会、土地区画整理事業地外は県埋蔵文化財センターが調査することとなった。

この取り決めの中で、平成16年４月15日に県埋蔵文化財センターが行う新山梨環状道路建設に係わる発掘調査の取り扱いについて、協議が行われた。この結果、土地区画整理事業区域外における道路部分として、山梨大学医学部グラウンド南側に位置する地点について、試掘調査の必要性が検討された。対象面積は約450㎡である。

県埋蔵文化財センターの試掘調査に先立ち、旧玉穂町教育委員会が新山梨環状道路沿線の山梨大学医学部南部土地区画整理事業地内において平成16年７月９日に試掘調査を行い、現地表下190㎝の位置で畝状遺構と土師器片とを検出した。この調査地点は埋蔵文化財包蔵地ではなかったため、新たに平田宮第２遺跡として登録された。

この後、平成16年７月13日に県埋蔵文化財センターによる試掘調査が着手された。調査は、トレンチを南北方向（１トレンチ）と東西方向（２トレンチ）に１本ずつ設け、地表下3.5mの位置まで掘り下げが行われた。掘削した面積は約61㎡である。この結果、遺構・遺物は出土しなかったものの、地表下2.5～2.9mの位置において旧玉穂町教育委員会の調査によって検出された、遺構確認面である灰暗褐色土が認められたことや湧水による土砂崩落などの影響により綿密な調査が行えなかったことから、再度試掘調査を行う必要性があるとされた。

平成16年９月15日から平成16年12月28日まで、旧玉穂町教育委員会により平田宮第２遺跡の発掘調査が行われた。調査対象面積は約1,900㎡である。この結果、１）平田宮第２遺跡の東側にある上窪遺跡から連続する、平安時代後半～鎌倉時代の水田跡、２）平安時代中頃の集落跡、３）平安時代中頃の畑跡という３つの遺構面や平安時代の遺物が検出された。また、平安時代中頃における集落跡の遺構より、機織り機の部材が出土した。

平成17年２月４日に県埋蔵文化財センターが担当する調査対象地内において、下水道敷設工事が行われることとなり、立会調査を実施した。掘削範囲は用地の北東端であり、幅１m・長さ５mにわたり掘り下げられた。この結果、地表下約２mに位置する黒色腐植土層下面から暗灰色砂層に平安時代の土師器と遺構が検出された。

立会調査により遺構・遺物が検出されたことと、旧玉穂町教育委員会の調査により、平安時代の遺構・遺物が広がっていることが確認されたため、新山梨環状道路施工予定地を埋蔵文化財包蔵地と認め、平田宮第２遺跡の範囲が当該地点を含むように遺跡の範囲を修正し周知を行った。

平成17年４月21日に行われた現地協議により、排土・排水処理やプレハブ設置場所等について打ち合わせがされ、平成17年５月より２ヶ月間の予定で、発掘調査が実施されることとなった。

第２節　調査経過

１．発掘調査の経過

調査に際し、プレハブと発掘調査用の機材を平成17年５月16日に搬入した後に、平田宮第２遺跡に係わる発掘調査を開始した。まず、平成17年５月16・17日に表土剥ぎを行った。表土層より１mほど下げたところ、水田耕土とコンクリートの水路が確認された。この土層中より近代の陶磁器片が確認されたため、調査対象となる面ではないと判断し、調査区の東端よりさらに１m掘り下げを行った。この結果、厚く堆積する粗砂層の下に植物の株痕を伴う暗灰色の粘土層が検出された。この面が玉穂町（現中央市）教育委員会の調査時に確認された、平安時代後半から鎌倉時代の水田跡であると判断し、表土剥ぎを継続した。ただ、明確な遺構面と捉えられる暗灰

色粘土層と異なるシルト質の土壌が褐色砂礫層中に認められたため、この土壌が確認された場所については、この土壌の上面で表土剥ぎを止めた。

表土剥ぎの後、一瀬調査設計に委託し、基準点測量・グリッド杭設置を５月17日に行った。この後、５月25日まで第Ⅰ面、６月１日まで第Ⅱ面、６月８日まで第Ⅱ面と第Ⅲ面の間にある遺物包含層、６月23日まで第Ⅲ面の調査を実施した。第Ⅲ面の調査完了に先立ち、シン技術コンサルによる空撮を５月17日に行った。調査区内のトレンチ断面から第Ⅲ面より下に畑の面があることが分かったため、重機を用いて第Ⅳ面の確認面まで掘り下げ、６月28日まで第Ⅳ面の調査を行った。６月29日にプレハブ・発掘調査用機材の借用期限を迎えたため、これらを撤去した。なお、第Ⅲ面における井戸に係る測量や木枠・曲物の取り上げに関し、日数を要したため、第Ⅳ面の調査後にこれらを行い、7月8日に井戸を完掘した。この後、第Ⅳ面より下を掘削し、平安時代より古い遺構の検出に勤めたが、確認されなかった。調査の完了後に、調査対象地の埋め戻しを７月12･13日に行った。

また、調査の進捗に応じ、現場速報「平田宮ニュース」を作成し、遺跡の周知に努めた。なお、「平田宮ニュース」は県埋蔵文化財センターのホームページ上に掲載している。

（「平田宮ニュース」はURL“http://pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.htm”に掲載中である）

２．整理作業の経過

整理作業は平成17年度（平成17年８月１日～31日､平成17年10月３日～平成18年３月16日）と平成18年度（平成18年８月１日～平成19年３月19日）に実施した。作業の工程としては、図面整理・遺構台帳作成・遺構トレースを平成17年８月１日～31日、水洗・注記・接合・遺物実測・遺物トレース・遺物図版作成を平成17年10月３日～平成18年３月16日に行った。遺物図版作成・遺構図版作成・写真図版作成・遺物台帳作成は平成18年８月１日～９月28日まで実施した。原稿執筆については、５月８日より開始し、12月27日に終了した。報告書の入稿は12月27日であり、報告書は３月30日に刊行された。委託業務としては木製品の保存処理と図化委託を実施した。その他に分析委託として、井戸を構成する木製品の樹種同定・遺構内の土壌分析などを行った。これらの分析結果については、第Ⅴ章に収められている。

なお、平成17年度に実施した県埋蔵文化財センター主催の遺跡展に出土遺物を出展した。

３．調査に係る事務手続き

発掘調査に際しては、文化財保護法に基づく手続きの他に、発掘調査の成果に係る報告を行った。それらの事務手続きは以下の通りである。

平成17年５月10日　文化財保護法第99条第２項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成17年７月12日　文化財保護法第100条第２項に基づく発見通知を南甲府警察署長に提出
平成17年７月20日　発掘調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
平成18年３月16日　発掘調査・整理作業の実績報告を山梨県教育委員会教育長に提出

第３節　調査組織

調査主体　山梨県教育委員会
調査機関　山梨県埋蔵文化財センター
所　　長　渡辺誠（平成17年度）〈平成17年度３月退任〉　末木健（平成18年度）〈平成18年度４月就任〉
次　　長　窪田守忠・末木健（平成17年度）　小澤　稔（平成18年度）　調査課長　坂本美夫
担当リーダー　小林広和（平成17年度）　山本茂樹（平成18年度）
発掘調査・整理報告担当　主任文化財主事　網倉邦生・非常勤嘱託　酒井玄暁
作業員（五十音順）
発掘調査　新谷和美・伊藤知子・河西圭子・児玉和子・田中初子・田中ふみ江・戸栗幸子・名取ゆづみ・野呂瀬英臣・依田和美
整理作業　梶原初美・斉藤律子・佐野眞雪

第Ⅱ章　地理的環境と歴史的環境

第１節　地理的環境

平田宮第２遺跡は、中央市旧玉穂町の中央を北から南へ流れる今川右岸、標高252mの地点に位置している。

旧玉穂町は甲府盆地の中央にあり、巨視的には釜無川扇状地の扇端部に位置しているものの、河川氾濫によって発達した自然堤防と低地である氾濫盆状地・旧河道により構成され、氾濫原としての性格を持っている（高木　1989・保坂　1997）。これは、釜無川だけではなく笛吹川・荒川などの河川氾濫による影響を受ける立地からも理解される。高木勇が提示した微地形分析によると、竜王町玉川辺りを頂点として微高地の方向が南方向に急変しており、旧玉穂町における微高地も南北方向に主軸を持つものが多い。微高地の方向が南を向く地域は、氾濫時に通常の流路から水が溢れ出る溢流氾濫による氾濫原である「上位氾濫原」に位置するとされる（高木　1989）。したがってこの地域は大河川（釜無川・笛吹川）による細粒土壌（シルト・砂層）の堆積と樹枝状に発達した小河川による侵食・粗粒土壌（砂礫層）の堆積が繰り返された地形であると言える。

現在の集落も微高地を中心に立地しており、低地には水田が広がっている。現状で把握される微地形がいつ形成されたのかという点は検討する余地が大いにあるが、平成６年度に実施された町内遺跡分布調査及び『山梨の地盤調査図』を基にした保坂康夫の検討によると、弥生時代後期頃に比定される基底礫層の比較により、下河東を中心とした地形の高まりは弥生時代後期頃にはなく、平坦であったことが推定されている。他にも中楯は高まりを有さず、上成島・下成島は微高地状を呈したことが指摘される（保坂　1997）。このことから、中楯の微高地は弥生時代後期以降の堆積作用によって形成されたものであると判断できる。平田宮第２遺跡が立地する下河東における微高地の形成であるが、下河東には弥生時代後期から平安時代に比定される下部シルト・粘土層群が安定的に堆積している点を考慮すると、弥生時代後期から平安時代の間に微高地化した可能性が高い。

第２節　歴史的環境

１．埋蔵文化財包蔵地

中央市旧玉穂町域は長く氾濫原だと考えられており、埋蔵文化財包蔵地が希薄な場所だと考えられてきた。このため、昭和57年（1982）に文化庁より発行された『全国遺跡地図－山梨県－』では、町内に埋蔵文化財包蔵地は登録されておらず、昭和58年度（1983）から昭和61年度（1985）に実施された県埋蔵文化財センターによる中世城館跡の分布調査により、包蔵地として３つの城館跡が報告されるのみであった。

しかし、旧玉穂町教育委員会により平成６年（1995）に行われた町内遺跡詳細分布調査によって38ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が確認された。遺跡の年代は弥生時代１遺跡、古墳時代１遺跡、平安時代９遺跡、中世34遺跡、近世23遺跡である（時代の重複あり）。分布調査と同時に町内の７地点において試掘調査が行われた。この結果、近世を遡る遺物は出土しなかったものの、古代末以降の水田面が検出された。（水田面の年代は炭素14年代測定を根拠としている）旧玉穂町域に埋蔵文化財包蔵地が登録されたことにより、開発行為に係る発掘調査が行われることとなった。中央市旧玉穂町域で始めて行われた埋蔵文化財発掘調査は、平成12年に県埋蔵文化財センターが実施した北河原遺跡である。発掘調査によって、溝跡・墓坑と共に中近世の遺構・遺物が検出された。

平成13年からは旧玉穂町教育委員会による上窪遺跡発掘調査が行われ、平安時代後半～鎌倉時代の水田跡が検出された。これ以外にも土層断面観察やトレンチ調査により、下層に平安時代中頃の水田面が確認された。この後、平成15年度に旧玉穂町教育委員会により上窪遺跡第２次調査地点が調査され、15世紀の溝跡と平安時代後半から鎌倉時代の水田跡が検出された。上窪遺跡の調査では１m以上堆積した砂層の下から遺構が検出された。

平成16年から18年度にかけて旧玉穂町・中央市教育委員会、平成17年度に県埋蔵文化財センターにより、平田宮第２遺跡発掘調査が行われた。この結果、平安・鎌倉時代の遺構・遺物が確認されている。

これらの発掘調査の実施により、河川堆積物により厚く被覆されているものの、堆積土壌下に中世・平安を中心とした遺構が存在することが明らかになった。現在登録されている旧玉穂町の遺跡数は43遺跡に増加した。

時代は弥生時代１遺跡、古墳時代１遺跡、平安時代11遺跡、中世35遺跡、近世24遺跡、近代１遺跡である。

２．その他の文化財

旧玉穂町域の指定文化財としては歓盛院の木造薬師如来座像（弘仁～藤原期）、永源寺の木造聖観音立像（藤原期）が平安時代の資料として著名であり、重要文化財に指定されている。

また、中世の石幢として10の資料が周知されている。石幢の年代は、15世紀前半３点、15世紀中頃２点、15世紀後半４点、16世紀前半１点である。石幢の内、９点は部材が揃っていない。部材が揃っている極楽寺866番地の資料にしても、水田の中から掘り出されたもので、笠と礎盤以外は同一個体である確証がないとのことである。旧玉穂町以外にも釜無川・笛吹川の氾濫原に位置する地域は、水害のため部材が揃わない石幢が多く、磨滅のある石幢も顕著である。石幢の分布は成島が最も多く５点あり、林照院に３点の石幢が存在する。その内の１点には請花と反花の間に大永８年（1528）の銘があり、他の２点は15世紀後半に位置づけられる。林照院の創建は天文年間（1532～1554）であり、石造物の年代よりやや新しい。石造物が原位置かどうか留意する必要はあるが、旧玉穂町の微高地全域に分布することから、15世紀には集落が微高地上に展開することが推察される。

３．文化財と微地形との関係

最新の埋蔵文化財包蔵地のデータを基に、時代ごとに微地形における立地の差異を分類した。分類の方法は、高木勇による微地形図と旧玉穂町域の遺跡分布図を重ね合わせ、遺跡の所在する微地形の数をカウントした。微地形の分類は「微高地（自然堤防）」と「低地（氾濫盆状地）」に区分したが、両方にかかるように位置する遺跡については「中間」とした。結果は次の通りである。

弥生時代：低地１、古墳時代：微高地１、平安時代：微高地２・低地５・中間４、中世：微高地15・低地６・中間14、近世：微高地13・低地４・中間７、近代：低地１である。弥生時代と古墳時代における遺跡は数が少ないため、確実なことは言いがたい。ただし、平安時代と中世についての、保坂康夫による釜無川扇状地における遺跡立地の検討（保坂　1997）によると、「平安時代の遺跡は低湿な氾濫原に立地するばかりか、半数が氾濫盆状地のような低地に立地する傾向がはっきり読み取れる」とし、「中世遺跡は七割前後以上が自然堤防などの高地に立地し、館跡は高地への立地傾向がさらに強まる」とされている。この指摘は当時を考える上で示唆的であるが、その前提として、この分析が１）遺跡の性格－つまり、集落遺跡なのか、生産遺跡なのかという点を取捨したものであることや、２）微地形分類が現在の地形を前提としており、平安・中世段階の地形は改めて検討しなければならない、という問題点があることに配意すべきである。特に下河東に位置する微高地は、平安時代においては形成途上のものであり、現在把握されている範囲とは異なる可能性がある。

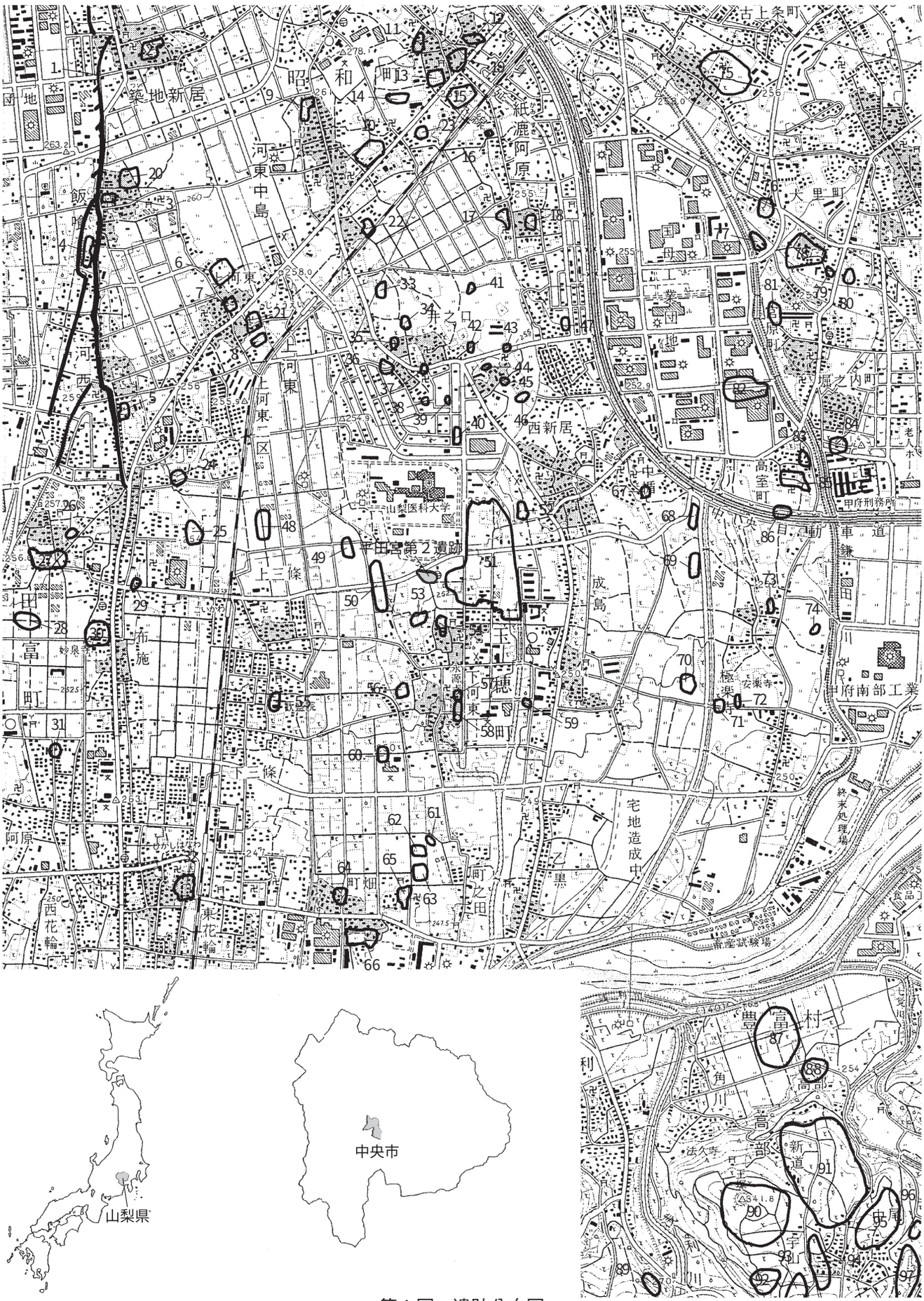
しかし、平安時代を通し気候が安定しており、その結果、土地の開発が進んだという点や古代末から中世初頭に地形の劇的な変化が生じたとする高橋学・保坂康夫の視点は、現在の遺跡調査の状況と合致している。また、旧玉穂町域においては、中世において微高地と低地の間に位置する遺跡が多く分布する。これは洪水により低地の開発が困難になったため、微高地と低地の境界を集中的に開発した結果かもしれない。

４．文献資料

古代における旧玉穂町域の文献資料は少ない。しかし、近年、昭和町紙漉阿原から玉穂町中楯を市河荘の中心地に比定する論考が提出された（ツェルナー　1990）。これに対して、市河荘に配流された源義清の後継者とみなされる氏族の足跡が確認されないことなどから、この説を疑問視する意見もある（秋山　2003）。

いずれにしても、発掘調査により旧玉穂町域に古代の水田・集落が存在したことは確認されているため、これらの水田・集落の帰属という点は検討する必要がある。

旧玉穂町域には中世の郷名がいくつか残されている。成島郷（「成嶋」「鳴嶋」「なる嶋」とも記載）・音黒郷（「乙黒」「をとくろ」とも記載）などは永正14年（1517）の文書に記録されており、現在の成島・乙黒の集落に比定される。この他に井口郷（井之口に比定）・西新居・極楽寺などの地名は天正年間の文書に記されている（角川日本地名大辞典　1984）。


築地新居
昭和町
紙漉阿原
古上条町
大里町
河東中島
井之口
上河東
上河東一区
西新居
高室町
甲府刑務所
山梨医科大学
平田宮第2遺跡
上三條
成島
玉穂町
布施
富町
妙泉寺
玉穂公民館
上河東
三條
宅地造成中
乙黒
町畑
町之田
西花輪
東花輪
阿原
甲府南部工業
極楽寺
安楽寺
終末処理場
畜産試験場
豊富村
角川
高部
法久寺
新道
宇山
中尾
利川
中央市
山梨県

第１図　遺跡分布図

第１表　遺跡一覧表

	遺　跡　名	種別	時　　期		遺　跡　名	種　別	時　　期
1	かすみ堤	堤防	中世・近世	51	上窪遺跡	集落跡・水田跡	中世・近世
2	村内遺跡	散布地	中世・近世	52	川久保遺跡	散布地	近世
3	屋敷添遺跡	散布地	中世・近世	53	平田宮遺跡	散布地	中世
4	村前遺跡	散布地	中世・近世	54	天神木遺跡	散布地	平安・中世・近世
5	大林遺跡	散布地	中世・近世	55	竹之花遺跡	散布地	古墳
6	熊野神社前遺跡	散布地	中世・近世	56	青六遺跡	散布地	中世・近世
7	田之神田遺跡	散布地	中世・近世	57	扇田遺跡	散布地	中世・近世
8	宝田遺跡	散布地	中世・近世	58	下河東屋敷	城館跡	中世
9	道田遺跡	散布地	中世・近世	59	向河原遺跡	散布地	中世
10	熊之宮遺跡	散布地	中世・近世	60	西反甫第１遺跡	散布地	中世
11	越乃遺跡	散布地	中世・近世	61	西反甫第２遺跡	散布地	中世
12	新田遺跡	散布地	中世・近世	62	熊野第２遺跡	散布地	中世
13	村前遺跡	散布地	中世・近世	63	熊野第１遺跡	散布地	中世
14	殿屋敷北遺跡	散布地	中世・近世	64	田中氏屋敷跡	城館跡	平安・中世
15	佐津平遺跡	散布地	中世・近世	65	川久保遺跡	散布地	中世
16	川添遺跡	散布地	中世・近世	66	御朱印屋敷	城館跡	中世
17	西村前遺跡	散布地	中世・近世	67	中楯遺跡	散布地	中世・近世
18	前田遺跡	散布地	中世・近世	68	二又第１遺跡	散布地	平安・中世・近世
19	越乃東遺跡	散布地	中世・近世	69	二又第２遺跡	散布地	平安・中世・近世
20	金屋敷遺跡	城館跡	中世	70	壱丁田遺跡	散布地	平安
21	玄賀屋敷	城館跡	中世	71	下河原第１遺跡	散布地	中世・近世
22	川代遺跡	散布地	中世・近世	72	下河原第２遺跡	散布地	中世・近世
23	殿屋敷遺跡	散布地	中世・近世	73	北河原遺跡	寺院跡	中世・近世
24	布施村北遺跡	散布地	中世	74	神明遺跡	散布地	中世・近世
25	神田遺跡	散布地	中世・近世	75	大北耕地遺跡	散布地	中世・近世
26	冷久保遺跡	散布地	中世・近世	76	桜林Ａ遺跡	散布地	古墳・奈良・平安・中世
27	三井右近丞屋敷跡	城館跡	中世・近世	77	桜林Ｂ遺跡	散布地	平安・中世
28	臼井阿原上河原遺跡	散布地	古墳・古代	78	西耕地Ｂ遺跡	散布地	中世
29	中澤五郎右衛門屋敷跡	城館跡	中世	79	西耕地Ａ遺跡	散布地	中世
30	小井川遺跡	集落	古代・中世・近世	80	西耕地Ｃ遺跡	散布地	中世
31	古寺家遺跡	散布地	近世	81	堰添遺跡	散布地	奈良・平安
32	田中氏屋敷跡	城館跡	中世	82	砂間遺跡	散布地	平安・中世
33	中通第１遺跡	散布地	中世・近世	83	金山遺跡	散布地	中世
34	中通第２遺跡	散布地	中世・近世	84	村前遺跡	散布地	中世
35	中通第３遺跡	散布地	中世・近世	85	高室氏館跡	城館跡	中世
36	村西遺跡	散布地	中世・近世	86	柿ノ久弥遺跡	散布地	中世
37	中通第４遺跡	散布地	中世・近世	87	明治遺跡	散布地	近世
38	中通第５遺跡	散布地	中世・近世	88	地蔵田遺跡	散布地	近世
39	若宮第１遺跡	散布地	中世・近世	89	浅利氏館跡	城館跡	平安・中世
40	若宮第２遺跡	散布地	平安・中世	90	大鳥居宇山平遺跡	散布地	縄文・弥生・古墳・平安・近世
41	今川第１遺跡	散布地	近世	91	高部宇山平遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・中世・近世
42	今川第２遺跡	散布地	中世	92	釜池西遺跡	散布地	縄文・近世
43	今川第３遺跡	散布地	平安	93	釜池東遺跡	散布地	縄文・中世・近世
44	今川第４遺跡	散布地	中世・近世	94	宇山遺跡	散布地	縄文・中世・近世
45	今川第５遺跡	散布地	近世	95	中尾遺跡	散布地	縄文・弥生・古墳・平安
46	今川第６遺跡	散布地	中世・近世	96	関沢遺跡	散布地	縄文
47	相之田遺跡	散布地	中世	97	代中東遺跡	散布地	縄文・平安・近世
48	三宮司遺跡	散布地	弥生・平安				
49	中新居遺跡	散布地	平安・中世				
50	八反田遺跡	散布地	近世・近代				

第Ⅲ章　調査の方法と基本層位

第１節　発掘調査の方法

１．調査区の規模

発掘調査は東西約33m、南北約12mの三角形に近い調査区域を対象とした。調査対象面積は約450㎡であるが、道路や下水道近くの掘り下げは避けたため、対象範囲の内、約444㎡の掘削を行った。また、調査対象範囲内は砂礫やシルトなど軟弱な土壌が多いため、調査区周囲の壁については、法勾配を緩くして対応した。このため、調査面積は、掘削深度が進むにつれ狭くなった。調査を行った面積は第Ⅰ面が126㎡、第Ⅱ面が128㎡、第Ⅲ面が102㎡、第Ⅳ面が91㎡である。

２．調査グリッドの設定

発掘調査の実施に際し、調査区周囲に旧玉穂町（現中央市）教育委員会による調査地点があり、新山梨環状道路建設に伴う発掘調査が今後も見込まれることを考慮し、国土座標に基づく５mグリッドを設定した。方角杭については、南北ラインを西から東へアルファベット大文字でＡ・Ｂ・Ｃの順に、東西ラインを北から南へアラビア数字で１・２・３の順に記号を付し、ラインが交差してできる方角を、Ａ－１・Ｂ－２の様に呼称した。

国土座標値は世界測地系の座標値「測地成果2000（日本測地系2000＝JDG2000）」いわゆる新座標値である。新座標と旧座標は、国土地理院作成・配布のフリーソフトTKY2JDにより変換することができる。このソフトは国土地理院のホームページ上で公開されている。なお、周辺の埋蔵文化財調査において、旧座標を用いているため、第２図・第39図では参考として旧座標値も記載してある。

３．表土層の除去

調査地点における土壌の堆積条件は良好であり、表土層も単層ではなく複数の土層により構成されている。表土層の土壌は調査区の東西で大きく異なる。西側は地表下40～60㎝の位置まで山梨大学医学部グラウンド造成に伴う盛土が認められ、その下にコンクリ水路を伴う水田面が確認された。この層より下の80㎝～１mの範囲には、明褐色粗砂層と灰白色細砂層が互層状に認められており、一部ではラミナを形成している。これは複数単位の洪水を示していると判断される。また、第Ⅰ面の水田面は薄いシルト層に覆われている。

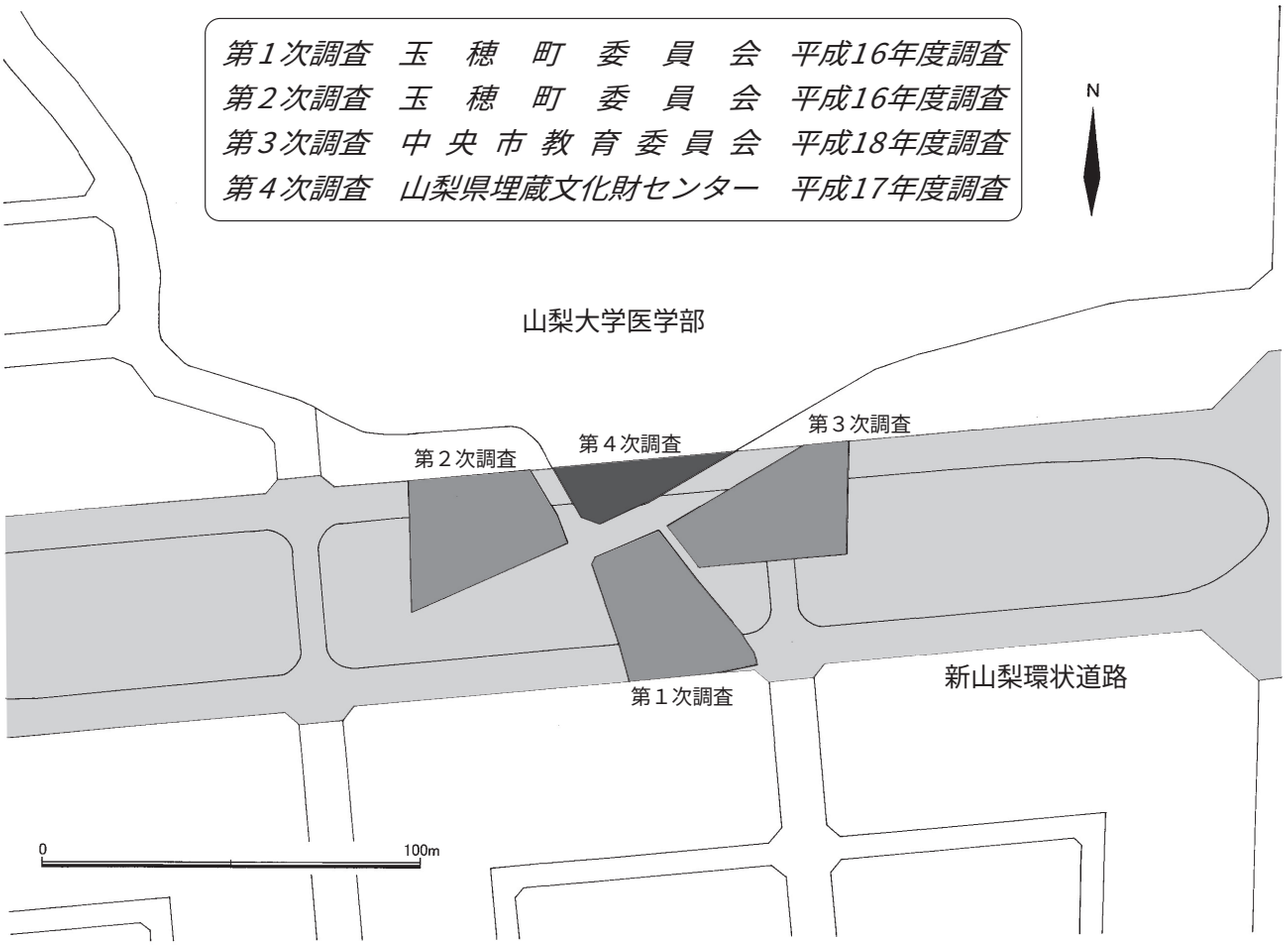
これに対し、調査区の東側では地表下70㎝の位置まで盛土が認められ、この下に40～50㎝の層厚で攪乱層がある。攪乱層の下は、西側と同じく粗砂層と細砂層が互層状に堆積するが、ラミナ状を呈さず、ほぼ平坦である。また、平坦に堆積するシルト層にはうん管を含むものもあり、旧地表面として離水した時期があると考えられる。東側土層断面図の西側において、西側に向かい黄褐色粗砂層が第Ⅰ面水田面に向かい、下がっていく形状を呈する。このため、Ｃ・Ｄグリッド周辺では遺構面の直上に粗砂層が覆っている。これは南北軸に走行した洪水の流路の底部を示しているのかもしれない。

表土層の除去にあたっては前記の事項が観察されたが、基本的には旧玉穂町教育委員会の調査事例を参考に、第Ⅰ面の水田面を検出するように努めた。一部にうん管を含むシルト層が認められたため、シルト層上面で掘削を止め、遺構面の検出を行ったが、明確な遺構は確認できなかった。

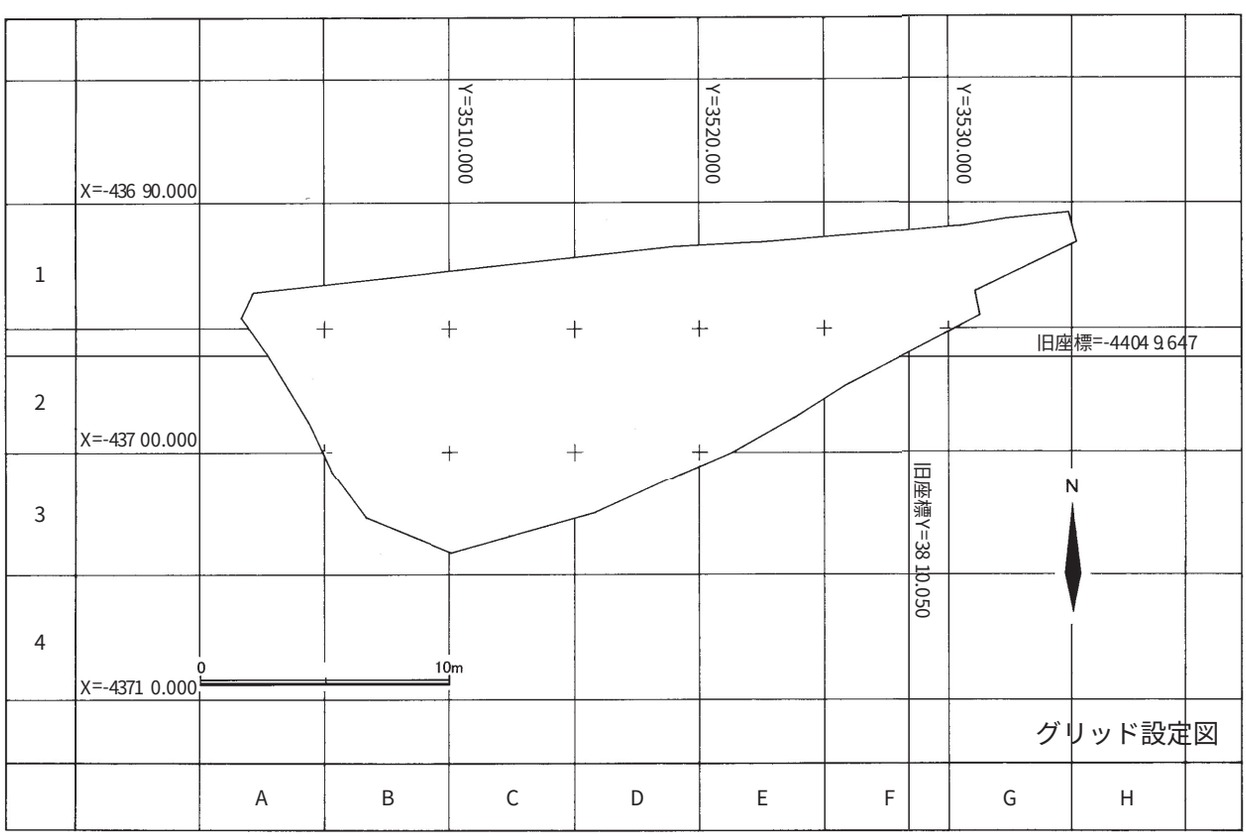
４．表土層除去後の調査

表土層の除去後の掘り下げと遺構検出は基本的に人力で行ったが、１）第Ⅲ面から第Ⅳ面への掘削、２）平成16年７月13日に行われた県埋蔵文化財センターによる試掘調査の際に設けられた１トレンチの掘り下げ、３）第Ⅳ面より下の深掘りを行う時には、重機を使用した。

遺構確認に際しては、トレンチ断面で確認された土壌を基準に掘り下げを行った。掘り下げを行う際に第Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ面の遺構は微弱な凹凸を有すものであるため、移植ごてを使用して遺構面を検出し、第Ⅲ面は集落面であるため、ジョレンを用いてプラン確認を行った。平面プランが検出された遺構については、遺構の規模を勘案し、土層観察用のベルトを設けるか、半截した。記録図面については、遺構平面図・断面図・土層堆積状況図・遺物出土状況図などを調査の進捗に応じ、適宜作成した。測量方法については、平面図はグリッド杭を基準とした平板



調査区位置図



第２図　調査区位置図・グリッド設定図

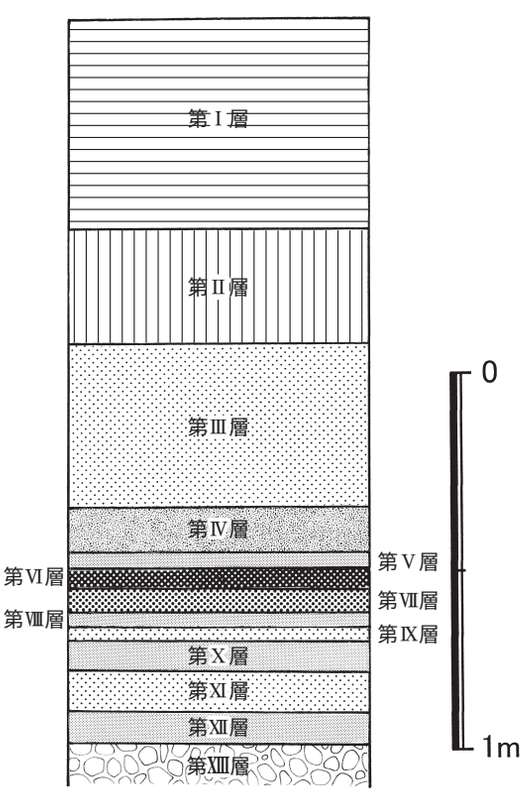
測量、立面図は方眼紙への計測図化により作成した。出土遺物は原位置の記録に努め、グリッド杭を基準とした平板測量により出土位置を記録し、微細図により出土状況を記録した。また、遺構･遺物の平面図中に高さのデータを記入し、３次元データとしての記録に努めた。写真については、遺構検出・半截・完掘状況・遺物出土状況などを中心に撮影した。撮影機材は、小型一眼レフカメラによる35㎜モノクロネガ･カラーポジを主体に使用し、デジタルカメラも用いて記録した。

第２節　基本層位

旧玉穂町教育委員会が実施した発掘調査によって、３枚の遺構面が検出された。１枚目は暗灰褐色砂質シルト層、２枚目は暗灰褐色砂層、３枚目は暗灰褐色砂質シルト層である。これらの面の間にシルト・砂層が確認されている。今回の調査で確認された土層も基本的には同一であり、第Ⅰ面・第Ⅲ面・第Ⅳ面は同じ土壌で構成される。ただし、遺構間に堆積する土層や、第Ⅱ面が検出されたという点は異なる。第Ⅱ面は黒灰色砂質シルト層であり、調査区東側の壁面に南北方向に走行する畦畔が検出されたため、遺構面と認定した。

第Ⅰ面の上にある土壌は暗灰褐色細砂層であるが、局所的に黄褐色粗砂層に覆われる。第Ⅰ面と第Ⅱ面の間には、暗灰褐色シルト層と暗褐色シルト層がある。第Ⅱ面と第Ⅲ面の間には植物遺体を多く含む黒色腐植土層が認められ、その下に平安時代の遺物を包含する黒灰色砂質土がある。この黒灰色砂質土には遺物は包含されるものの、遺構は検出されず、土層の供給源や成因については検討を有する。

第Ⅲ面・第Ⅳ面の間と第Ⅳ面の下には灰色砂が堆積する。灰色砂は約50～60㎝程で砂礫層に変化する。第Ⅲ面の井戸に係る測量や木枠・曲物の取り上げを行った後に、第Ⅳ面より下を掘り下げたところ、砂礫層上面より30㎝は土層の変化がなく、遺構・遺物は検出されなかった。湧水が著しかったため調査を終了したが、平安時代以前の年代を示す遺構・遺物の把握については、今後の課題である。また、断面観察により、洪水の影響を繰り返し受けつつも、水田・集落・畑など多角的な土地利用が行われたことが把握された。



第３図　基本土層図

第２表　基本土層一覧表

第Ⅰ層	盛土	山梨大学医学部グランド造成に伴う盛土。
第Ⅱ層	旧水田面	グラウンド造成前に用いられていた水田面。
第Ⅲ層	灰白色砂層	細砂層・粗砂層が互層状に堆積し、シルトのラミナを含む。粘性無・しまり有。
第Ⅳ層	暗灰褐色細砂層	シルトブロック・黒色土を含む。粘性無・しまり有。
第Ⅴ層	暗灰褐色砂質シルト層	第Ⅰ面(平安時代後半～鎌倉時代の遺構面)。粘性有・しまり有。
第Ⅵ層	黒色腐植土層	植物遺体を多く含む。粘性有・しまり有。
第Ⅶ層	黒灰色砂質土層	遺物包含層。粘性無・しまり有。
第Ⅷ層	黒褐色砂層シルト層	第Ⅱ面（平安時代中頃～後半の遺構面)。粘性有・しまり有。
第Ⅸ層	灰白色砂層	細砂により構成される。粘性無・しまり有。
第Ⅹ層	暗灰褐色砂層	第Ⅲ面（平安時代中頃の遺構面)。粘性無・しまり有。
第Ⅺ層	灰白色砂層	細砂により構成される。粘性無・しまり有。
第Ⅻ層	暗灰褐色砂質シルト層	第Ⅳ面（平安時代中頃の遺構面)。φ２㎜炭化物粒子を含む。粘性有・しまり有。
第ⅩⅢ層	砂礫層	粗砂を主体に人頭大礫等で構成される。粘性無・しまり有。

第Ⅳ章　検出された遺構と概要

第１節　調査の概要

今回埋蔵文化財センターが行った発掘調査により、４つの遺構面があり、時代が異なる面の間を洪水砂が覆っていることが明らかになった。便宜的にこれらの面をⅠ～Ⅳ面と呼称する。以下に各遺構面の結果を記述する。なお、第Ⅲ面の遺構・遺物データは一覧表として掲載し、遺構の検討については、第Ⅵ章の第２節に記載した。

第２節　検出された遺構・遺物

１．第Ⅰ面の遺構

第Ⅰ面は、暗灰褐色砂質シルトで構成され、深さは地表下約1.6mに位置する。この面からは南北方向に走向する畦畔が３条、東西方向に走向する畦畔が１条、水口が１ヶ所確認された。この面には木製品以外の遺物はないが、旧玉穂町教育委員会の調査と今回の調査との土層対比により、平安時代後半から鎌倉時代に推定される。

２．第Ⅱ面の遺構

第Ⅱ面は、黒灰色砂質シルトで構成され、深さは地表下約２mに位置する。この面からは南北方向に走向する畦畔が１条確認された。水田面からは第Ⅰ面より多くの植物の株跡が検出されたが、分布は不規則である。この面は上窪遺跡第２次調査地点の第２水田面に対比され、平安時代中頃から平安時代後半と考えられる。

３．第Ⅱ～Ⅲ面の遺物

第Ⅱ面と第Ⅲ面の間にある黒灰色砂質土より遺物が検出された。（ただし、遺構は確認されていない）この土層中より突帯付四耳壺（第20図23）が１点出土しているが、これは第Ⅳ面出土の破片と接合する。このことから、第Ⅱ～Ⅲ面と第Ⅳ面に時差はあまりないことが分かる。出土遺物からこの土層の年代は平安時代中頃に位置づけられる。

４．第Ⅲ面の遺構

第Ⅲ面は、暗灰褐色砂で構成され、深さは地表下約2.2mに位置する。この面からは、竪穴建物跡１軒･井戸１基･溝状遺構20基･土坑11基等が検出された。井戸は方形を呈する木枠の下部に曲物があり、遺存状況は良好である。県内では曲物を使用した井戸は検出されているものの、同じ構造のものはなく、貴重な資料と言える。溝状遺構の底面からは、斎串状木製品の集中地点が確認された。平成16年度に旧玉穂町教育委員会が実施した調査の際にも竪穴建物跡が検出されており、平安時代中頃の集落跡が想定される。

５．第Ⅳ面の遺構

第Ⅳ面は、暗灰褐色砂質シルトで構成され、深さは地表下2.7mに位置する。この面からは南北方向に走向する畝状遺構が11基、東西方向に走向する畝状遺構が６基確認された。（ここでは便宜的に畝間の凹地をカウントした）遺構面からは墨書土器などが出土しており、その年代から平安時代中頃の畑跡と考えられる。

Ａ・Ｂ－２グリッドには炭化物集中が認められる。ただし、極めて平面的であり、層厚はない。炭化物集中の土壌を分析した結果は第Ⅴ章に収められている。また、Ｅ－２グリッドからは木杭が検出された。木杭は２本確認されており（第38図）、畝の方向と直交する方向に位置している。

６．第Ⅳ面下の遺構

今回の発掘調査においては、第Ⅳ面の調査を終了した後に、重機で掘削して、平安時代より古い遺構・遺物の検出に努めた。第Ⅳ面の下には灰色砂層が堆積するが、その下は砂礫層であり、砂礫層中からは水が湧き出てくる。この砂礫層は弥生時代前期から中期に形成された基底砂礫層と判断される。調査区が狭小であったことから、第Ⅳ面より１m程で掘り下げを中止したが、弥生時代以前における遺構の存否は今後の課題である。

第Ⅴ章　理化学的分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

第１節　はじめに

平田宮第２遺跡は、山梨県中央市（旧玉穂町）に所在し、釜無川扇状地先端部に立地している。本遺跡周辺の微地形は、地形判読調査等により微高地及び氾濫盆状地と呼称される低地に分類されており、調査地は概ね微高地ａ及び氾濫盆状地ｂに相当する微地形上に相当する（高木　1985、村石　2002）。

本遺跡の発掘調査では、平安時代後半～鎌倉時代の水田跡の検出面（第Ⅰ面）、平安時代中頃～後半にかけての畦畔状の高まりが検出される面（第Ⅱ面）、平安時代中頃の集落跡の検出面（第Ⅲ面）、平安時代中頃の畑跡の検出面（第Ⅳ面）といった４面の遺構確認面が確認されている。

本報告では、発掘調査成果から課題とされた、1）第Ⅲ面より検出された１号溝状遺構から出土した斎串状木製品と、１号井戸内から出土した木製品の樹種、2）２号溝状遺構埋土や１号井戸埋土、第Ⅳ面に認められた炭化物集中における微細植物片の産状、といった２点について自然科学的分析手法を用いて検証する。

第２節　木製品の樹種

１．試料

試料は、１号溝状遺構から出土した斎串状木製品５点と、１号井戸の部材や同遺構内から出土した木製品18点の計23点である。なお、１号溝状遺構は、発掘調査所見及び出土遺物から祭祀的な性格を有する遺構の可能性が示唆されており、当遺構から選択・対象とした試料は、祭祀等に用いられた木製品の可能性がある。試料の詳細は、結果と共に表１に示す。

２．分析方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については島地・伊東（1982）及びWheeler他（1998）、各樹種の木材組織配列の特徴については林（1990）及び伊東（1995、1996、1997、1998、1999）を参考としている。

３．結果

結果を表１に示す。１号溝状遺構より出土した木製品や井戸及び井戸枠内から出土した木製品は、全て針葉樹であり４種類（ツガ属・ヒノキ・サワラ・ヒノキ科）に同定された。以下に、各種類の解剖学的特徴等を記す。

・ツガ属（Tsuga）　　マツ科

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急で､晩材部の幅は広い。樹脂細胞は晩材部に認められるが顕著ではない。放射組織は仮道管と柔細胞で構成される。放射柔細胞にはじゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はヒノキ型で、１分野に１－４個。放射組織は単列、１－20細胞高。

・ヒノキ（*Chamaecyparisobtusa*（Sieb.etZucc.）Endlcher）　　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、１分野に１－３個。分野壁孔の長軸方向は垂直～やや斜めになるものが多い。放射組織は単列、１－15細胞高。

第３表　樹種同定結果

遺構名	遺物№	器種・用途	形状・所見	樹種		備考
				和名	学名	
１号井戸	02	井戸枠部材	板状	ヒノキ科	Cupressaceae	組織収縮
	03	井戸枠部材	板状	サワラ	*Chamaecyparispisifera*（Sieb.etZucc.）Endlcher	
	04	井戸枠部材	板状	ヒノキ科	Cupressaceae	組織収縮
	05	井戸枠部材	板状	ヒノキ科	Cupressaceae	組織収縮
	06	井戸枠部材	板状	サワラ	*Chamaecyparispisifera*（Sieb.etZucc.）Endlcher	
	15	井戸枠部材	板状	サワラ	*Chamaecyparispisifera*（Sieb.etZucc.）Endlcher	
	28	井戸枠部材	板状	サワラ	*Chamaecyparispisifera*（Sieb.etZucc.）Endlcher	
	36	井戸枠部材	板状	サワラ	*Chamaecyparispisifera*（Sieb.etZucc.）Endlcher	
	41	井戸枠部材	板状（転用材）	サワラ	*Chamaecyparispisifera*（Sieb.etZucc.）Endlcher	
	45	井戸枠部材	板状	サワラ	*Chamaecyparispisifera*（Sieb.etZucc.）Endlcher	
	76	曲物底板	円盤状	ヒノキ	*Chamaecyparisobtusa*（Sieb.etZucc.）Endlcher	
	57	井戸枠部材	芯持丸木材（先端加工）	ツガ属	Tsuga	
	59	井戸枠部材	板状	ヒノキ科	Cupressaceae	
	60	井戸枠部材	角材	ヒノキ	*Chamaecyparisobtusa*（Sieb.etZucc.）Endlcher	
	64	井戸枠部材	板状	ヒノキ	*Chamaecyparisobtusa*（Sieb.etZucc.）Endlcher	
	66	井戸枠部材	板状（転用材）	ヒノキ科	Cupressaceae	
	69	井戸枠部材	板状（転用材）	ヒノキ科	Cupressaceae	
	70	井戸枠部材	板・棒状	サワラ	*Chamaecyparispisifera*（Sieb.etZucc.）Endlcher	
１号溝	W08	斎串状木製品	棒状（加工）、先端炭化	ヒノキ科	Cupressaceae	組織収縮
	W09	斎串状木製品	棒状（加工）、先端炭化	ヒノキ科	Cupressaceae	組織収縮
	W11	斎串状木製品	棒状（加工）、先端炭化	ヒノキ科	Cupressaceae	組織収縮
	W14	斎串状木製品	棒状（加工）、先端炭化	ヒノキ科	Cupressaceae	組織収縮
	W18	斎串状木製品	棒状（加工）、先端炭化	ヒノキ科	Cupressaceae	

・サワラ（*Chamaecyparispisifera*（Sieb.etZucc.）Endlcher）　　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、１分野に１－３個。分野壁孔の長軸方向は水平になるものが多い。放射組織は単列、１－15細胞高。

・ヒノキ科（Cupressaceae）

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、１－15細胞高。

上記、ヒノキおよびサワラを含むヒノキ科である。ヒノキ科にはヒノキ属の他にアスナロ属、ネズコ属、ネズミサシ属がある。各種類の組織の特徴や本遺跡の樹種同定結果を考慮すると、上記したヒノキ属２種のいずれかである可能性がある。

４．考察

１号溝状遺構及び１号井戸内から出土した木製品、井戸枠は、すべて針葉樹であり、ツガ属（１点）を除くと、すべてヒノキ科（ヒノキ・サワラを含む）であった。ヒノキやサワラは、主として山地の尾根筋に生育する種類であり、木理が通直で割裂性が高く、また、加工が容易で耐水性が高いといった材質的な特徴を有する。一方、ツガ属は、現在の山梨県では主にツガとコメツガの２種が分布しており、ツガは、甲府盆地内の扇状地上から山地斜面等に分布しているものの、コメツガは長野県・埼玉県・静岡県等との県境付近の山地上部に分布し、遺跡周辺に分布は認められない（倉田、1971）とされている。なお、平田宮第２遺跡における花粉分析結果及び微細植物片分析結果では、これらの花粉化石や葉・枝条が検出されたことから、当該期の広域植生として、後背山地や丘陵部、集水域等に分布していたことが推測されている（パリノ・サーヴェイ株式会社　2006）。このことから、これらの木製品や部材に用いられたツガ属やヒノキ科の木材は、周辺の山地等から入手し利用されたと考えられ、これらの木製品の形状や用途を考慮すると、材質等を考慮した選択的な利用が推測される。

なお、先述したように１号溝状遺構から出土した斎串状木製品は祭祀に関わる可能性が指摘されている。山梨県内では二本柳遺跡から出土した10～14世紀の斎串状木製品を対象とした調査事例があり、スギやヒノキ属が多く認められるといった傾向が得られている（パリノ・サーヴェイ株式会社　2000）。

また、２号溝状遺構埋土からは、多量の木片が検出された。樹皮や試料の遺存状況の悪い木片や細片を除く分析可能な木片より無作為に抽出した20点の分析調査の結果（表４）、ヒノキ科（ヒノキを含む）を主体として、ツガ属やトウヒ属、マツ属複維管束亜属が認められた。これらの木片はいずれも針葉樹であり、木製品及び井戸枠の樹種構成と同様の傾向を示しており、この他に樹皮や細片等も検出されていることから、これらの試料間の関係が注目される。

第３節　微細植物片の産状

１．試料

試料は、第Ⅲ面から検出された１号井戸埋土２・３層、２号溝状遺構埋土、第Ⅳ面から検出された炭化物集中地点より採取された土壌試料４点である。１号井戸及び炭化物集中から採取された土壌は、それぞれ地点・層位毎にビニール袋に保管された状態にあり、２号溝状遺構埋土から採取された土壌は、木片の集積が認められた箇所より塊状で採取された状態であった。このうち、分析試料として、１号井戸埋土（２・３層）各200cc、２号溝状遺構埋土約1000g、炭化物集中地点土壌524.8gをそれぞれ秤量・抽出し、井戸埋土については分析目的を考慮し、さらに、各1000ccを追加し分析対象としている。

ところで、２号溝状遺構から採取された塊状を呈する土壌試料は、観察の結果、上位より木製品状の木片や樹皮・木端が混入する黒～灰色を呈する砂質（細粒砂～極細粒砂）土、淡暗灰色を呈する細粒砂～極細粒砂、灰色を呈する中粒砂～細粒砂といった層相が観察された。淡暗灰色細粒砂～極細粒砂と灰色中粒砂～細粒砂との層界が明瞭であることから、黒～灰色砂質（細粒砂～極細粒砂）土及び淡暗灰色細粒砂～極細粒砂が遺構覆土と想定された。このことから、本分析では木片等が多量に混入する黒～灰色を呈する砂質（細粒砂～極細粒砂）土を分析対象試料として採取を行っている。

２．分析方法

各試料の質及び分析目的に応じて、３種類の方法を用いている。以下に、各方法の詳細を示す。

⑴　１号井戸埋土

試料200ccを水に一晩浸し、0.5㎜目の篩を通して水洗する。篩に残った試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実を抽出する。本試料は、植物利用の目的とすることから、別に1000ccを１㎜目の篩を通して水洗し、栽培植物の種実を対象に抽出する。

⑵　２号溝状遺構埋土

木片等の植物遺体が多量に混入する黒～暗灰色砂質土より土壌約1000g採取した後、水に３日浸す。試料を肉眼で観察し、木材を大きいものから100点を目安に抽出する。残試料を0.5㎜目の篩を通して水洗し、粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実を抽出する。

⑶　炭化物集中地点

試料524.8gを常温で３昼夜乾燥させる。試料を肉眼および双眼実体顕微鏡下で観察し、目に付いた炭化材や炭化物を拾い出す。水を満たした容器に試料を投入し、容器を傾斜させて浮いた炭化物を0.5㎜の篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後、容器を傾斜させ、浮いた炭化物を0.5㎜の篩に回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す。最後に、容器内の残土を0.5㎜目の篩を通して水洗する。

回収された炭化物と分析残試料を、粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実や２㎜角以上の炭化材などを抽出する。

上記の方法により検出された種実の形態的特徴を、現生標本および原色日本植物種子写真図鑑（石川 1994）、日本植物種子図鑑（中山ほか　2000）等と比較し、種類を同定し個数を求める。実体顕微鏡下の観察による判別が困難な複数の分類群は、ハイフォンで結び表示する。

分析後の種実は、種類毎に瓶に入れ、70%程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施して保管する。分析残試料は、袋に入れて保管する。

３．結　　果

結果を表２に示す。得られた植物遺体は、種実遺体、木材・炭化材、不明炭化物に分類される。１号井戸埋土（２・３層）では木片等は認められず種実遺体のみが検出される。２号溝状遺構及び炭化物集中地点からは、種実遺体とともに、木材、炭化材、不明炭化物が認められる。各試料の種実遺体及び木片、炭化材、不明炭化物の量比を計測した結果（表３）では、２号溝状遺構と炭化物集中地点は、種類数及び点数では種実遺体が圧倒的に多いが、重量及び容積では木片の占める割合が高い。種実遺体は、木本３分類群３個、草本32分類群1219個、計1222個

が検出され、栽培植物のイネ、アワーヒエ、オオムギ、コムギ、アサ、マメ類、シソ属、ナス科（一部の大型種子）、メロン類、ヒョウタン類が確認された。以下に、各遺構における検出状況と、種実の記載を述べる。

⑴　遺構別検出状況

・１号井戸２層

土壌200ccから、木本２分類群（クワ属、カジノキ属）２個、草本21分類群（イネ、ムギ類、イネ科、ホタルイ属、カヤツリグサ科、イボクサ、サナエタデ近似種、タデ属、アカザ科、スベリヒユ科、ナデシコ科、タガラシ、アブラナ科、キジムシロ属－ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属、マメ類、セリ科、イヌコウジュ属、シソ属、ナス科、タカサブロウ、キク科）422個、計424個が検出され、栽培植物のイネの胚乳１個、穎61個、ムギ類１個、マメ類１個、シソ属２個、ナス科10個が含まれる。さらに、土壌1000ccからは、栽培植物のイネの胚乳３個、穎27個、コムギ１個、アサ９個、マメ類１個、シソ属７個、ナス科21個、メロン類１個が確認された。

・１号井戸３層

土壌200ccから、草本９分類群（イネ、イネ科、カヤツリグサ科、タデ属、アカザ科、ナデシコ科、シソ属、ナス科、タカサブロウ）98個が検出され、栽培植物のイネの胚乳１個、穎38個、シソ属１個、ナス科４個が含まれる。さらに、土壌1000ccからは、栽培植物のイネの穎13個、コムギ１個、ナス科８個が確認された。

・２号溝状遺構

土壌1000gから、木本１分類群（タラノキ）１個、草本16分類群（イバラモ属、ヘラオモダカ、オモダカ科、イネ、アワーヒエ、イネ科、ホタルイ属、カヤツリグサ科、イボクサ、タデ属、アカザ科、ナデシコ科、チドメグサ属、イヌコウジュ属、シソ属、ナス科）341個、計342個が検出され、栽培植物のイネの穎146個、アワーヒエ１個、シソ属10個、ナス科２個が含まれる。この他に、種類不明の種実が２個、木材が多量（100点以上）、炭化材が４点、木材組織が確認されない部位・種類共に不明の炭化物（不明炭化物）が微量（乾燥重量0.1g未満）検出された。

・炭化物集中地点

土壌524.8gから、草本17分類群（イネ、オオムギ、コムギ、ムギ類、ホタルイ属、カヤツリグサ科、サナエタデ近似種、タデ属、アカザ科、スベリヒユ科、ナデシコ科、タガラシ、キジムシロ属－ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属、シソ属、ナス科、ヒョウタン類、タカサブロウ）266個が検出され、栽培植物のイネの胚乳９個、穎130個、シソ属１個、ナス科27個、ヒョウタン類１個が含まれる。

種実以外では、木材が３点、炭化材が多量（乾燥重量10g）、不明炭化物が微量（乾燥重量0.1g未満）検出された。

⑵　種実の記載

検出された種実遺体の状態は、栽培植物のイネ、アワーヒエ、オオムギ、コムギ、ムギ類の胚乳、マメ類の種子が炭化している点を除くと、比較的良好である。以下に、本分析にて得られた種実の形態的特徴等を木本、草本の順に記す。

〈木本〉

・クワ属（*Morus*）　　クワ科

種子が検出された。黄褐色、三角状広倒卵体。一側面は狭倒卵形で、他方は稜になりやや薄い。長さ1.8㎜、径1.5㎜程度。一辺が鋭利で、基部に爪状の突起を持つ。表面には微細な網目模様がありざらつく。

・カジノキ属（*Broussonetia*）　　クワ科

種子が検出された。淡褐色、直方体状広倒卵体。一側面は狭倒卵形で、他方は稜になりやや薄い。径2.2㎜程度。基部に突起を持つ。表面には疣状の微細な隆起が散在する。

・タラノキ（*Araliaelata*（Miq.）Seemann）　　ウコギ科タラノキ属

核（内果皮）の破片が検出された。灰褐色、長さ２㎜、幅1.3㎜程度の半月形でやや偏平。破片の大きさ1.5㎜程度。腹面はほぼ直線状で、片端に突起が見られる。背面には数本の浅い溝が走る。表面はざらつく。

〈草本〉

・イバラモ属（*Najas*）　　イバラモ科

種子が検出された。茶褐色、針状長楕円体。長さ2.2㎜、径0.7m程度。両端は細く尖る。種皮は薄く透き通り、

表面には縦長の網目模様が配列する。

・ヘラオモダカ（*Alismacanaliculatum* A.Br.etBouche）　オモダカ科サジオモダカ属

果実が検出された。淡褐色、楕円形で偏平、基部は切形。長さ２㎜、幅１㎜程度。背部に深い縦溝が１本走る。果皮はスポンジ状で柔らかく、中の種子が透けてみえる。種子は茶褐色、倒Ｕ字状に曲がった円柱状で偏平。径１㎜程度。種皮は膜状で薄くやや透き通り柔らかい。表面には微細な網目があり縦筋が目立つ。

・オモダカ科（Alismataceae）

種子が検出された。茶褐色、倒Ｕ字状に曲がった円柱状で偏平。径1.5程度。種皮は膜状で薄くやや透き通り柔らかい。表面には微細な網目があり縦筋が目立つ。上述のヘラオモダカなどの果実が欠損し、種子のみが残存したものと思われる。

・イネ（*Oryzasativa* L.）　イネ科イネ属

胚乳と穎（果）の破片が検出された。長楕円形でやや偏平。長さ4.5～6.5㎜、幅２～３㎜、厚さ1.5㎜程度。胚乳は炭化しており黒色を呈す。一端に胚が脱落した凹部があり、表面はやや平滑で、２～３本の縦溝がみられる。表面に穎の破片が付着している個体がみられた。穎は淡褐色、炭化個体は黒色。基部に円柱状斜切形の特徴的な果実序柄がある。穎は薄く、表面には顆粒状突起が規則的に縦列する。

・アワーヒエ（*Setariaitarica*（L.）P.Beauv.－*Echinochloautilis* OhwietYabuno）　イネ科

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。広楕円体でやや偏平。径1.2㎜程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部に胚の凹みがある。表面には内外穎が付着している個体がみられた。アワ、ヒエは、走査型電子顕微鏡下による内外穎の観察による区別が可能であるが（松谷．1980；2000など）、検出された胚乳は遺存状態が悪く、表面に穎が付着した個体は認められなかった。

・オオムギ（*Hordeumvalgale* L.）　イネ科オオムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。紡錘状長楕円体で頂部や基部がやや尖る。長さ６㎜、径2.5～3.5㎜程度。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。

・コムギ（*Triticumaestivum* L.）　イネ科コムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。楕円体でオオムギよりも小型で丸みを帯びている。長さ3.5～４㎜、径2.5㎜程度。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。なお、頂部を欠損するなど遺存状態が悪く、オオムギとの判別が難しい個体を、ムギ類とした。

・イネ科（Gramineae）

果実が検出された。上述のイネ、アワーヒエ、オオムギ、コムギ以外の形態上差異のある複数の種を一括した。淡～黄褐色、半挟卵体でやや偏平。長さ２～３㎜、径0.5～1.5㎜程度。果皮は薄く柔らかくて弾力がある。表面には微細な網目模様が縦列する。

・ホタルイ属（Scirpus）　カヤツリグサ科

果実が検出された。黒褐色、片凸レンズ状の広倒卵形。長さ1.5～２㎜、径1.5㎜程度。背面はやや高く稜がある。頂部は尖り、基部から伸びる逆刺を持つ髭状の腕が残る。表面は光沢があり、不規則な波状の横皺状模様が発達する。

・カヤツリグサ科（Cyperaceae）

果実が検出された。ホタルイ属以外の形態上差異のある複数の種を一括した。淡～茶褐色。三稜またはレンズ状倒卵体。径1～2㎜程度。頂部の柱頭部分がわずかに伸びる。表面には微細な網目模様がありざらつく。スゲ属（*Carex*）と思われる個体を含む。

・イボクサ（*Aneilemakeisak* Hassk.）　ツユクサ科イボクサ属

種子が検出された。灰褐色、半横長楕円形。径1.5～３㎜程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。臍は線形で腹面の正中線上にあり、胚は一側面の浅い円形の凹みに存在する。種皮は柔らかく、表面は円形の小孔が多数存在する。

・アサ（*Cannabissativa*L.）　クワ科アサ属

種子の破片が検出された。灰褐色、三角状広倒卵体でやや偏平。長さ４㎜、幅３㎜、厚さ2.5㎜程度。縦方向に一周する稜に沿って半分に割れた個体がみられる。基部には淡褐色、径１㎜程度の楕円形の臍点がある。種皮表面には葉脈状網目模様がある。

・サナエタデ近似種（*Polygonum*cf.lapathifoliumL.）　タデ科タデ属

果実が検出された。黒褐色、円形で偏平な二面体。径２～2.5㎜程度。両面中央はやや凹む。頂部はやや尖り、２花柱が残存する個体もみられる。基部からは花被の脈が伸び、花被の先は２つに分かれ反りかえる。果実表面は平滑で光沢がある。

・タデ属（Polygonum）　タデ科

果実が検出された。サナエタデ近似種以外の形態上差異のある複数の種を一括した。黒褐色、三稜状卵～広卵体でやや偏平。長さ2.5～３㎜、幅２㎜程度、両面正中線上に縦方向の稜があり、表面には明瞭な網目模様がありざらつく、ヤナギタデ（*Polygonumhydropiper*L.）に似る個体を含む。

・アカザ科（Chenopodiaceae）

種子が検出された。黒色、円盤状でやや偏平。径１㎜程度。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が同心円状に配列し、光沢が強い。

・スベリヒユ科（Portulacaceae）

種子が検出された。黒色、腎臓状円形でやや偏平。径0.7㎜程度。一端が凹み、臍がある。臍には種柄の一部が残る。種皮表面には鈍円錐状突起が密生する。

・ナデシコ科（Caryophyllaceae）

種子が検出された。茶褐色、腎状円形でやや偏平。径１㎜程度。基部は凹み、臍がある。種皮は薄く柔らかい。種皮表面には、臍を取り囲むように瘤状突起が同心円状に配列する。

・タガラシ（*Ranunculussceleratus*L.）　キンポウゲ科キンポウゲ属

果実が検出された。広楕円形でやや偏平。径1.1㎜、厚さ0.5㎜程度。縁は黄白色のスポンジ状で、中心部はやや凹み淡黄褐色で表面は粗面。水に浮きやすい。

・アブラナ科（Cruciferae）

種子が検出された。赤褐色、楕円形で偏平。長さ１㎜、幅0.7㎜程度。基部は切形で、両面の同一側には臍点から頂部へ伸びる１個の浅い溝がある。種子表面には微細な網目模様がある。

・キジムシロ属－ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属（*Potentilla－Duchesnea－Fragaria*）　バラ科

核（内果皮）が検出された。淡灰褐色、腎形でやや偏平。長さ１㎜、幅0.5㎜程度。内果皮は厚く硬く、表面は微細な網目模様がありざらつく個体や、粗面で２～４個の隆条が斜上する個体がみられる。

・マメ類（Leguminosae）　マメ科

種子が検出された。炭化しており黒色を呈す。長楕円体で長さ４～５㎜、径２～3.5㎜程度。子葉の合わせ目から半分に割れた１個と、完形１個で、完形個体には子葉の合わせ目上に長楕円形で縁が隆起する細長い臍がみられる。種皮表面はやや平滑で光沢があるが、焼け膨れ、崩れている。

遺跡出土の炭化マメ類は、子葉内面の幼痕や初生葉の形態から、ササゲ、アズキ、リョクトウなどを判別する試みが行われている（吉崎　1992）が、野生種との雑種も多いことから形態のみから現在の特定の種類に比定することは難しいとも考えられている（南木　1991、南木・中川　2000など）。近年では、DNA分析による判別が開発されつつある（矢野　2002）。本分析にて検出されたマメ類は、遺存状態が悪いことから現時点では形態のみによる種類の特定は控えている。

・カタバミ属（*Oxalis*）　カタバミ科

種子が検出された。黒褐色、卵形で偏平。長さ1.5㎜、幅１㎜程度。基部はやや尖る。種皮は薄く柔らかく、縦方向に裂けやすい。表面には４～７列の肋骨状横隆条が並び、わらじ状を呈す。

・チドメグサ属（*Hydrocotyle*）　セリ科

果実が検出された。黄褐色、半月形でやや偏平。径1.2㎜程度。一端には太い柄があり、合生面は平坦。果皮は厚く、やや弾力がある。表面には１本の明瞭な円弧状の稜がある。

・セリ科（Umbelliferae）

果実が検出された。黄褐色、楕円体でやや偏平。長さ２～2.5㎜、幅２㎜、厚さ0.5㎜程度。果実はスポンジ状で、表面には数本の幅広い稜があり、その間に半透明で茶褐色の油管が配列する。

・イヌコウジュ属（*Mosla*）　シソ科

果実が検出された。淡～黒褐色、倒広卵体。径1.2～1.5㎜程度。基部には臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。

・シソ属（*Perilla*）　シソ科

果実が検出された。茶褐色、倒広卵体。径1.6㎜～２㎜程度で、径1.8㎜以上のエゴマ（*Perillafrutescens*（L.）Britt.var.*japonica*Hara）を含む可能性がある。果実基部には大きな臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。

・ナス科（Solanaceae）

種子が検出された。淡～茶褐色、歪な腎臓形で偏平。径1.3～3.5㎜程度と大きさの異なる複数の種を一括した。種子は基部のくびれた部分に臍がある。種皮は薄く柔らかく、表面は微細な星型状網目模様が臍を中心として同心円状に発達する。大型の種子は、栽培植物に由来する可能性がある。

・メロン類（*Cucumismelo*L.）　ウリ科キュウリ属

種子が検出された。淡灰褐色、狭倒皮針形で偏平。長さ6.7㎜、幅４㎜程度で、藤下（1984）の基準によるマクワ・シロウリ型の中粒種子（長さ6.1～8.0㎜）に該当する。基部に倒「ハ」の字形の凹みがある。表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。

・ヒョウタン類（*Lagenariasiceraria*Standl.）　ウリ科ヒョウタン属

種子の破片が検出された。淡灰褐色。長さ５㎜以上、幅８㎜、厚さ２㎜程度の倒広皮針形でやや偏平。頂部は角張る。明瞭な臍と発芽口がある基部を欠損する。種子表面はやや平滑で、両面外縁部の幅広く低い稜にある２本の縫線がみられる。

・タカサブロウ（*Ecliptaprostrata*（L.）L.）　キク科タカサブロウ属

果実が検出された。灰～茶褐色、倒三角形でやや偏平。長さ2.8㎜、径1.5㎜程度。両端は切形、背腹両面には瘤状突起が分布する。両側は翼状で、水に浮きやすい。

・キク科（Compositae）

果実が検出された。黒褐色、長さ２㎜、径0.8㎜程度の長楕円体でやや偏平。頂部は切形で円形の臍がある。果皮表面には微細な網目模様が配列し、ざらつく。タカサブロウの果実の翼部分が欠損したものと思われる。

４．考　察

⑴　植物利用

各遺構から検出された植物遺体の産状は、１号井戸から検出された植物遺体は全て種実遺体であるのに対し、２号溝状遺構及び炭化物集中地点からは種実遺体と共に木片や炭化材、不明炭化物が含まれるといった異なる様相を示した。また、後者の試料から検出された木片は、薄い板状を呈するものと棒状等を呈するものの２種類からなり、炭化材はいずれも微細片であった。特に、２号溝状遺構から出土した木片には樹種同定可能な試料も認められたことから、無作為に木片20点を選択し、その樹種構成について調査を行った（表４）。その結果、木片の大きさや形状による樹種構成の差異は認められなかったが、上述した木製品や井戸枠の樹種には認められなかったマツ属の木材が含まれるとともに、ヒノキ科が多い傾向が認められた。

一方、種実遺体では、栽培植物に着目すると、イネ、アワ、オオムギ、コムギ、アサ、マメ類、シソ属、ナス科（一部の大型種子）、メロン類、ヒョウタン類が検出された。このうち、イネ（１号井戸・２号溝状遺構・炭化物集中地点）、アワ－ヒエ（２号溝状遺構）、オオムギ（炭化物集中地点）、コムギ（１号井戸・炭化物集中地点）、マメ類（１号井戸２層）は、胚乳や種子が食用される種類である。また、アサ（１号井戸２層）は、種子が食用や

第４表　微細植物片分析結果（１）

	科名	属名	分類群（●:栽培植物）	学名	部位	篩の目	Ⅲ面 1号井戸 2層	Ⅲ面 1号井戸 2層	Ⅲ面 1号井戸 3層	Ⅲ面 1号井戸 3層	Ⅲ面 2号溝状遺構	Ⅳ面 炭化物集中地点
						試料名						
						土壌分析量	200cc	1000cc	200cc	1000cc	1000g	524.8g
							302.9g	1630.4g	402.7g	2006.7g		
						篩の目	0.5mm	1mm	0.5mm	1mm	0.5mm	0.5mm
木本	クワ科	クワ属		クワ属	Morus	種子	1	－	－	－	－	－
		カジノキ属		カジノキ属	Broussonetia	種子	1	－	－	－	－	－
	ウコギ科	タラノキ属		タラノキ	Araliaelata（Miq.）Seemann	核	－	－	－	－	1	－
草本	イバラモ科	イバラモ属		イバラモ属	Najas	種子	－	－	－	－	1	－
	オモダカ科	サジオモダカ属		ヘラオモダカ	AlismacanaliculatumA.Br.etBouche	果実	－	－	－	－	1	－
				オモダカ科	Alismataceae	種子	－	－	－	－	1	－
	イネ科	イネ属	●	イネ	OryzasativaL.	胚乳	炭化	1	3	1	－	－	9
						穎	炭化	24	3	10	－	121	127
						穎		37	24	28	13	25	3
		エノコログサ属－ヒエ属	●	アワ－ヒエ	Setariaitarica（L.）P.Beauv.－Echinochloautilis OhwietYabuno	胚乳	炭化	－	－	－	－	1	－
		オオムギ属	●	オオムギ	HordeumvalgaleL.	胚乳	炭化	－	－	－	－	－	5
		コムギ属	●	コムギ	TriticumaestivumL.	胚乳	炭化	－	1	－	1	－	2
		オオムギ属－コムギ属	●	ムギ類	HordeumvalgaleL.－TriticumaestivumL.	胚乳	炭化	1	－	－	－	－	3
				イネ科	Gramineae	果実		63	－	5	－	1	－
	カヤツリグサ科	ホタルイ属		ホタルイ属	Scirpus	果実		3	－	－	－	22	4
				カヤツリグサ科	Cyperaceae	果実		56	－	12	－	109	17
	ツユクサ科	イボクサ属		イボクサ	AneilemakeisakHassk.	種子		4	－	－	－	3	－
	クワ科	アサ属	●	アサ	CannabissativaL.	種子	破片	－	9	－	－	－	－
	タデ科	タデ属		サナエタデ近似種	Polygonumcf.lapathifoliumL.	果実		13	－	－	－	－	3
				タデ属	Polygonum	果実		4	－	1	－	4	1
	アカザ科			アカザ科	Chenopodiaceae	種子		21	－	22	－	13	39
	スベリヒユ科			スベリヒユ科	Portulacaceae	種子		9	－	－	－	－	3
	ナデシコ科			ナデシコ科	Caryophyllaceae	種子		124	－	13	－	10	15
	キンポウゲ科	キンポウゲ属		タガラシ	RanunculussceleratusL.	果実		1	－	－	－	－	－
	アブラナ科			アブラナ科	Cruciferae	種子		1	－	－	－	－	－
	バラ科	キジムシロ属－ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属		キジムシロ属－ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属	Potentilla－Duchesnea－Fragaria	核		26	－	－	－	－	3
	マメ科		●	マメ類	Leguminosae	種子	炭化	1	1	－	－	－	－
	カタバミ科	カタバミ属		カタバミ属	Oxalis	種子		－	－	－	－	－	1
	セリ科	チドメグサ属		チドメグサ属	Hydrocotyle	果実		－	－	－	－	4	－
				セリ科	Umbelliferae	果実		2	－	－	－	－	－
	シソ科	イヌコウジュ属		イヌコウジュ属	Mosla	果実		2	－	－	－	13	－
		シソ属	●	シソ属	Perilla	果実		2	7	1	－	10	1
	ナス科		●?	ナス科	Solanaceae	種子		10	21	4	8	2	27
	ウリ科	キュウリ属	●	メロン類	CucumismeloL.	種子		－	1	－	－	－	－
		ヒョウタン属	●	ヒョウタン類	LagenariasicerariaStandl.	種子	破片	－	－	－	－	－	1
	キク科	タカサブロウ属		タカサブロウ	Ecliptaprostrata（L.）L.	果実		16	－	1	－	－	2
				キク科	Compositae	果実		1	－	－	－	－	－
不明種実								－	－	－	－	2	－
木材								－	－	－	－	＞100	3
炭化材								－	－	－	－	4	10g
不明炭化物								－	－	－	－	＜0.1g	＜0.1g

第５表　微細植物片分析結果（２）

	試料名			Ⅲ面											Ⅳ面			備考
				１号井戸								２号溝状遺構			炭化物集中地点			
				２層				３層										
	土壌分析量			200cc (302.9g)			1000cc (1630.4g)	200cc (402.7g)			1000cc (2006.7g)	1000g			524.8g			
分類群（●:栽培植物）		部位	分析方法	0.5㎜目篩で全種実			栽培植物	0.5㎜目篩で全種実			栽培植物	0.5㎜目篩で全種実			0.5㎜目篩で全種実			完形種実１個あたり重量(g)
木本	クワ属	種子		1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.001
木本	カジノキ属	種子		1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.001
木本	タラノキ	核		－	－	－	－	－	－	－	－	1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	0.0009
草本	イバラモ属	種子		－	－	－	－	－	－	－	－	1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	0.0004
草本	ヘラオモダカ	果実		－	－	－	－	－	－	－	－	1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	0.0003
草本	オモダカ科	種子		－	－	－	－	－	－	－	－	1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	＜0.0001
草本	● イネ	胚乳	炭化	1個	＜0.1g	＜0.1cc	3個	1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	9個	＜0.1g	＜0.1cc	0.005
草本		穎	炭化・破片	24個	＜0.1g	＜0.1cc	3個	10個	＜0.1g	＜0.1cc	－	121個	＜0.1g	0.1cc	127個	＜0.1g	0.1cc	0.0001
草本		穎	破片	37個			24個	28個			13個	25個			3個			＜0.0001
草本	● アワーヒエ	胚乳	炭化	－	－	－	－	－	－	－	－	1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	0.0005
草本	● オオムギ	胚乳	炭化	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5個	＜0.1g	＜0.1cc	0.005
草本	● コムギ	胚乳	炭化	－	－	－	1個	－	－	－	1個	－	－	－	2個	＜0.1g	＜0.1cc	0.005
草本	● ムギ類	胚乳	炭化	1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	－	－	－	3個	＜0.1g	＜0.1cc	0.005
草本	イネ科	果実		63個	＜0.1g	0.1cc	－	5個	＜0.1g	＜0.1cc	－	1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	＜0.0001～0.005
草本	ホタルイ属	果実		3個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	22個	＜0.1g	＜0.1cc	4個	＜0.1g	＜0.1cc	0.001
草本	カヤツリグサ科	果実		56個	＜0.1g	＜0.1cc	－	12個	＜0.1g	＜0.1cc	－	109個	＜0.1g	0.1cc	17個	＜0.1g	＜0.1cc	＜0.0001～0.005
草本	イボクサ	種子		4個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	3個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	0.003
草本	● アサ	種子	破片	－	－	－	9個	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.02
草本	サナエタデ近似種	果実		13個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	－	－	－	3個	＜0.1g	＜0.1cc	0.001
草本	タデ属	果実		4個	＜0.1g	＜0.1cc	－	1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	4個	＜0.1g	＜0.1cc	1個	＜0.1g	＜0.1cc	0.001～0.01
草本	アカザ科	種子		21個	＜0.1g	＜0.1cc	－	22個	＜0.1g	＜0.1cc	－	13個	＜0.1g	＜0.1cc	39個	＜0.1g	＜0.1cc	0.0004
草本	スベリヒユ科	種子		9個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	－	－	－	3個	＜0.1g	＜0.1cc	＜0.0001
草本	ナデシコ科	種子		124個	＜0.1g	＜0.1cc	－	13個	＜0.1g	＜0.1cc	－	10個	＜0.1g	＜0.1cc	15個	＜0.1g	＜0.1cc	＜0.0001
草本	タガラシ	果実		1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.0003
草本	アブラナ科	種子		1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	＜0.0001
草本	キジムシロ属－ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属	核		26個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	－	－	－	3個	＜0.1g	＜0.1cc	0.0005
草本	● マメ類	種子	炭化	1個	＜0.1g	＜0.1cc	1個	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.005
草本	カタバミ属	種子		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1個	＜0.1g	＜0.1cc	0.0002
草本	チドメグサ属	果実		－	－	－	－	－	－	－	－	4個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	0.0002
草本	セリ科	果実		2個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.002
草本	イヌコウジュ属	果実		2個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	13個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	0.0004
草本	● シソ属	果実		2個	＜0.1g	＜0.1cc	7個	1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	10個	＜0.1g	＜0.1cc	1個	＜0.1g	＜0.1cc	0.001
草本	●? ナス科	種子		10個	＜0.1g	＜0.1cc	21個	4個	＜0.1g	＜0.1cc	8個	2個	＜0.1g	＜0.1cc	27個	＜0.1g	＜0.1cc	0.0002～0.005
草本	● メロン類	種子		－	－	－	1個	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.05～0.07
草本	● ヒョウタン類	種子	破片	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1個	＜0.1g	0.1cc	0.06～0.1
草本	タカサブロウ	果実		16個	＜0.1g	＜0.1cc	－	1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	2個	＜0.1g	＜0.1cc	0.0005
草本	キク科	果実		1個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	＜0.0001
不明種実				－	－	－	－	－	－	－	－	2個	＜0.1g	＜0.1cc	－	－	－	
木材				－	－	－	－	－	－	－	－	＞100個	115g	76cc＜	3個	1g	0.5cc	
炭化材				－	－	－	－	－	－	－	－	4個	＜0.1g	＜0.1cc	多量	10g	40cc	
不明炭化物				－	－	－	－	－	－	－	－	＜0.1g	＜0.1g	＜0.1cc	微量	＜0.1g	＜0.1cc	

注）種実１個あたりの重量は、中川ほか（2000）等を参考に求めた。

油料、繊維が衣料や縄用に、シソ属（エゴマなど）は果実が食用や油料に、ナス科（一部の大型種子）は果実等が食用等に、メロン類（１号井戸２層）は果実が食用に、ヒョウタン類（炭化物集中地点）は果実が食用や容器等に利用される種類である。

各遺構における種実遺体の検出状況を比較すると、１号井戸では２層から検出されたイネや雑穀類を除く分類群やその数量（200cc・0.5㎜篩い目）は３層よりも多く、３層から検出された分類群はいずれも２層に認められる分類群に含まれるといったことが指摘される。また、２号溝状遺構や炭化物集中地点から検出された種実も１号井戸２層と概ね同様な分類群によって構成される。また、各遺構から検出されたイネのうち、胚乳は炭化物集中地点・１号井戸から検出されたがその数量は少なく、一方、頴（炭化･未炭化を含める）は、試料300g（0.5㎜篩い目）当たりの数量では、炭化物集中地点が最も多く、次いで、１号井戸２層、２号溝状遺構、１号井戸３層となる。アワーヒエやオオムギ、コムギ、ムギ類、マメ類は、各遺構からの検出個数は少なく特徴を見出すに至らないが、アワーヒエを除く種類が炭化物集中地点から検出されたことや、マメ類が１号井戸２層からのみ検出されたことは注目される点である。また、これらの大部分は炭化した状態であるといった特徴も指摘されるが、その履歴や被熱の要因については今後の課題である。

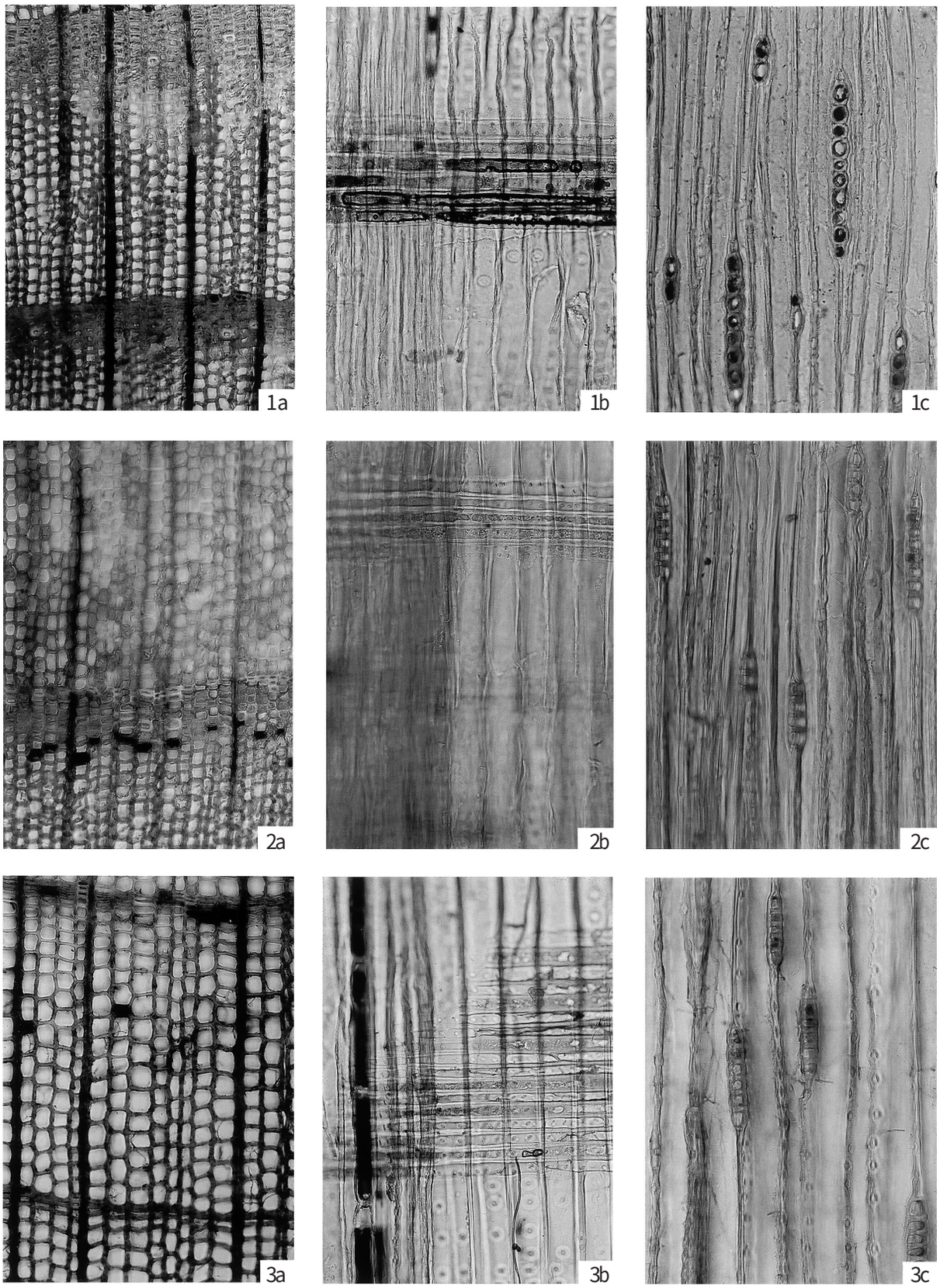
第６表　２号溝状遺構出土木片の樹種同定結果

遺構名	形状	大きさ（㎝）			樹　　種
		長さ	幅	厚	
２号溝状遺構	棒状	4.5	1.5	1.5	カラマツまたはトウヒ属
		5.0	3.5	3.0	ヒノキ科
		11.5	2.5	0.8	ヒノキ科
		17.0	1.5	0.9	トウヒ属
	板状	4.8	1.5	0.6	ツガ属
		5.3	2.7	0.5	マツ属複維管束亜属
		6.5	0.9	0.4	ヒノキ
		7.5	3.0	0.4	ヒノキ
		9.5	2.5	0.5	ヒノキ科
	薄板状	2.4	2.1	0.1	ヒノキ科
		3.5	1.5	0.1	ヒノキ科
		3.5	2.1	0.1	ヒノキ科
		4.5	1.2	0.2	カラマツまたはトウヒ属
		4.5	1.6	0.2	ヒノキ科
		4.7	0.7	0.1	トウヒ属
		5.0	1.6	0.1	ツガ属
		6.5	1.5	0.1	ヒノキ科
		7.0	2.0	0.2	ヒノキ科
		8.5	2.2	0.1	ヒノキ科
		13.5	1.5	0.1	ヒノキ科

⑵　古植生

本分析の結果、栽培植物を除く種実遺体分類群は、草本類を主体とする種類構成を示した。木本類のクワ属をはじめとして、カジノキ属やタラノキは、林縁部や疎林地等の明るい林地に生育する分類群である。また、多量検出された草本類は、人里近くに開けた草地を形成するいわゆる人里植物に属する種類を多く含むことから、調査区付近に生育していたものに由来すると考えられる。このうち、イネ科、カヤツリグサ科、サナエタデ近似種を含むタデ属、アカザ科、スベリヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、キジムシロ属－ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属、カタバミ属、チドメグサ属、セリ科、イヌコウジュ属、ナス科の一部、キク科などは、やや乾いたところに生育していたものに由来すると考えられる。イバラモ属、ヘラオモダカを含むオモダカ科、ホタルイ属の一部、イボクサ等の水生植物や、やや湿ったところに生える種類を含むカヤツリグサ科、タデ属の一部、タガラシ、セリ科、タカサブロウ等は、本遺跡内では井戸や溝付近に生育していたものに由来する可能性があるが、栽培植物であるイネが共に検出されていることを合せて考えると、稲作に伴う水田雑草に由来する可能性も考慮する必要がある。

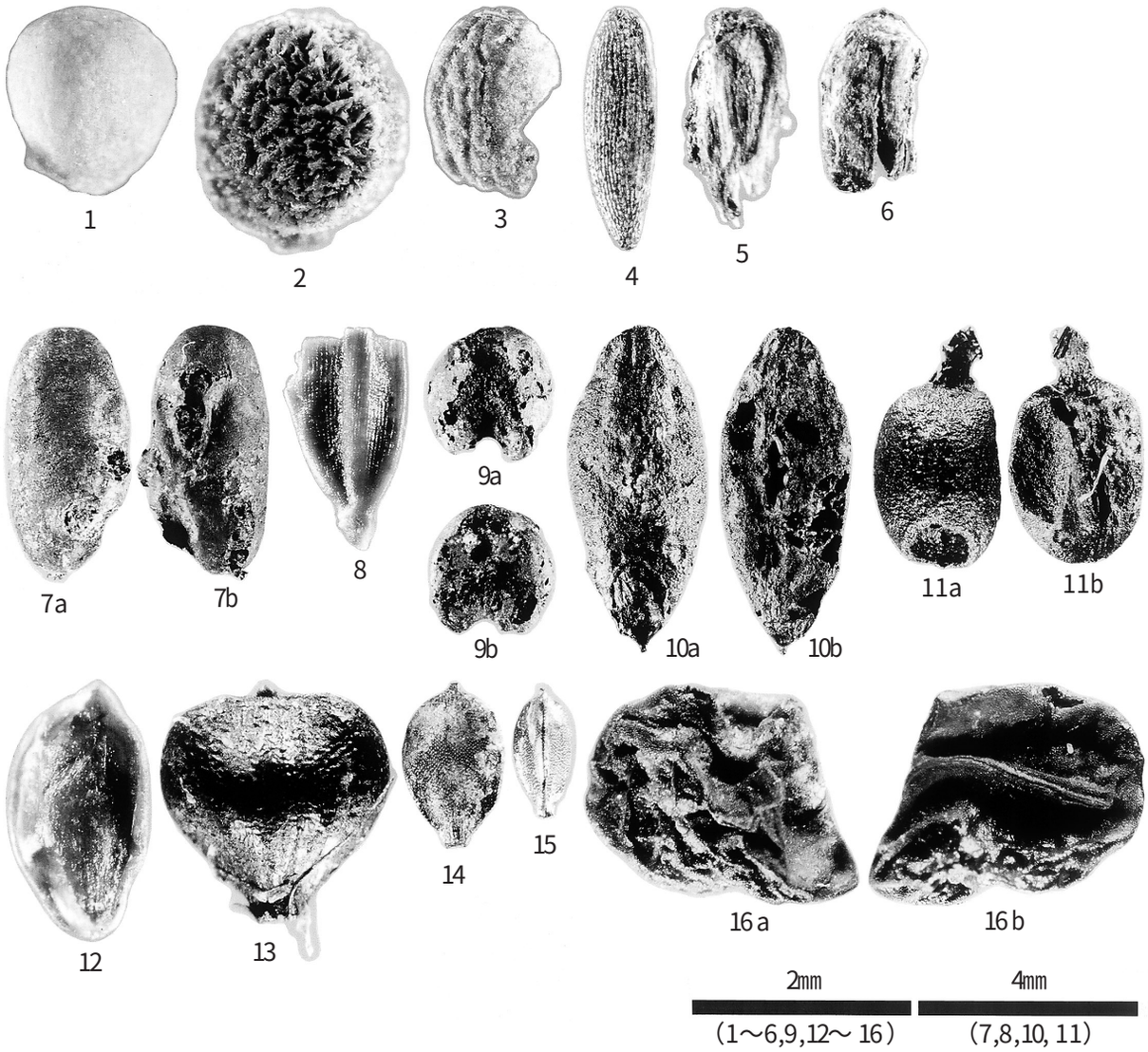
図版１　木材



1. ツガ属（1号溝：W57）
2. ヒノキ（1号溝：W56）
3. サワラ（1号溝：W36）
　a：木口, b：柾目, c：板目

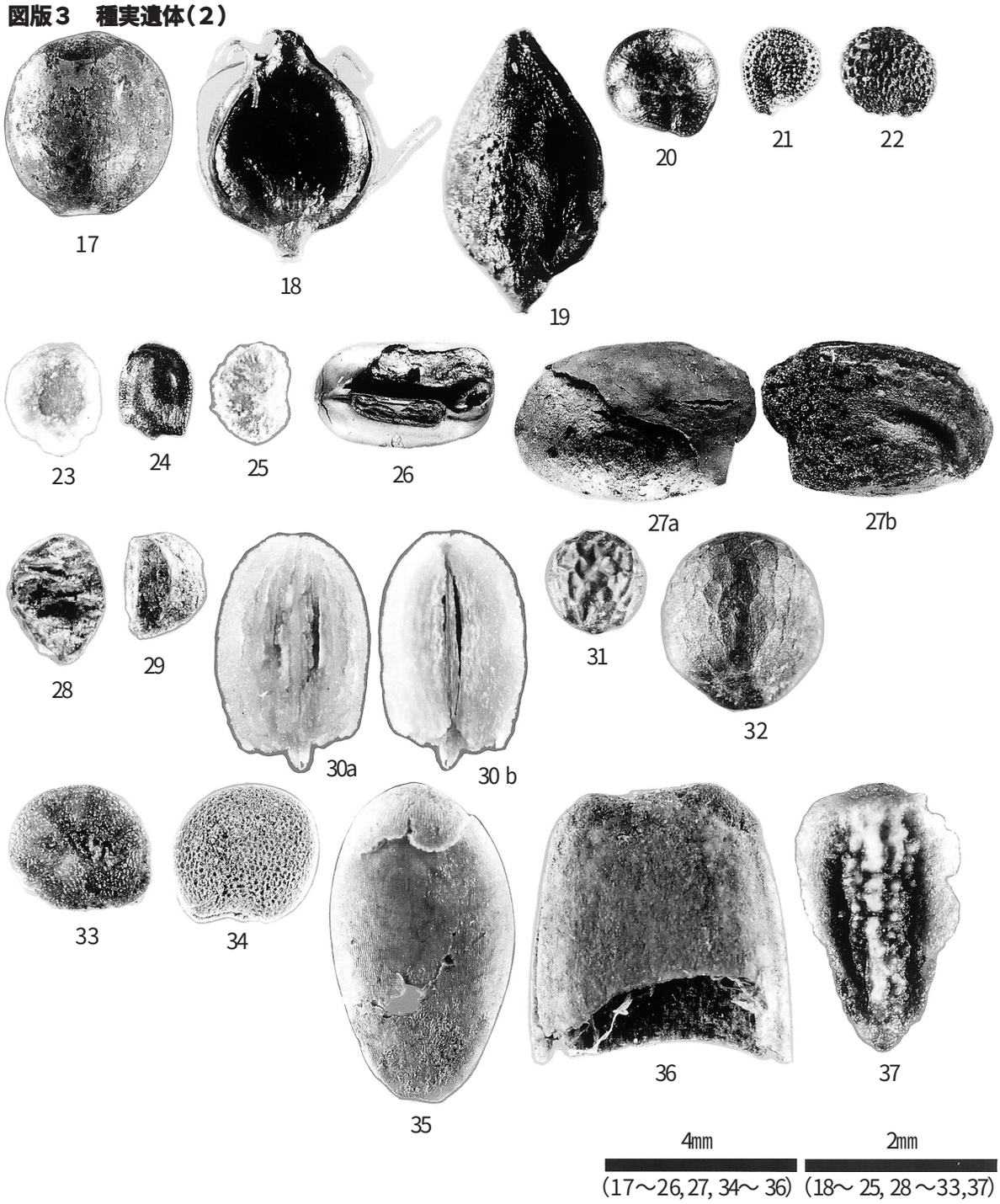
20 0μ m：a
10 0μ m：b,c

図版２　種実遺体（１）



1. クワ属種子（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
2. カジノキ属種子（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
3. タラノキ核（第Ⅲ面　2号溝）
4. イバラモ属種子（第Ⅲ面　2号溝）
5. ヘラオモダカ果実（第Ⅲ面　2号溝）
6. オモダカ科種子（第Ⅲ面　2号溝）
7. イネ胚乳（第Ⅳ面　2号溝）
8. イネ類（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
9. アワーヒエ胚乳（第Ⅲ面　2号溝）
10. オオムギ胚乳（第Ⅳ面　炭化物集中地点）
11. コムギ胚乳（第Ⅳ面　炭化物集中地点）
12. イネ科果実（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
13. ホタルイ属果実（第Ⅲ面　2号溝）
14. カヤツリグサ科果実（第Ⅲ面　2号溝）
15. カヤツリグサ科果実（第Ⅲ面　2号溝）
16. イボクサ種子（第Ⅲ面　1号井戸　2層）

図版３　種実遺体（２）



17. アサ種子（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
18. サナエタデ近似種果実（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
19. タデ属果実（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
20. アカザ科種子（第Ⅳ面　炭化物集中地点）
21. スベリヒユ科（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
22. ナデシコ科種子（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
23. ダガラシ果実（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
24. アブナラ科種子（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
25. キジムシロ属−ヘビイチゴ属−オランダイチゴ属　核（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
26. マメ類種子（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
27. マメ類種子（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
28. カタバミ属種子（第Ⅳ面　炭化物集中地点）
29. チドメグサ属果実（第Ⅲ面　2号溝）
30. セリ科果実（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
31. イヌコウジュ属果実（第Ⅲ面　2号溝）
32. シソ属種子（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
33. ナス科種子（第Ⅳ面　炭化物集中地点）
34. ナス科種子（第Ⅳ面　炭化物集中地点）
35. メロン類種子（第Ⅲ面　1号井戸　2層）
36. ヒョウタン類種子（第Ⅳ面　炭化物集中地点）
37. タカサブロウ果実（第Ⅲ面　1号井戸　2層）

第Ⅵ章　調査の成果と課題

第１節　遺構の変遷と地形の変化

ここでは、土層断面における構成土壌の変化を基に、遺構と地形の変遷をまとめたい。まず、平田宮第２遺跡が位置する下河東周辺であるが、弥生時代後期から平安時代にかけて微高地化したと想定される。最下層の遺構面である第Ⅳ面に伴う遺物は山梨県史編年による第Ⅵ期（10世紀前半）に位置づけられることから、第Ⅳ面下にある灰色砂層が弥生時代後期から９世紀段階までに相当すると考えられるが、侵食と堆積を繰り返しているため、限定するのは困難である。第Ⅳ面が畑であることから、居住地として適さないため生産域として最初に開発した可能性がある。

第Ⅳ面と第Ⅲ面の間には灰色砂層があるが、溢流氾濫（高木　1989）に伴う細粒土壌の堆積と考えられる。このため、一時的に畑が廃絶され、その後集落が展開したと想定される。旧玉穂町教育委員会第１次調査・中央市教育委員会第４次調査でも住居跡が確認されていることから、集落はある程度の広がりをもって微高地上に展開することが想定される。第Ⅲ面からは、第Ⅳ面と同じく第Ⅵ期（10世紀前半）に位置づけられる遺物が遺構の覆土中などから出土している。このため、畑から集落へは連続的に移行したと考えられる。また、遺物の時期に幅はないため10世紀前半に集落が営まれたと捉えられる。それまで畑であった場所に集落が展開した理由として様々な事項が考えられるが、その理由としては人口圧の拡大や居住形態の変化が挙げられる。山梨県においては、９世紀から10世紀にかけて住居跡の軒数が飛躍的に増大するため、10世紀は人口が増大する時期であると捉えられている（保坂　1997）。人口増以外にも季節的な居住を行うなどの居住形態の変化が起こったため住居軒数が増えたことも想定されるが、いずれにせよ従来集落として適さなかった場所を選択していることは、大きな画期であると言える。

第Ⅲ面から第Ⅱ面の間には、遺物包含層である黒灰色砂質土層と黒色腐植土層がある。第Ⅲ面の上に黒灰色砂質土層が位置するが、土層の断面観察から第Ⅲ面の構成土壌である暗灰褐色土層とは分化される。また、この面からは遺構は確認されず、多くの破片資料が出土する。集落が廃絶した後に、遺物が流されて形成された土層だと考えられる。黒色腐食土層には多くの植物遺体が含まれ、周囲が低湿地化したことを示している。

第Ⅱ面からは多数の株痕が確認され、畦畔状立ち上がりが１ヶ所認められたため水田跡と認定した。しかし、土壌はいわゆるグライ化したものではなく、その土壌は第Ⅰ面の水田と大きく異なる。

第Ⅰ面の水田跡は平田宮第２遺跡の範囲内だけではなく、東側に位置する上窪遺跡まで広がっていることから、大規模な土地開発－荘園化が背景にある可能性を有す。第Ⅰ面の上にはシルト層ないしは砂礫層が堆積している。砂礫層はシルト層を切る形で堆積しており複数の単位に分層できるが、その層厚は１mにも及ぶ。この砂礫層は樹枝状に発達した小河川による氾濫・侵食と考えられる。また、第Ⅰ面より上には、部分的に植物遺体を含むシルト層が確認されたものの、面的な広がりは認められなかった。周辺の遺跡立地と比較すると、鎌倉時代以降は微高地の上に居住地を設ける傾向が強くなる。これは気候の変化が背景にあると考えられ、河川の氾濫による土砂堆積が繰り返されたため、平田宮第２遺跡は放棄されたのかもしれない。

第２節　検出された遺構

１．水　　田

平田宮第２遺跡においては２枚の水田面が検出されており、第Ⅰ面が上窪遺跡第２次調査の第１水田面・第Ⅱ面が上窪遺跡第２次調査の第２水田面と対応している。水田開発の起源は第Ⅱ面となるが、その年代については、旧玉穂町教育委員会による報告がある（今村　2003・2005・2006）。上窪遺跡の調査に伴い行われたAMS年代測定によると、第Ⅱ面の下に位置する黒色腐食土層の年代は1021～1040AD・1110～1116AD・1141～1151ADという値が得られている。これに対し、第Ⅰ面に対比される水田面の年代は1025～1061AD・1086～1123AD・1138～1156ADであることから、第Ⅰ面と黒色腐食土層は年代の差異がさほどなく、腐植土層の形成から２枚の

水田面が構築された段階まで連続的に推移したことが推定できる。第Ⅱ面の下に位置する腐植土層の形成は地下水位上昇などに起因する低湿地化を示しているが、湿地帯と化した地域を生産域として開発した結果、水田面が形成されたと考えられる。第Ⅱ面について、１）土壌がグライ化していない、２）畦畔の数が少ないことなどの点が水田面の認定に係わる否定的な要素であるが、１）土層断面の観察により第Ⅱ面の上下層を明瞭に分層できること、２）第Ⅱ面に伴い多数の植物遺体が検出されていることなどから第Ⅱ面が旧地表面であることは明確で、植物遺体が切り取られていることからも人為が媒介している土地であると言える。ただし、第Ⅰ面と比較すると水田面としての規格性・生産性は高いとは言えない。このことから、第Ⅱ面は湿地帯を水田として開拓する過程の面と位置づけられる。つまり、水田開発としての変遷を考えると、第Ⅱ面において床土はグライ化しておらず、低湿地的な要素を残存した状況で水田耕作を行い、第Ⅱ面を発展させて本格的な水田を構築した可能性を有す。

第Ⅰ面の水田跡は県内で検出された水田規模の比較により、年代測定値より若干新しくなる可能性を有しており、平安時代後半～鎌倉時代の年代幅で捉えられる。また、上窪遺跡に同時期の水田面が検出されており、その範囲は南北500m以上・東西400mと予想されている（今村　2003・2006）。旧玉穂町教育委員会による調査成果と比較すると、南北方向に主軸を持つＥ－１・２とＧ－１グリッドに位置する畦畔が旧玉穂町教育委員会による第１次調査で検出された畦畔へ連続することが分かる。Ｂ－２グリッドにある東西方向の畦畔が短く、南北に主軸を持つ畦畔とつながっていないことから、南北方向に主軸を持つ畦畔を基軸としており、東西方向の畦畔で区画したと言える。水田面には基本的にはシルト層が堆積しているが、Ｄ－１・２グリッドの水田面上には粗砂層が堆積している。この粗砂層はシルト層を切っており、旧玉穂町教育委員会が実施した第１次調査で検出された中世流路と堆積状況が近似する。この粗砂層と中世流路は対応するのか、または中世流路は調査区の西側を流れており、粗砂層との関連性はないのかという点について、調査の進展を待ちたい。

水田面が廃絶した要因は、河川の氾濫により水田層の埋没が原因となり、使用されなくなったことが想定される。ただし、第Ⅰ～Ⅳ面の間にはシルト層・細砂層しか確認されていないのに対し、第Ⅰ面より上位には粗砂・砂礫層が厚く堆積していることから、平安時代と中世では供給される河川堆積物に変化が生じたことが指摘される。水田が廃絶した年代について考える資料は少ないが、上窪遺跡第２次調査において第Ⅰ面と対応する第１水田面の60㎝上に室町時代の遺構面が確認されていることから、14世紀後半頃には完全に機能を失ったと推定できる。水田が埋まった時期についてであるが、水田面の上において株痕の他に植物遺体の痕跡がないことから、収穫を終えてから田植えが行われる間に廃絶されたことが分かる。

また、第Ⅰ面の水田面からは株痕（植物遺体）が出土した。株痕は水田面全体に分布するものの、Ｃ－１・２、Ｄ－２グリッドに集中的に検出された。株痕が集中する範囲における分布をプロットしたのが、第５図である。分布図によると、株痕は一列には並んでいない。しかし、畦畔や地形の傾斜の走向に平行するように分布が集中する傾向も窺える。植物遺体の残存状況は極めて良好であるので、種別の同定を検討したが、根の部分しか残存していないため、同定はできなかった。残されている根の部位は傘状を呈しており、地表面から１㎝程度の位置でほぼ全て刈り取られている。長さが同じ位置で刈り取られていることや、水田面上に残されていることは稲株であることを示唆しているが、休耕田に繁茂した植物の可能性もあることから、稲株とは断定できない。

第Ⅱ面の水田面からも株痕が検出された。株痕は第Ⅰ面で検出された株痕と同じく、根しか残存していないため、種別同定は困難である。根の構造が傘状を呈していることなど、第Ⅰ面出土株痕との類似性は指摘できるが、平面的な分布はランダムである。また、第Ⅰ面の株痕が規格的に刈り取られているのに対し、第Ⅱ面の株痕は地面から２～３㎝の位置で刈り取られているものが最も多いが、中には10㎝程度の位置で刈られているのもある。

第１節で述べたように、第Ⅰ面の水田跡は広範囲に広がっていることから、荘園の存在が想定される。旧玉穂町近辺はいくつかの荘園の比定地とされているが、平田宮第２遺跡・上窪遺跡の発掘調査によって検出された平安時代後半～鎌倉時代の水田跡との年代の対比と立地から鎌田荘・布施荘である可能性を指摘できる。

鎌田荘は『中右記』の保延３年（1137）・「八条院領目録」の安元２年（1176）などに記録されている（秋山2003）。このため、荘園が機能していたとされる文献の年代と遺構の年代は並行関係にあると言って良い。ただ、遺構の年代と隔たりはあるが、甲府市宮原町の宇波刀神社に伝わる享徳４年（1455）の棟札に見える「鎌田八郷」

として宮原・高室・上中島（窪中島）・阿荒（紙漉阿原）・ヲシコシ（押越）・中立（中楯）・西荒（西新居）・古市場などの地名が残されているが、下河東が含まれていない（角川日本地名大辞典　1984）。下河東は近世より使用される地名であり、平安時代後半～鎌倉時代には当該地は西新居の中に入っていたのかもしれないが、立地的に成嶋の方に近いことや、近世の「鎌田之庄拾四ヶ村」にも下河東は含まれていないことは、鎌田荘比定地であるかどうかについての否定的な要素である。このことから、遺跡が位置する下河東北側が荘内に含まれたかどうかは検討を要する。また、布施荘は文献上で11世紀～16世紀まで確認できるが、その荘域については不明である。田富町布施を中心として、旧玉穂町域の上三条・下三条・平田宮第２遺跡が所在する下河東まで布施荘が展開していた可能性も否定できない。

いずれにせよ、平安～中世段階に比定される遺構・遺物が平田宮第２遺跡・上窪遺跡から確認されているため、下河東地域が古代・中世においてどのように呼称され、範囲がどこまでなのかを検討することが課題である。

２．竪穴建物跡

第Ⅲ面の集落跡から１軒検出された。調査区の中央、Ｄ・Ｅ－２グリッドに位置している。５・６号土坑、６・８・19・20号溝状遺構と重複している。切り合い関係より、６・８・19・20号溝状遺構→１号竪穴建物跡→５・６号土坑の順に構築されたことが分かる。平面形は長方形プランであり、長軸３m×短軸2.48mを測る。床面について、貼床・硬化面は確認されていない。壁溝・柱穴・棚状遺構などの施設も検出されなかった。明確な構造を持つカマドは確認されていない。ただ、南東コーナーに炭化物・遺物の集中と地山・覆土とは異なる褐色の土壌（客土）がある。また、旧玉穂町教育委員会第１次調査と同じく、床面の直上からは炭化物層が認められる。覆土に包含される遺物から山梨県史編年による第Ⅵ期（10世紀前半）に位置づけられる。遺物の出土点数は133点であり、土師器130点（坏35点・皿１点・甕23点・置きカマド１点・不明70点＜坏・皿類63点・甕類７点＞）、須恵器１点、灰釉陶器２点が出土しており、図化できたものは６点である。これらの遺物の内、墨書土器１点が出土している。

３．井　　戸

第Ⅲ面の集落跡から１基検出された。調査区の西側、Ｃ－２グリッドに位置している。11号土坑と重複しているが、切り合い関係より、１号井戸→11号土坑の順に構築されたことが分かる。掘り方の平面形は楕円形を呈し、掘り込みは２段になっている。外側の掘り込みは長軸2.4m×短軸2.1m、底面までの深さ80～90㎝、内側の掘り込みは長軸１m×短軸0.8m、底面までの深さ１mを測る。井戸の形態は鐘方正樹による分類によると曲物組型とされる（鐘方　2003）が、上部に方形の木枠を有する点で異なる。井戸の構築法としては、１）掘り方の掘削、２）内側の穴に曲物を設置、３）杭の打設、４）木枠の設置、５）曲物と木枠の間に礫などを充填、６）木枠外側に土壌を充填など、いくつかの段階に分けられる。この内、曲物の設置に関しては、１）曲物を一段ずつ重ねる、２）曲物内面にケビキを施す、３）樹皮で６段の曲物を綴る、の手順で進めたと考えられる。また、木枠の設置については、１）杭の打設、２）板材の設置、３）横木の埋設などの作業が考えられる。杭の下場を比較すると、掘り方の底面までのものと、曲物の確認面までのものに分けられるため、それぞれ打設された段階が異なると推定される。また、南側の木枠のみ２重になっており、内側の板材が下に設置されていることから、井戸の構築段階において必要に応じて板材を加えたことが分かる。木枠の設置については､内側の掘り方における北東･北西・南東・南西にそれぞれ杭を打設し、杭と曲物の位置関係から板材を設置し、その補強材として横木を埋設したと言える。井戸は深さ１m程であり、水が湧き出る礫層に到達した段階で掘削を止めている。集落が展開する第Ⅲ面は河川に近く、地下水位が高い場所に立地していたことや、曲物と木枠の間に礫などを充填していることから、浄水的な性格を持っていたのかもしれない。

井戸が廃絶した要因であるが、土層断面を観察すると、板材を多く含む１層と曲物内部の２層は様々な土壌粒子が混ざっていることなどから、人為的に埋め戻した土壌であると判断される。特に１層においては、東西南北の板材が内側に倒壊する様相を呈する。これは井戸の放棄に伴い、意図的に板材を破壊した結果であると考えら

れる。この行為には井戸の廃絶に係わる祭祀的な意図も含まれているのかもしれない。また、木枠内の土壌（１層）と曲物内部の土層（２層）は分層され得るため、廃絶に伴う埋め戻しも２段階に区分される。

井戸に伴う祭祀行為としては、曲物と木枠内部に遺物が出土したため、いくつかの段階が想定し得る。まず、井戸の構築時に係わる遺物としては、曲物の最下層にある27層より壺（第20図14）が検出された。曲物内からは土師器４点が出土した。特に第20図５～８は内外面が煤けている。井戸の廃棄時の遺物として、曲物の確認面より底板が出土した。底板には樹皮による綴り痕が１ヶ所確認される。

井戸の覆土に包含される遺物から山梨県史編年による第Ⅵ期（10世紀前半）に位置づけられる。遺物の出土点数は154点であり、土師器149点（坏56点・皿５点・甕２点・不明86点＜坏・皿類85点・甕類１点＞）、須恵器５点が出土しており、図化できたものは14点である。墨書土器が２点（第20図９・11）、刻書土器が１点（第20図10）出土している。また、石製品が２点（第35図１・２、第３節５項参照）出土している。

今回検出された井戸は平安時代中頃（10世紀前半）に位置づけられるが、山梨県内において奈良・平安時代における曲物・木枠を使用した井戸は若干ではあるが確認されている。笛吹市境川町に所在する石橋条里制遺跡第Ⅰ地点からは曲物を用いた井戸が２基検出されている（森・雨宮　1984）。この内、３号井戸状遺構は８世紀後半から９世紀前半に位置づけられ、井戸の周囲には掘立柱建物跡・柱穴群が存在する。井戸の掘り方は長円形であり、３段の曲物が重ねられている。４号井戸状遺構は掘立柱建物跡の間にあり、奈良・平安時代に位置づけられる。一段の曲物の外側に石を積み上げて井戸を構築している。

石橋条里制遺跡第Ⅰ地点の井戸は曲物のみで木枠はなく、その内１基において曲物の周囲に石積が確認される。対して、今回検出された平田宮第２遺跡の井戸は曲物の他に木枠を伴い、石積がない点で差異がある。また、未報告であるが平成18年度に中央市教育委員会によって行われた平田宮第２遺跡の第４次調査によって、第Ⅲ面に比定される面から、木枠を伴う井戸が１基確認されている。

４．土　　坑

第Ⅲ面の集落跡から11基検出された。機能を推定できる材料は少ないが、土坑の深さを比較すると、５・７号土坑、１・４・10・11号土坑、２・６・８・９号土坑が類似する。土坑内の遺物については、７号土坑から22点、２号土坑から９点、１・５・６・11号土坑から５点以下の遺物が出土した。７号土坑からは遺物が多く検出されており、墨書土器が２点（第21図　７号土坑２・３）検出されている。土坑の中に柱穴状のものは確認されていないが、２号土坑の東端からは木杭が検出された。

５．溝状遺構

第Ⅲ面の集落跡から20条検出された。溝状遺構は平面形状から、類型１）複数の直線・曲線的な溝が連結しているものと、類型２）直線状の溝という２つのタイプに分けられる。（この内、２号溝状遺構は類型１に分類されるが、交わった溝の角度が直角に近いことから、区画を示すものである可能性が強い）また、１号溝状遺構も２号溝状遺構ほど典型的な形状ではないものの、数条の溝が連結していることから類型１に分類される。１号溝状遺構からは、南北方向と東西方向の溝が交わる付近で完形に近い個体資料と共に斎串状木製品が集中して出土しており、何らかの祭祀行為を行っていることが分かる。１・２号溝状遺構の軸線方向を他の遺構面と比較すると、第Ⅳ面の畝状遺構の長軸方向と近似するものの、第Ⅰ面の畦畔とは軸線がずれる。これは、土地利用法の変化と共に土地区画の軸線が変わったことを示唆するのかもしれない。１号溝状遺構の出土点数は140点であり、土師器139点（坏34点・皿３点・甕14点・不明88点＜坏・皿類81点・甕類７点＞）・灰釉陶器１点が出土している。図化できたものは、この内10点である。２号溝状遺構の出土遺物37点は全て土師器（坏７点・甕４点・不明26点＜坏・皿類26点＞）である。

類型２の直線状の溝は、１）幅狭・２）幅広・３）最大長が短いものに分けられる。幅狭の溝として１～３・５～12・15～20号溝状遺構、幅広の溝として14・19号溝状遺構、最大長が短いものとして４・13号溝状遺構が挙げられる。14号溝状遺構から35点、19号溝状遺構から42点、３・５・６・10・11・12・13・15・16・17・

18・20号溝状遺構からは10点以下の遺物が出土した。

また、１号溝状遺構は覆土中、10号溝状遺構は底面から炭化物層の集積が確認されており、その成因が注目される。特に１号溝状遺構は、溝状遺構底面から斎串状木製品が出土し、その上層である黒色土層（炭化物の集積層）上から土師器が確認されている。つまり、祭祀行為の単位が２回に分化され、間に炭化物の集積層を含む様相を呈する。

６．畝状遺構

第Ⅳ面の畑跡から17条検出された（畝間の凹地をカウントした）。この内、11基は南北方向、６基は東西方向に主軸を持っている。畝状遺構の深さを比較すると、南北方向に主軸を持つものの方が深い傾向にある。

旧玉穂町教育委員会による第１次調査と比較すると、南北・東西の主軸方向はほぼ同一である。ただ、調査面積の問題から、畝状遺構の走向に係わる法則性は明らかにできなかった。走向の異なる畝状遺構の配置に規格性があるのかどうかという点は、畑の単位を考える上で重要であり、畑の単位が所有者の差異を反映しているのかどうかを考える上でも示唆となる点だと言える。畑が廃絶した年代は、第Ⅳ面出土の遺物から、10世紀前半に位置づけられる。畑の面から、墨書土器が２点出土した（第22図　第Ⅳ面４・５）

また､上窪遺跡の成果と比較してみると､第Ⅳ面は上窪遺跡の第３水田面と対比される（今村　2006）。つまり、10世紀前半における下河東地域は低地に水田・微高地に畑を営むよう地形により選択していることが理解されるが、この背景として広域的な土地利用のあり方が推察される。

10世紀前半における水田は、市河荘の比定地を旧玉穂町北側に求める議論に肯定的な印象を与える材料である。確かに､『法勝院領目録』の安和２年（969）に市河荘が記載されており、水田面の年代は10世紀前半に比定されるため、年代面での問題はない。しかし、一条小山を基点とした条里の復元によると、昭和町紙漉阿原から玉穂町中楯付近までであり、下河東まで及ばない。また、上窪遺跡の第２水田面と第３水田面の間に50㎝程の土壌の堆積があることから、水田面が一時的に断絶したことを想定しなければならない。

いずれにせよ、上窪遺跡第３水田面が市河荘に比定可能かを判断するためには、昭和町紙漉阿原から玉穂町中楯において、10世紀代の水田跡を確認することが必要であり、同時に上窪遺跡・平田宮第２遺跡との土層対比による検討が求められる。また、仮に比定地とされる範囲内に水田遺構が検出されたからといって、ただちにそれが荘園を示すという根拠にはなり得ない。より蓋然性を高めるためには､発掘調査による文字資料（墨書土器･木簡など）の出土が求められよう。

第Ⅳ面は平田宮第２遺跡に初めて開発の手が加えられた跡として重要であるが、その背後に平田宮第２遺跡の東側（上窪遺跡）を水田跡として開発するなど、広域かつ選択的な土地利用があることが注目される。

第３節　検出された遺物

１．墨書土器

墨書土器は９点出土した。この内遺構から、１号井戸３点・７号土坑２点・１号溝状遺構１点が出土した。書かれた字を判読できるものは４点・不明が５点である。判読できるものは第Ⅱ～Ⅲ面出土の「西」（第19図８）、１号竪穴建物跡は「西□」（第20図　１号竪穴建物跡３）、１号溝状遺構出土の「一」（第21図　１号溝状遺構６）である。また、第Ⅲ面遺構外出土の内、１点（第22図　第Ⅲ面遺構外２）は「日」ないし「山」である可能性を有している。これ以外にも、旧玉穂町教育委員会による第１次調査で出土した「主」に類似する資料が第Ⅳ面・井戸より出土している（第20図９・11、第22図４）。墨書土器以外にも､「十」字（推定）の刻書土器（第20図10）も１点出土している。

２．斎串状木製品

斎串状木製品は第Ⅲ面集落跡の区画を示している溝状遺構から18点出土した。出土状況は斎串木製品が溝の最下層に10数本重なり、その直上に炭化物粒子を含む土壌と土師器などが覆った状態で検出された。出土した

ものの多くに先端の炭化が見られたため火付け木とも考えられるが、区画を示す溝から出土したことや出土状況の特異性、さらに二本柳遺跡、地耕免遺跡などの県内遺跡から出土した斎串状木製品と形状や先端の炭化などの特徴に類似する点が多く認められたことなど、以上の観点から祭祀に利用した可能性が高いと判断するに至った。

さて斎串状木製品の分類であるが、この遺跡で出土した斎串状木製品は面取りなどの加工痕は見られるものの、斎串の特徴としてまず挙げられる“頂部を圭頭状に削る”や“側面に切り込みを施した”などの加工痕をもつものはほとんど見当たらないため、ここでは主に法量を中心に分類した。

斎串状木製品は26㎝以上の大型のもの（Ⅰ類）が５点、16㎝以下の小型のもの（Ⅱ類）が13点出土している。出土状況ではⅠ類が一ヶ所にまとまって出土しており、その周囲にⅡ類が散乱している様子が見られた。残念ながら斎串状木製品が集中して出土した地点のすぐ南側に攪乱があり、その全容が見えたわけではないが、その出土状況の特異性は祭祀の様子を垣間見ることのできるものである。

３．井戸木枠

井戸木枠は曲物を土圧から守るように、方形に組まれている。複数の部材が組み合わさって井戸を構成しているが、その材の形状・用い方から、１）板材・２）横木・３）杭・４）敷板に区分される。この内、最も多いのが板材であり、遺物番号をつけたものだけで55点ある。ただし、これは井戸を廃棄する際に板材を破壊されたため、点数が増えたことによる。曲物を中心として、東西南北に板材を設けているが、南側の板材のみが２重になる形状を呈する。板材は地面に対して概ね垂直に位置するが、西壁の板材の一部は斜めに据えられている。東南側と西南側における板材は方形の木枠範囲を越え、南側に突き出している。板材の内、６点に加工痕、２点に炭化範囲が認められる。第25図39には１ヶ所穿孔が施されており、この部材は転用であることが想定される。

横木は設置された位置より、１）曲物底面付近・２）曲物確認面付近・３）木枠確認面に分けられる。いずれも板材の内側に設けられ、板材・杭と共に木枠全体を補強する形状を呈する。曲物底面付近は58・61・69、曲物確認面付近は31・32・41・48・49・59、木枠確認面は18である。横木の内、２点に加工痕が認められる。41は片方の端部、69は両端に類似する加工が施されており、なんらかの部材を転用したことが考えられる。

杭は打設された位置より、１）曲物底面付近・２）曲物確認面付近に分けられる。曲物底面付近は56・57・65・66・70、曲物確認面付近は22・42である。北東・北西・東南・西南に設けることにより、方形木枠の基軸を示すことがその機能として推察できるが、22・65のように位置がずれているものもある。これらは、補強のため便宜的に追加しているのかもしれない。先端を加工して尖らせているものが多いが、65のように木の形状を大きく残置しているものもある。他に22・56・66のように杭の機能と関連のない部位に加工を有しているものがあり、建築部材などから転用されたものである可能性を有している。

敷板は曲物確認面の下、土層断面図での25･26層の間から検出された。横木と異なり平坦な面を上にしており、曲物を設置して土壌を充填した際に置かれたものと考えられる。54・55の２点しかなく、設置された意図は不明である。両方とも加工痕があり、54は穿孔を有している。

４．井戸曲物

木枠の部材を取り上げ、曲物の裏側にある土壌を掘削した段階で崩落したため、復元・保存処理を行い、曲物の構造について考察した。この結果を次に記載したい。

６段の曲物が重なる形状で検出されたが、この内１・６段目は曲物が二重に重ねられている。（曲物を上から１～６段と便宜的に呼称する）１段目の曲物は８ヶ所を樹皮によってとめることにより、補強が施されている。６段目の曲物は４ヶ所を樹皮、17ヶ所を木釘によってとめられている。３段目の曲物は11ヶ所に穴が施されているが、これも補強を意図したものであるかもしれない。曲物内側にはいずれも湾曲しやすいように、直線状・格子状に線（ケビキ）が刻まれている。ケビキの太さは細く、鋭利な刃物によって施されたものと考えられる。ケビキが入る位置としては、１・２・４・５段目の曲物には内側の全域に認められるのに対し、３・６段目の曲物において範囲はほぼ同じであるが、よりケビキの単位が途切れる形状を呈す。曲物は東側において、樹皮によっ

てとめられている。樹皮で１～６段の曲物全てを通していることから、曲物を６段重ねた後で綴じた工程が想定される。また、綴じた位置を比較すると、１・２段目と３～６段目で材の重なっている位置が異なっている。樹皮は２列あり、左側の樹皮は３～６段目の曲物のみを綴じている。また、綴じている箇所において、１～６段の曲物に連続したケビキが確認できることから、線刻を行い円形に曲げて、６段に重ねた後に再び線刻を施した工程が考えられる。板材を円形に曲げる工程のケビキは直線状であり、６段に重ねた後のケビキは格子状を呈する。

５．その他の遺物

第Ⅰ面からは木を組み合わせた形状の木製品（第37図１）が１点検出された。第Ⅲ面の４号土坑（第37図２）と19号溝状遺構（第37図６）からは曲物の底板がそれぞれ１点ずつ出土した。19号溝状遺構からは両端が炭化した木製品（第37図７）、１号竪穴建物跡からは加工を有する木製品（第37図３）が出土した。第37図４は集中地点以外の場所から出土した斎串である。第37図９は敲打痕と磨面を有する石器である。井戸の曲物内部からは底板が１点出土している（第35図76）が、これには樹皮による綴じた痕跡が１ヶ所確認されている。また、井戸の木枠外側からは３方向を折り取り、１方向から打撃が加えられた礫（第37図１）、曲物内部からは黒色の付着物と線状痕を伴う石器（第37図２）が認められている。

引用参考文献

第Ⅱ章・第Ⅵ章

秋山　敬　2003『甲斐の荘園』甲斐新書刊行会

角川出版社　1984『角川日本地名大辞典』　角川書店

鐘方正樹　2003『井戸の考古学』同成社

玉穂町教育委員会　2003『玉穂町埋蔵文化財調査報告書第１集　上窪遺跡』

玉穂町教育委員会　2005『玉穂町埋蔵文化財調査報告書第２集　上窪遺跡（２次)』

玉穂町教育委員会　2006『玉穂町埋蔵文化財調査報告書第３集　平田宮第２遺跡』

保坂康夫　1997「玉穂町の地下の様子と遺跡の歴史」『山梨県中巨摩郡玉穂町町内遺跡分布調査報告書』玉穂町教育委員会

保坂康夫　1997「山梨県下の遺跡・住居址数変動と通史的理解」『研究紀要13』　山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター

森　和敏・雨宮正樹　1984『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第183集　石橋条里制遺構　蔵福遺跡　侭ノ下遺跡』

山梨県教育委員会　2004「甲斐の中世石幢」『山梨県史　資料編７　中世４　考古資料別冊』

ラインハルト・ツェルナー　1990「土着－初期甲斐源氏の屋形造り－」『甲府市史研究　第８号』

第Ⅴ章

高木勇夫　1985『条里地域の自然環境』　古今書院

村石真澄　2002「第２章　微地形環境」『町内遺跡詳細分布調査報告書』２～５p　田富町教育委員会

藤下典之　1984「出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法」『古文化財の自然科学的研究』638～654p　古文化財編集委員会編　同朋舎

林　昭三　1991『日本産木材　顕微鏡写真集』　京都大学木質科学研究所

石川茂雄　1994『原色日本植物種子写真図鑑』328p　石川茂雄図鑑刊行委員会

伊東隆夫　1995「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料31』81～181p　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1996「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料32』66～176p　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1997「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料33』83～201p　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1998「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料34』30～166p　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1999「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料35』47～216p　京都大学木質科学研究所

倉田　悟　1971『原色日本林業樹木図鑑　第１巻』331p　地球出版株式会社

松谷暁子　1980「十勝太若月遺跡出土炭化物の識別について」『浦幌町郷土博物館報告　第16号』203～211p

松谷暁子　2000「植物遺残の識別と保存について」『Ouroboros東京大学総合研究博物館ニュースVolume５Number１』８～10p

南木睦彦　1991「栽培植物」『古墳時代の研究４　生産と流通Ⅰ』165～174p　石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編　雄山閣

南木睦彦・中川治美　2000「大型植物遺体」『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書３～２　粟津湖底遺跡　自然流路（粟津湖底遺跡Ⅲ)』49～112p　滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会

中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2000『日本植物種子図鑑』642p　東北大学出版会

パリノ・サーヴェイ株式会社　2000「二本柳遺跡の古環境と木製品の樹種」『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第183集　二本柳遺跡』234～256p　山梨県教育委員会・建設省甲府工事事務所・日本道路公団東京建設局

島地　謙・伊東隆夫　1982『図説木材組織』176p　地球社

WheelerE.A.,BassP.andGassonP.E.（編）1998「広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト」122p　伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修）海青社

［WheelerE.A.　BassP.andGassonP.E.　1989　IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］

矢野　梓　2002「遺跡から出土した小型豆のＤＮＡ分析」『DNA考古学Newsletter３』

吉崎昌一　1992「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル　№355』２～14p

第７表　第Ⅲ面遺構一覧表

遺構名	遺構番号	位置	形状			遺物（土器のみ）				時期	備考
			長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	出土点数	図化点数	ドットあり	遺構一括		
井戸　掘り方	1	Ｃ－２	240	210	100	155	15	8	147	10世紀前半	墨書土器２点･刻書土器１点･石製品２点･木製品84点出土
木枠			84	77	106						
曲物			57	56	52						
竪穴建物跡	1	Ｄ－２・Ｅ－２	300	248	14	133	6	34	99	10世紀前半	墨書土器１点･木製品１点出土
土坑	1	Ｆ－１	（59）	（44）	15	1	－	1	－	10世紀前半	
土坑	2	Ｆ－１	55	29	7	9	－	－	9	10世紀前半	
土坑	3	Ｆ－１・２	（28）	34	－	－	－	－	－	10世紀前半	
土坑	4	Ｅ－１	64	21	11	－	－	－	－	10世紀前半	
土坑	5	Ｄ－２	58	45	33	5	1	3	2	10世紀前半	
土坑	6	Ｄ－１・２	66	（33）	8	3	－	－	3	10世紀前半	
土坑	7	Ｄ－１・２	80	62	48	22	3	12	10	10世紀前半	墨書土器２点出土
土坑	8	Ｃ－２・Ｄ－２	54	30	2	－	－	－	－	10世紀前半	
土坑	9	Ｃ－２	26	22	6	－	－	－	－	10世紀前半	
土坑	10	Ｃ－１・２	77	62	14	－	－	－	－	10世紀前半	
土坑	11	Ｃ－２	56	33	14	3	－	－	3	10世紀前半	
溝状遺構	1	Ｃ－２・Ｄ－２・３	（338）	115	12	140	9	54	86	10世紀前半	墨書土器１点･斎串状木製品19点出土、祭祀跡あり
溝状遺構	2	Ｅ－１・Ｆ－１	400	88	18	37	－	1	36	10世紀前半	木片集中あり
溝状遺構	3	Ｆ－１・２	（135）	（56）	9	5	－	－	5	10世紀前半	炭化物集中あり
溝状遺構	4	Ｅ－１・２	178	48	6	－	－	－	－	10世紀前半	
溝状遺構	5	Ｅ－１・２	（318）	74	12	4	－	1	3	10世紀前半	
溝状遺構	6	Ｅ－１・２	206	82	9	7	1	3	4	10世紀前半	
溝状遺構	8	Ｄ－２	（85）	26	11	－	－	－	－	10世紀前半	
溝状遺構	9	Ｄ－１	（64）	28	7	－	－	－	－	10世紀前半	
溝状遺構	10	Ｃ－２	（91）	48	12	3	－	－	3	10世紀前半	
溝状遺構	11	Ｃ－２	（300）	（52）	8	2	1	－	2	10世紀前半	
溝状遺構	12	Ｃ－１・２	（245）	69	23	3	－	－	3	10世紀前半	
溝状遺構	13	Ｃ－２	208	76	8	10	2	－	10	10世紀前半	
溝状遺構	14	Ｂ－２	（240）	155	16	35	4	25	10	10世紀前半	
溝状遺構	15	Ｂ－２	（88）	56	8	4	－	4	－	10世紀前半	
溝状遺構	16	Ｂ－２	（330）	（84）	12	4	1	2	2	10世紀前半	
溝状遺構	17	Ｂ－２	（265）	62	19	3	－	3	－	10世紀前半	
溝状遺構	18	Ｅ－２	43	63	12	3	－	－	3	10世紀前半	
溝状遺構	19	Ｄ－１・２、Ｅ－１	252	240	18	42	－	11	31	10世紀前半	
溝状遺構	20	Ｅ－１・２	184	78	9	1	－	1	－	10世紀前半	

第８表　遺物一覧表（土師器・須恵器等）

図版番号	遺構名	注記№	器　形	口　径（cm）	器　高（cm）	底　径（cm）	色　　調	胎　　土	焼成	残存率	時代	備　　考
第21図２	第Ⅲ面・１溝	P837	坏	(11.80)	(3.55)	－	にぶい褐色7.5YR5/4	赤色、白色粒子、白色砂礫、石英	良	30%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り
第21図４	第Ⅲ面・１溝	P732	坏	－	(3.30)	(4.20)	にぶい褐色7.5YR5/4	赤色、白色粒子、赤色砂礫、石英	良	30%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り
第21図５	第Ⅲ面・１溝	P728,P729	坏	－	(2.20)	3.70	にぶい橙7.5YR6/4	赤色、白色粒子、赤色、白色砂礫、石英	良	40%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り ・底部…糸切り後、ヘラ調整
第21図３	第Ⅲ面・１溝	P804	坏	－	(2.60)	4.30	外面…橙5YR6/6 内面…全面煤付着の為、黒褐色5YR2/1	赤色、白色粒子、赤色、白色砂礫、石英	良	50%	平安	・外面…ヘラ削り、一部煤付着 ・内面…全面煤付着 ・底部…糸切り後、一部ヘラ調整
第21図６	第Ⅲ面・１溝	P812,一括	皿	(12.40)	2.20	(4.40)	橙5YR6/6	赤色、白色粒子、石英	良	30%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り、墨書、煤 ・内外面に、一部煤付着 ・底部…糸切り後、ヘラ調整
第20図３	第Ⅲ面・井戸	P858	坏	－	(1.90)	(3.20)	にぶい橙7.5YR6/4	赤色、白色粒子、赤色砂礫、石英	良	15%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り ・底部…糸切り後、ヘラ調整
第20図１	第Ⅲ面・井戸	P840,P841	坏	(12.00)	2.90	(2.60)	橙7.5YR6/6	赤色、白色粒子、石英	良	25%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り ・底部…糸切り後、ヘラ調整
第20図７	第Ⅲ面・井戸	一括	皿	12.30	2.65	4.60	にぶい褐7.5YR5/4	赤色、白色粒子、赤色砂礫、石英	良	60%	平安	・外面…ヘラ削り ・底部…糸切り後、一部ヘラ調整 ・内外面…煤有り
第20図13	第Ⅲ面・井戸	P724	壺	－	(5.40)	－	灰7.5Y6/1	密	良	体部破片	平安	・外面…タタキ目 ・内部…指頭痕　うすくハケ目
第20図14	第Ⅲ面・井戸	P859	壺	－	(8.00)	－	灰N4/	黄灰	良	破片	平安	・外面…自然釉あり
第22図２	第Ⅲ面・13溝	P726	皿	(13.50)	2.50	(3.80)	にぶい橙7.5YR6/4	赤色、白色粒子、赤色、白色砂礫、石英、金雲母	良	25%	平安	・外面…ヘラ削りがうすく残っている ・底部…糸切り後、ヘラ調整
第22図１	第Ⅲ面・13溝	P727	坏（内黒）	(14.40)	(2.90)	－	外面…褐灰10YR5/1 内面…黒N1.5/	赤色、白色粒子、赤色砂礫	良	15%	平安	・反転
第22図１	第Ⅲ面・14溝	P697,P698	坏	(13.00)	(2.40)	－	にぶい褐色7.5YR5/4	赤色、白色粒子、赤色砂礫、石英、金雲母	良	破片	平安	・反転
第22図２	第Ⅲ面・14溝	P687,一括	皿	(13.10)	2.15	－	灰褐7.5YR4/2	赤色、白色粒子、赤色砂礫、石英	良	破片	平安	・反転　・外面…ヘラ削り有り
第22図４	第Ⅲ面・14溝	P682,P688	皿	(13.60)	2.50	(5.80)	灰褐色5YR4/2	赤色、白色粒子、赤色砂礫、石英	良	20%	平安	・反転　・底部…糸切り後、ヘラ調整
第22図３	第Ⅲ面・14溝	一括	皿	(13.00)	2.50	(3.70)	にぶい褐色7.5YR5/4	赤色、白色粒子、赤色砂礫、石英	良	20%	平安	・外面…ヘラ削り ・底部…糸切り後、ヘラ調整
第19図22	第Ⅲ面・１溝	１溝…P821,822,833 Ⅱ～Ⅲ面…P130,P482	小形甕	(10.30)	(6.45)	－	黒褐色7.5YR2/2	石英	良	20%	平安	・外面…煤付着
第21図８	第Ⅲ面・１溝	P803	甕	－	(1.15)	(6.80)	黒7.5YR1.7/1		良	破片	平安	・反転
第21図１	第Ⅲ面・１溝	P808,P810,P815,P816,P819	坏	(10.80)	4.15	(3.80)	にぶい褐色7.5YR5/4	赤色、白色粒子、赤色砂礫、石英	良	25%	平安	・一部反転　・外面…ヘラ削り ・底部…糸切り痕
第21図７	第Ⅲ面・１溝	P729,P730,P740,P824	甕	－	(14.70)	－	褐色7.5YR4/3	白色粒子、金雲母、石英	良	胴部	平安	・外面…たてハケ目 ・内面…よこハケ目 ・輪積み痕あり
第21図１	第Ⅲ面・11溝	一括	坏	(15.00)	2.30	－	にぶい黄褐色10YR5/3	赤色、白色粒子、白色砂礫、石英	良	破片	平安	・反転
第22図１	第Ⅲ面・16溝	P662	坏	(11.70)	(3.40)	－	にぶい黄褐色10YR5/3	赤色、白色粒子、赤色、白色砂礫、石英	良	破片	平安	・反転　・外面…ヘラ削り
第21図１	第Ⅲ面・５土	P653	坏	(11.60)	(3.40)	－	にぶい褐色7.5YR5/4	赤色、白色粒子、赤色、白色砂礫、石英	良	30%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り
第21図１	第Ⅲ面・７土	P704,一括	坏（内黒）	－	3.10	－	外面…にぶい褐色7.5YR5/3 内面…黒N1.5/	赤色、白色粒子	良	破片	平安	・反転　・外面…ヘラ削り ・内面…暗文
第21図１	第Ⅲ面・６溝	P766	甕	－	(4.20)	－	褐色7.5YR4/3	赤色、白色粒子、金雲母、黒雲母、石英含む	良	破片	平安	・内面…横ハケ目
第20図１	第Ⅲ面１竪	P786	坏（内黒）	－	(0.85)	(5.20)	内面…黒N1.5/ 外面…褐色7.5YR/4/3	白色、赤色粒子、赤色、白色砂礫、石英	良	破片	平安	・反転　・見込み…暗文有り ・底部…糸切り痕

図版番号	遺構名	注記No.	器　形	口　径（cm）	器　高（cm）	底　径（cm）	色　　調	胎　　土	焼成	残存率	時代	備　　考
第20図２	第Ⅲ面1竪	P781	坏	－	－	－	にぶい褐色7.5YR5/4	赤色、白色粒子、赤色、白色砂礫、石英	良	破片	平安	・底部…糸切り後、ヘラ調整
第21図５	第Ⅲ面1竪	P752	椀	(15.80)	(3.15)	－	灰白N7/	灰白	良	破片	平安	・反転　・内外面上部…白釉
第20図４	第Ⅲ面1竪	P791	壺	－	(6.10)	－	灰N4/	灰	良	破片	平安	・タタキ目
第21図６	第Ⅲ面1竪	P760	置きカマド	－	(6.00)	－	黒褐色7.5YR3/1	赤色、白色粒子、石英、金雲母	良	破片	平安	・外面…うすくタテハケ目 ・内面…ヨコハケ目
第22図２	第Ⅲ～Ⅳ面	一括	坏	(12.00)	3.70	3.25	にぶい赤褐色5YR4/3	赤色、白色粒子、石英、雲母	良	35%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り ・底部…糸切り痕
第22図５	第Ⅲ～Ⅳ面	一括	坏	(12.90)	(4.15)	－	明赤褐色5YR5/6	赤色、白色粒子、雲母、石英	良	25%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り ・底部…煤付着
第22図３	第Ⅲ～Ⅳ面	一括	坏	(13.00)	4.95	(3.10)	明赤褐色5YR5/6	赤色、白色粒子、石英	良	30%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り ・底部…糸切り痕、一部ヘラ削り
第22図４	第Ⅲ～Ⅳ面	一括	坏	(11.30)	4.00	3.30	明赤褐色5YR5/6 にぶい黄褐色10YR5/3	赤色、白色粒子、石英、雲母	良	30%	平安	・一部反転　・外面…ヘラ削り ・底部…糸切り後、ヘラ調整
第22図１	第Ⅲ～Ⅳ面	一括	坏	12.55	4.10	4.30	内外面共…明赤褐色5YR5/6 灰褐色10YR5/2	赤色、白色粒子、赤色、黒色砂礫、石英	良	50%	平安	・外面…ヘラ削り
第22図６	第Ⅲ～Ⅳ面	一括	坏（内黒）	－	(1.10)	(4.40)	外面…にぶい赤褐色5YR4/4 内面…黒色N1.5/	赤色、白色粒子、雲母	良	破片	平安	・反転　・底部…糸切り後、ヘラ調整
第20図23	第Ⅱ～Ⅲ面・第Ⅳ面	P453（Ⅱ～Ⅲ面） P848（Ⅳ面）	凸帯付四耳壺	－	(3.90)	－	灰N5/	白色粒子含む	良	破片	平安	・反転　・外面…タタキ目 ・内面…指頭痕
第22図１	第Ⅳ面	P845	坏	(16.10)	(4.20)	－	にぶい褐色7.5YR5/4	赤色、白色粒子、石英、雲母	良	破片	平安	・反転　・外面…ヘラ削り
第22図２	第Ⅳ面	P849	坏	－	(0.65)	(4.20)	にぶい褐色7.5YR5/4	赤色、白色粒子、石英、雲母	良	破片	平安	・反転　・外面…ヘラ削り
第22図３	第Ⅳ面	P854	甕	－	(3.30)	－	にぶい褐色7.5YR5/4	赤色、白色粒子、石英、金雲母	良	破片	平安	・内面…横ハケ目 ・外面…うすくたてハケ目、煤付着
第19図５	第Ⅱ～Ⅲ面	P205,P207,P554P574,P575	坏	－	(2.50)	4.40	にぶい黄褐色10YR5/4	赤色、白色粒子、石英	良	50%	平安	・外面…ヘラ削り ・底部…糸切り後、ヘラ調整
第19図１	第Ⅱ～Ⅲ面	P117,P548,P578一括	坏	(12.20)	3.80	(4.20)	明赤褐色5YR5/6	赤色、白色粒子、石英	良	20%	平安	・反転　・外面…うすくヘラ削りが残る ・底部…糸切り痕
第19図４	第Ⅱ～Ⅲ面	P546	坏	－	(0.95)	(3.80)	にぶい黄褐色10YR5/3	赤色、白色粒子、石英	良	破片	平安	・反転　・外面…ヘラ削り ・底部…糸切り後、ヘラ調整
第19図６	第Ⅱ～Ⅲ面	P133	皿	－	(1.25)	(4.20)	明赤褐色5YR5/6	赤色、白色粒子、石英	良	破片	平安	・反転　・外面…ヘラ削り ・底部…糸切り後、ヘラ削り
第19図２	第Ⅱ～Ⅲ面	P615,一括	坏	(12.30)	3.50	(4.30)	赤褐色5YR4/6	赤色、白色粒子、石英	良	25%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り ・内面…煤付着 ・底部…糸切り後、ヘラ調整
第19図12	第Ⅱ～Ⅲ面	P201	甕	－	(2.25)	(9.20)	黒褐色7.5YR3/2	赤色、白色粒子、雲母、石英	良	破片	平安	・反転　・外面…たてハケ目 ・内面…よこハケ目　・底部…木葉痕
第19図10	第Ⅱ～Ⅲ面	一括	甕	－	(3.60)	－	外面…灰黄褐色10YR4/2 内面…にぶい赤褐色5YR4/4	赤色、白色粒子、石英、金雲母	良	破片	平安	・外面…たてハケ目 ・内面…よこハケ目
第19図14	第Ⅱ～Ⅲ面	P568	羽釜	－	(2.80)	－	外面…暗褐色10YR3/3 内面…黒10YR2/1	白色、黒色粒子、石英、雲母	良	破片	平安	・外面…たてハケ目 ・内面…よこハケ目
第19図９	第Ⅱ～Ⅲ面	P583	椀	(13.80)	(3.40)	－	－	灰白	良	破片	平安	・反転 ・内外面…釉が上部にかかっている
第19図７	第Ⅱ～Ⅲ面	P579,P582	坏（内黒）	－	(2.90)	(5.50)	外面…灰褐色7.5YR4/2 内面…黒N2/	赤色粒子、石英	良	10%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り
第19図３	第Ⅱ～Ⅲ面	P443,P629	坏（内黒）	(15.60)	2.70	－	外面…にぶい黄褐色10YR5/3 内面…黒N1.5/	赤色、白色粒子、石英	良	破片	平安	・反転　・外面…ヘラ削り
第19図15	第Ⅱ～Ⅲ面	P35,P251	壺	－	(5.70)	(12.70)	灰N4/	赤色、白色粒子、石英	良	破片	平安	・反転　・底部…削り出し高台
第19図13	第Ⅱ～Ⅲ面	P438	壺	－	(4.85)	－	灰N4/	白色粒子、石英	良	破片	平安	・反転
第19図20	第Ⅱ～Ⅲ面	P247,P352,P480,P433	壺	－	－	－	外面…灰N4/ 内面…暗灰黄2.5Y5/2	赤色、白色粒子、石英	不良	破片	平安	・外面…タタキ目

図版番号	遺構名	注記No.	器　形	口　径（cm）	器　高（cm）	底　径（cm）	色　　調	胎　　土	焼成	残存率	時代	備　　考
第19図18	第Ⅱ～Ⅲ面	P122,P160,P163	壺	－	－	－	外面…暗オリーブ灰5GY3/1 内面…灰N4/	白色、黒色粒子、石英	良	破片	平安	・外面…タタキ目
第19図17	第Ⅱ～Ⅲ面	P301,P397	壺	－	－	－	暗灰N3/	白色粒子、石英	良	破片	平安	・外面…タタキ目
第19図19	第Ⅱ～Ⅲ面	P634	壺	－	－	－	オリーブ灰2.5GY5/1	白色粒子、石英	良	破片	平安	・外面…タタキ目
第19図21	第Ⅱ～Ⅲ面	P170,P209,P229	壺	－	－	－	灰N4/	赤色、白色粒子	良	破片	平安	・外面…タタキ目 ・内面…指頭痕
第19図16	第Ⅱ～Ⅲ面	P344	壺	－	－	－	灰N4/	白色粒子、石英	良	破片	平安	・外面…タタキ目
第19図８	第Ⅱ～Ⅲ面	P641	坏	－	－	－	にぶい褐7.5YR5/4	赤色粒子	良	破片	平安	・外面…墨書「西」
第22図２	第Ⅲ面・遺構外	P646	坏	－	－	－	にぶい褐7.5YR5/4	赤色、白色粒子	良	破片	平安	・外面…墨書
第22図１	第Ⅲ面・遺構外	P647	坏	（12.20）	3.60	（4.30）	明赤褐色5YR5/6	赤色、白色粒子、石英	良	15%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り、墨書 ・底部…糸切り後、ヘラ調整
第21図２	第Ⅲ面・7土	P708,一括	坏	（11.50）	（3.90）	－	にぶい褐7.5YR5/4	赤色、白色粒子、石英	良	15%	平安	・反転　・外面…ヘラ削り、墨書
第21図３	第Ⅲ面・7土	P709	坏（内黒）	－	－	－	外面…にぶい褐7.5YR5/4 内面…黒N1.5/	赤色、白色粒子	良	破片	平安	・外面…墨書
第22図４	第Ⅳ面	P842	坏	－	－	－	にぶい褐7.5YR5/3	赤色、白色粒子	良	破片	平安	・外面…ヘラ削り、墨書
第22図５	第Ⅳ面	P843	坏	－	－	－	にぶい褐7.5YR5/4	赤色、白色粒子、石英	良	破片	平安	・外面…ヘラ削り、墨書
第20図10	第Ⅲ面・井戸	一括	坏	－	－	－	外面…にぶい褐7.5YR5/4 内面…灰黄褐10YR4/2	赤色、白色粒子	良	破片	平安	・外面…ヘラ削り、刻書
第20図２	第Ⅲ面・井戸	一括	坏	－	（2.30）	（4.00）	灰7.5Y5/1	白色粒子、石英	良	破片	平安	・反転　・ヘラ削り
第21図９	第Ⅲ面・１溝	P827	壺	－	－	－	外面…灰7.5Y6/1	白色粒子	良	破片	平安	・外面…灰釉付着 ・内面…墨付着
第19図11	第Ⅱ～Ⅲ面	P192,P322	甕	（27.70）	（4.90）	－	褐色7.5YR4/3	赤色、白色粒子、石英、金雲母	良	破片	平安	・反転　・外面…タテハケ目 ・内面…ヨコハケ目
第20図３	第Ⅲ面・1竪	一括	坏	－	（2.85）	－	にぶい褐7.5YR	赤色、白色粒子、石英	良	破片	平安	・外面…ヘラ削り、墨書
第20図８	第Ⅲ面・井戸	一括	皿	14.20	1.90	－	にぶい黄橙Hue10YR	赤色、白色粒子、雲母	良	15%	平安	・反転　・外面･･･ヘラ削り ・内面･･･煤付着
第20図５	第Ⅲ面・井戸	一括	坏	（13.60）	（3.95）	－	外面･･･黒2.5YR2/1	赤色、白色粒子、石英	良	15%	平安	・外面･･･ヘラ削り、煤が全体に付着
第20図４	第Ⅲ面・井戸	一括	坏	－	（1.20）	4.20	外面･･･褐色7.5YR4/4 内面･･･黒N1.5	赤色、白色粒子、石英	良	15%	平安	・外面･･･ヘラ削り ・内面･･･内黒、暗文 ・底部･･･回転糸切り後、一部ヘラ調整
第20図12	第Ⅲ面・井戸	一括	壺	－	－	－	灰N4/	白色粒子	良	破片	平安	・外面･･･タタキ目 ・内面･･･当て具痕
第20図11	第Ⅲ面・井戸	一括	坏	－	－	－	にぶい黄褐10YR5/3	赤色粒子、石英	良	破片	平安	・外面･･･墨書「主」、ヘラ削り
第20図９	第Ⅲ面・井戸	一括	坏	－	－	－	外面･･･にぶい褐7.5YR5/3 内面･･･明褐色7.5YR5/6	赤色粒子、石英	良	破片	平安	・外面･･･墨書
第20図６	第Ⅲ面・井戸	一括	皿	－	－	－	にぶい赤褐5YR5/4	赤色、白色粒子、石英	良	破片	平安	・外面･･･ヘラ削り ・内面･･･煤付着

第９表　遺物一覧表（木製品・石製品）

木製品一覧表

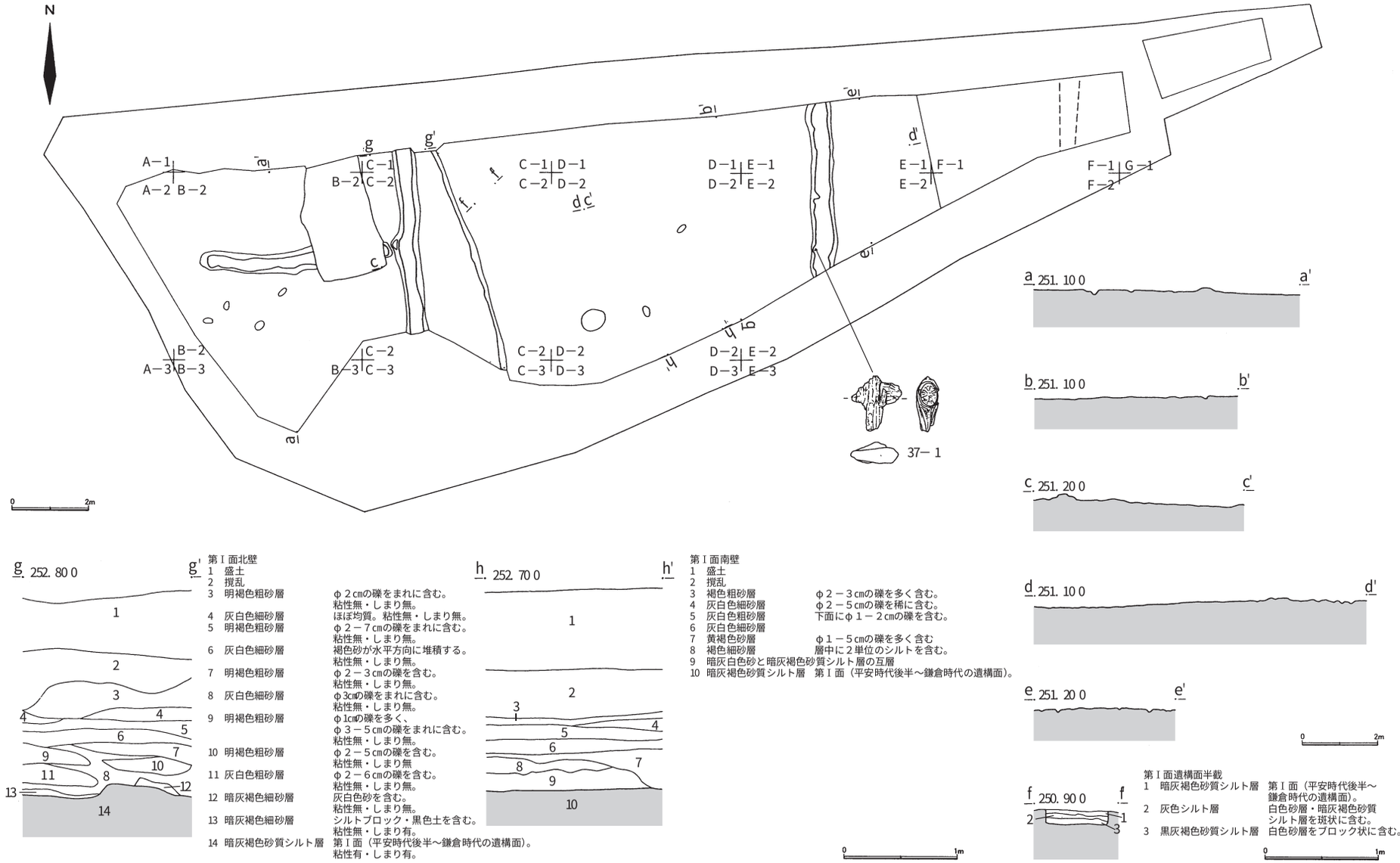
図版番号	遺物番号	処理No.	出土遺構	種別	部材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	形状	備　　考
第37図１	W－2	－	第Ⅰ面　－	－	遺物	6.2	5.6	2.4	21	板状	
－	1	28660	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	28.8	13.0	0.7	250	板状	
－	2	28661	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	8.0	6.0	1.5	50	板状	
－	3	28662	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	8.2	2.7	0.4	7	板状	
－	4	28663	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	18.0	5.3	1.1	76	板状	
－	5	28664	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	30.5	8.0	1.5	263	板状	
－	6	28665	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	36.3	3.7	0.7	171	板状	
第23図７	7	28666	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	41.3	11.1	1.6	350	板状	
－	8	28667	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	13.5	4.2	0.4	32	板状	
－	9	28668	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	27.5	8.0	1.0	168	板状	
－	10	28669	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	35.0	6.8	6.0	956	板状	
第23図11	11	28670	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	44.7	3.9	2.9	220	棒状	
－	12	28671	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	40.0	9.2	1.5	399	板状	
第23図13	13	28672	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	59.9	10.4	1.6	610	板状	
－	14	28673	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	21.0	8.0	1.0	105	板状	
－	15	28735	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	20.0	4.0	2.3	137	板状	
－	16	28736	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	37.3	5.5	2.0	318	板状	
－	17	28737	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	40.5	11.8	7.5	1,300	板状	
第23図18	18	28677	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	横木	69.5	4.0	3.3	460	棒状	
第23図19	19	28678	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	74.7	13.3	1.3	860	板状	
第23図20	20	28679	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	83.6	15.9	1.4	1220	板状	
第24図21	21	28680	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	84.0	13.7	1.3	700	板状	
第24図22	22	28681	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	杭	41.7	4.4	4.5	320	棒状	加工痕（明瞭な彫り込み状の加工で先端が尖る）。
第24図23	23	28682	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	28.9	9.1	1.2	240	板状	
－	24	28683	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	54.1	7.5	3.0	638	板状	
－	25	28684	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	39.5	9.5	3.5	551	板状	
－	26	28685	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	57.0	8.3	1.3	409	板状	
－	27	28686	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	44.6	7.0	0.5	156	板状	
第24図28	28	28687	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	97.6	14.3	4.0	4640	板状	
－	29	28688	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	52.3	6.8	1.2	350	板状	
第24図30	30	28689	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	44.6	8.6	4.0	290	板状	
第24図31	31	28690	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	横木	21.3	4.2	2.3	81	板状	
第25図32	32	28691	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	横木	46.3	4.5	4.3	580	棒状	加工痕。
第24図33	33	28692	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	69.7	17.7	1.1	860	板状	
第25図34	34	28693	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	43.3	10.6	1.1	320	板状	加工痕。
第25図35	35	28694	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	43.6	7.6	1.5	180	板状	
第25図36	36	28695	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	24.6	5.1	0.9	58	板状	
第25図37	37	28696	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	45.5	15.3	1.3	525	板状	
－	38	28697	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	39.0	9.0	0.5	149	板状	
第25図39	39	28698	第Ⅲ面　１号井戸	木枠	板材	49.3	8.5	1.0	260	板状	加工痕。１ヶ所穿孔が施される。

図版番号	遺物番号	処理No	出土遺構	種別	部材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	形状	備　　考
第25図40	40	28699	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	62.6	12.7	1.1	540	板状	
第25図41	41	28700	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	横木	66.2	6.8	2.3	770	板状	
第27図42	42	28701	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	杭	41.7	11.3	8.8	2070	角材状	同一固体有り。
第26図43	43	28702	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	40.7	9.6	1.0	270	板状	
第27図44	44	28703	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	49.9	14.3	6.4	2850	棒状	
第26図45	45	28704	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	106.1	18.0	1.7	2280	板状	
第26図46	46	28705	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	85.9	14.5	1.3	1060	板状	
第26図47	47	28706	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	111.0	13.4	2.3	1980	板状	加工痕。
第26図48	48	28707	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	横木	33.3	6.9	1.1	170	板状	同一固体有り。
第27図49	49	28708	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	横木	81.0	5.5	4.3	980	棒状	
第27図50	50	28709	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	59.2	12.0	1.1	580	板状	
第27図51	51	28710	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	93.7	13.2	2.1	1670	板状	加工痕。同一固体有り。
第27図52	52	28711	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	89.3	10.4	1.4	740	板状	炭化。
第28図53	53	28712	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	78.8	14.4	1.7	1220	板状	
第28図54	54	28713	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	敷板	36.5	11.0	1.0	340	板状	加工痕。1ヶ所穿孔が施される。
第28図55	55	28714	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	敷板	36.4	9.2	1.2	360	板状	加工痕。
第28図56	56	28715	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	杭	126.0	9.0	7.0	2980	棒状	加工痕（明瞭な彫り込み状の加工）。同一固体有り。
第28図57	57	28716	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	杭	120.1	9.0	8.3	5460	棒状	加工痕（明瞭な削り痕で先端が尖る）。
第29図58	58	28717	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	横木	56.4	8.5	6.0	1420	棒状	加工痕（先端が尖る）。
第29図59	59	28718	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	横木	67.7	5.8	3.3	580	棒状	
第29図60	60	28719	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	－	135.0	5.6	6.6	2610	棒状	加工痕（下端部を尖らせた加工）。
第29図61	61	28720	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	横木	70.0	6.0	5.5	1490	棒状	同一固体有り。
第29図62	62	28721	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	－	61.7	14.5	1.8	920	板状	
第29図63	63	28722	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	48.5	13.6	2.3	920	板状	
第30図64	64	28723	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	88.0	17.3	3.0	2400	板状	加工痕部分炭化。
第30図65	65	28724	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	杭	66.2	4.2	4.6	900	棒状	同一固体有り。
第30図66	66	28725	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	杭	61.2	11.3	9.7	3460	角材状	加工痕。
第30図67	67	28726	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	61.9	11.0	1.1	600	板状	
第30図68	68	28727	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	55.1	18.6	1.3	1040	板状	
第31図69	69	28728	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	横木	83.0	7.7	2.3	840	板状	
第31図70	70	28729	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	杭	112.6	8.4	4.8	1920	棒状	加工痕（両先端を尖らせた加工）。
第31図71	71	28730	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	－	59.2	9.8	1.3	580	板状	
第31図72	72	28731	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	53.6	8.1	1.8	450	板状	
－	73	28732	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	56.0	18.2	1.4	1232	板状	
－	74	28733	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	54.0	15.3	1.8	1185	板状	
第31図75	75	28734	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	49.6	8.5	0.9	300	板状	
第35図76	76	28674	第Ⅲ面　1号井戸	底板	遺物	14.5	6.8	0.9	600	円盤状	加工痕。樹皮による綴り痕有り（1ヶ所）。
第23図16	77	28675	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	39.5	10.8	1.8	280	板状	
第23図17	78	28676	第Ⅲ面　1号井戸	木枠	板材	33.8	4.5	4.2	400	棒状	加工痕。
第36図8	W8	28738	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	10.6	1.0	1.2	9	棒状	加工痕。炭化（下端部）。
第36図9	W9	28739	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	13.5	1.3	1.0	12	棒状	加工痕。炭化（下端部）。
第36図10	W10	28740	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	26.4	2.6	0.5	15	棒状	

図版番号	遺物番号	処理No	出土遺構	種別	部材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	形状	備考
第36図11	W11	28741	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	32.7	1.4	1.0	32	棒状	加工痕。炭化（下端部）。
第36図12	W12	28742	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	27.3	1.3	0.4	12	棒状	炭化（下端部）。
第36図13	W13	28743	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	32.3	2.1	0.5	11	棒状	炭化（下端部）。
第36図14	W14	28744	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	32.2	1.5	1.1	21	棒状	加工痕。炭化（下端部）。
第36図15	W15	28745	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	10.1	1.3	1.0	6	棒状	炭化（下端部）。
第36図16	W16	28746	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	14.9	2.0	0.5	8	棒状	加工痕。
第36図17	W17	28747	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	16.5	1.3	1.1	14	棒状	加工痕。炭化（下端部）。
第36図18	W18	28748	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	14.8	1.2	0.6	8	棒状	炭化（下端部）。
第36図19	W19	28749	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	12.0	1.5	1.3	16	棒状	加工痕。炭化（下端部）。
第36図20	W20	28750	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	7.3	1.4	0.4	3	棒状	加工痕。炭化（下端部）。
第36図21	W21	28751	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	10.6	1.5	0.3	2	棒状	
第36図22	W22	28752	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	10.9	1.1	0.6	5	棒状	炭化（下端部）。
第36図23	W23	28753	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	10.8	0.9	0.3	2	棒状	加工痕。
第36図24	W24	28754	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	10.7	2.1	1.0	14	棒状	炭化（下端部）。
第36図25	W25	28755	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	10.9	0.7	0.5	2	棒状	炭化（下端部）。
第32図75	1	28757	第Ⅲ面　1号井戸	曲物	－	63.0	7.8	0.6	720	－	内外の曲物共に内側にケビキを施す。樹皮による綴り痕有り（8ヶ所）。
第32図76	2	28757	第Ⅲ面　1号井戸	曲物	－	59.5	7.5	0.4	400	－	内面にケビキを施す。樹皮による綴り痕有り（1ヶ所）。釘穴有り（2ヶ所）。
第33図77	3	28757	第Ⅲ面　1号井戸	曲物	－	62.4	8.9	0.3	340	－	内面にケビキを施す。樹皮による綴り痕有り（1ヶ所）。釘穴有り（11ヶ所）。
第33図78	4	28757	第Ⅲ面　1号井戸	曲物	－	61.0	7.0	0.8	350	－	内面にケビキを施す。樹皮による綴り痕有り（2ヶ所）。
第34図79	5	28757	第Ⅲ面　1号井戸	曲物	－	61.0	7.2	0.5	340	－	内面にケビキを施す。樹皮による綴り痕有り（2ヶ所）。
第34図80	6	28757	第Ⅲ面　1号井戸	曲物	－	63.0	6.2	0.7	490	－	内外の曲物共に内側にケビキを施す。樹皮による綴り痕有り（4ヶ所）。木釘穴有り（17ヶ所）。内（11ヶ所）木釘残存。
第37図2	－	－	第Ⅲ面　4号土	底板	遺物	13.2	6.3	0.6	30	円盤状	
第37図3	W－26	－	第Ⅲ面　1号竪	－	遺物	20.5	15.8	8.3	1,420	棒状	
第37図4	－	－	第Ⅲ面　1号溝	斎串	遺物	12.8	1.3	0.7	6	棒状	
第37図5	－	－	第Ⅲ面　1号溝	－	遺物	17.0	3.9	1.4	63	板状	炭化（下端部）。
第37図6	－	－	第Ⅲ面　19号溝	底板	遺物	18.1	4.3	0.9	41	円盤状	
第37図7	－	－	第Ⅲ面　19号溝	－	遺物	17.9	4.0	2.4	78	棒状	炭化（両端部）。
第37図8	W－29	－	第Ⅳ面　－	木杭	遺物	23.6	2.4	1.2	42	棒状	

石製品一覧表

図版番号	遺物番号	出土遺構	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
第37図9	一括	第Ⅲ面	磨石	9.2	5.8	4.6	400	
第35図2	S－2	第Ⅲ面　1号井戸	磨石	21.3	7.8	4.7	1,000	
第35図1	S－1	第Ⅲ面　1号井戸	剥片	13.9	10.0	3.9	820	



第Ⅰ面北壁

1 盛土
2 撹乱
3 明褐色粗砂層　φ２cmの礫をまれに含む。粘性無・しまり無。
4 灰白色細砂層　ほぼ均質。粘性無・しまり無。
5 明褐色粗砂層　φ２－７cmの礫をまれに含む。粘性無・しまり無。
6 灰白色細砂層　褐色砂が水平方向に堆積する。粘性無・しまり無。
7 明褐色粗砂層　φ２－３cmの礫を含む。粘性無・しまり無。
8 灰白色細砂層　φ3cmの礫をまれに含む。粘性無・しまり無。
9 明褐色粗砂層　φ1cmの礫を多く、φ３－５cmの礫をまれに含む。粘性無・しまり無。
10 明褐色粗砂層　φ２－５cmの礫を含む。粘性無・しまり無
11 灰白色粗砂層　φ２－６cmの礫を含む。粘性無・しまり無。
12 暗灰褐色細砂層　灰白色砂を含む。粘性無・しまり無。
13 暗灰褐色細砂層　シルトブロック・黒色土を含む。粘性無・しまり有。
14 暗灰褐色砂質シルト層　第Ⅰ面（平安時代後半～鎌倉時代の遺構面）。粘性有・しまり有。

第Ⅰ面南壁

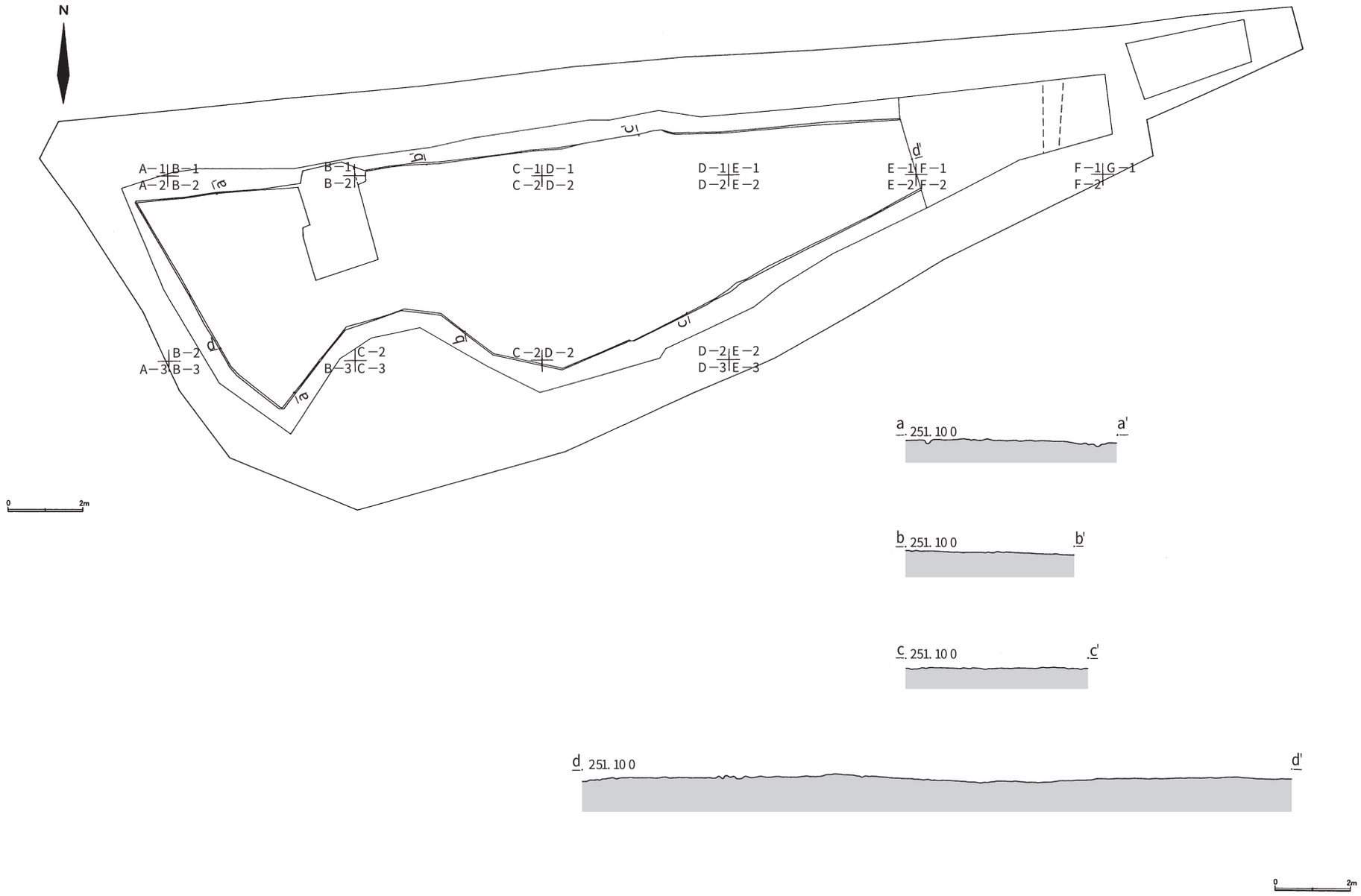
1 盛土
2 撹乱
3 褐色粗砂層　φ２－３cmの礫を多く含む。
4 灰白色細砂層　φ２－５cmの礫を稀に含む。
5 灰白色粗砂層　下面にφ１－２cmの礫を含む。
6 灰白色細砂層
7 黄褐色砂層　φ１－５cmの礫を多く含む
8 褐色細砂層　層中に２単位のシルトを含む。
9 暗灰白色砂と暗灰褐色砂質シルト層の互層
10 暗灰褐色砂質シルト層　第Ⅰ面（平安時代後半～鎌倉時代の遺構面）。

第Ⅰ面遺構面半截

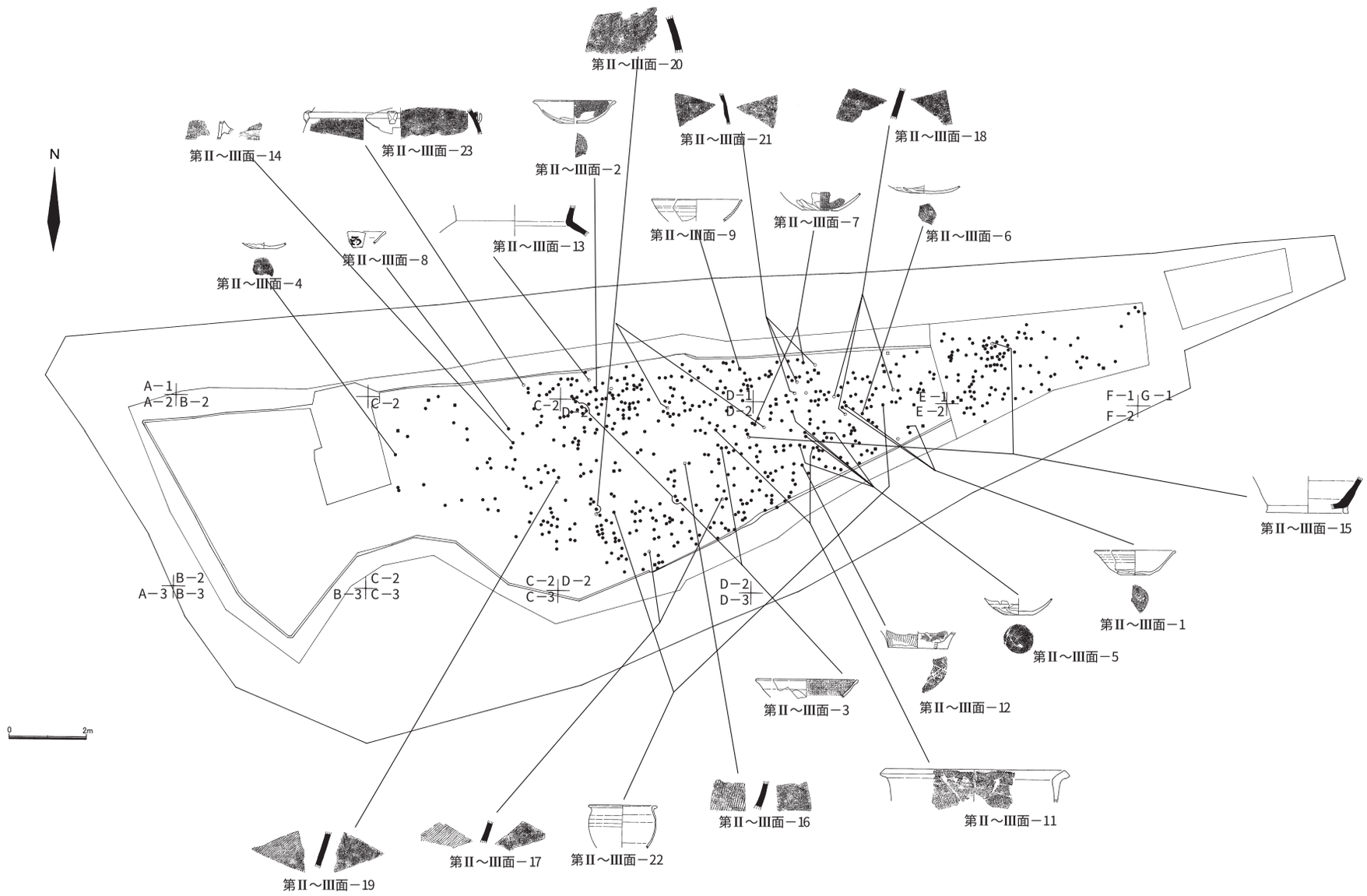
1 暗灰褐色砂質シルト層　第Ⅰ面（平安時代後半～鎌倉時代の遺構面）。
2 灰色シルト層　白色砂層・暗灰褐色砂質シルト層を斑状に含む。
3 黒灰褐色砂質シルト層　白色砂層をブロック状に含む。

第４図　第Ⅰ面遺構図

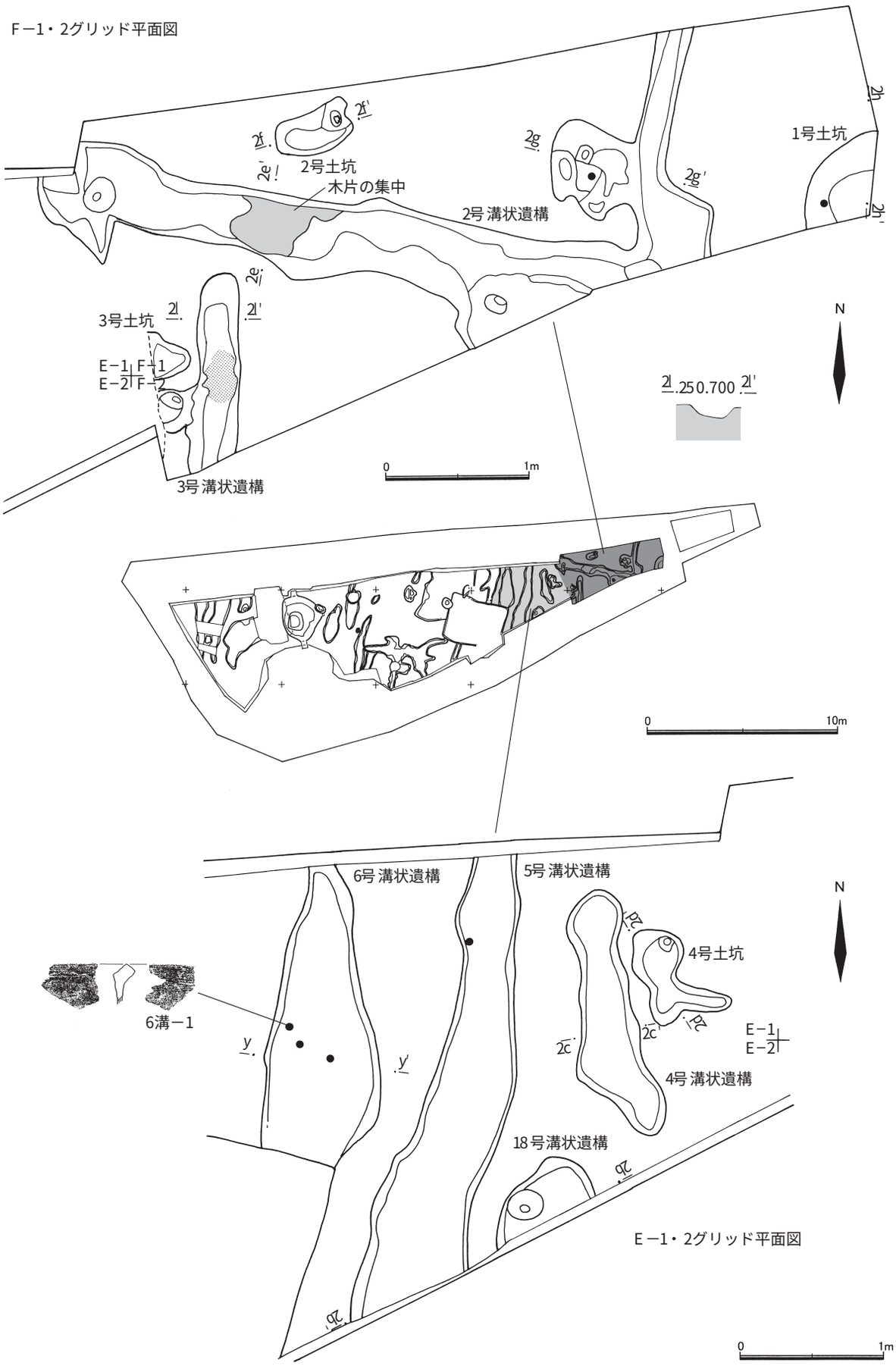
第５図　株痕分布状況図


N
A−1 B−1
A−2 B−2
B−1
B−2
C−1 D−1
C−2 D−2
D−1 E−1
D−2 E−2
E−1 F−1
E−2 F−2
F−1 G−1
F−2
B−2
A−3 B−3
C−2
B−3 C−3
C−2 D−2
D−2 E−2
D−3 E−3
a
a'
b
b'
c
c'
d
d'
0
2m
a. 251.100
a'
b. 251.100
b'
c. 251.100
c'
d. 251.100
d'
0
2m

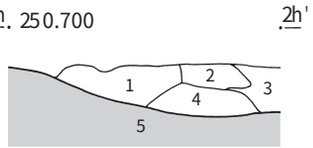
第６図　第Ⅱ面遺構図



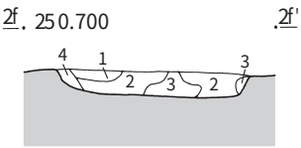
第７図　第Ⅱ～Ⅲ面遺物分布図



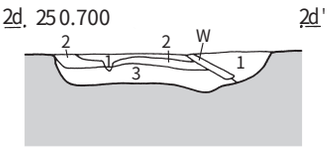
第８図　第Ⅲ面遺構図（Ｅ－１・２、Ｆ－１・２グリッド）



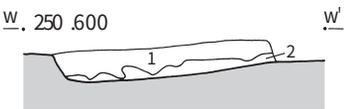
1号土坑
1　灰白色砂層　φ２－３㎜炭化物粒子・暗褐色土ブロックを含む。粘性無・しまり有。
2　暗褐色土層　灰白色砂を含む。粘性無・しまり有。
3　灰白色砂層　うん管・Φ１－２㎜炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
4　暗褐色土層　粘性無・しまり有。
5　灰白色砂層　粘性無・しまり有。



2号土坑
1　灰白色砂層　粘性無・しまり有。
2　暗褐色シルト層　植物片を含む。粘性無・しまり有。
3　灰白色砂層　粘性無・しまり有。
4　暗褐色砂層　暗褐色シルト粒子を含む。粘性無・しまり有。

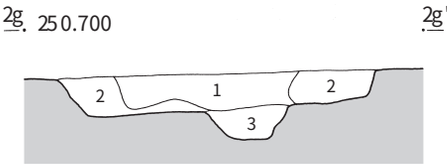


4号土坑
1　暗褐色シルト層　φ２－３㎜炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
2　灰白色砂層　粘性無・しまり有。
3　暗褐色砂層　粘性無・しまり有。

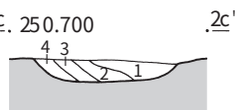


6号土坑
1　黒色土層　灰白色砂を含む。粘性無・しまり有。
2　暗灰褐色砂層　黒褐色土ブロックを含む。粘性無・しまり有。

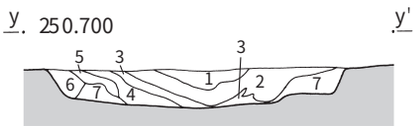
2号 溝状遺構
1　暗褐色砂層　暗褐色シルト粒子を含む。粘性無・しまり有。



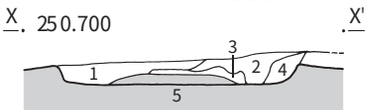
2号 溝状遺構
1　暗褐色シルト層　φ２－３㎜炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
2　暗褐色砂層　暗褐色シルト粒子を含む。粘性無・しまり有。
3　暗褐色砂層　φ２㎝炭化物粒子・植物片・暗褐色シルトを含む。



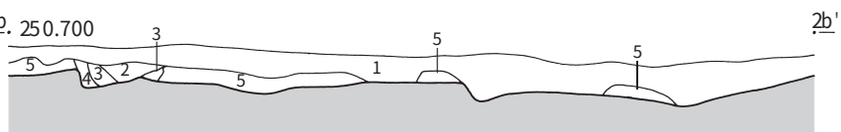
4号 溝状遺構
1　黒褐色砂層　植物片を含む。粘性無・しまり有。
2　暗灰褐色砂層　黒褐色砂を含む。粘性無・しまり有。
3　暗灰褐色砂層　粘性無・しまり有。
4　黒褐色砂層　粘性無・しまり有。



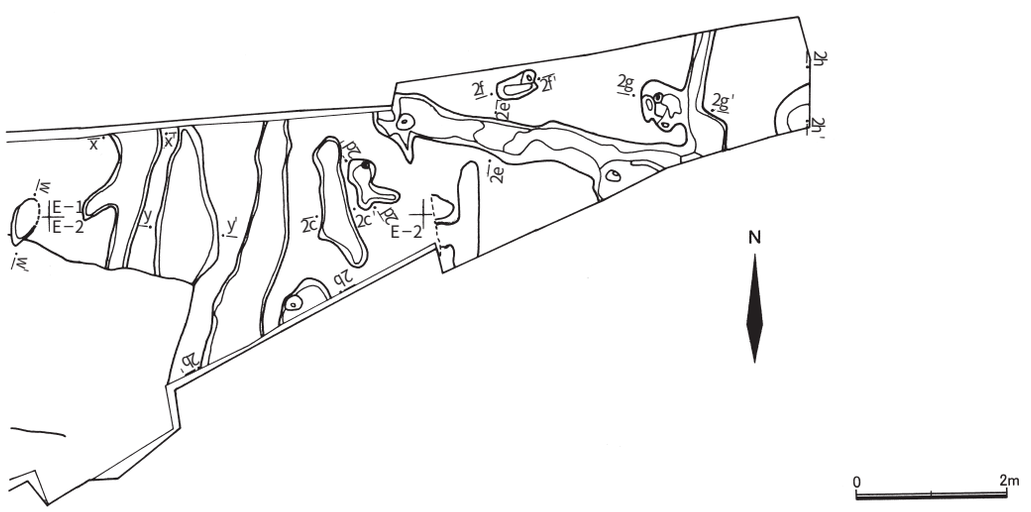
6号 溝状遺構
1　黒褐色土層　φ２－３㎜炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
2　黒褐色土層　灰白色砂を含む。粘性無・しまり有。
3　黒褐色土層　粘性無・しまり有。
4　黒褐色土層　上面に植物片を含む。粘性無・しまり有。
5　暗灰褐色砂層　黒褐色土ブロックを含む。粘性無・しまり有。
6　黒褐色土層　粘性無・しまり有。
7　暗灰褐色砂層　黒褐色土ブロックを含む。粘性無・しまり有。



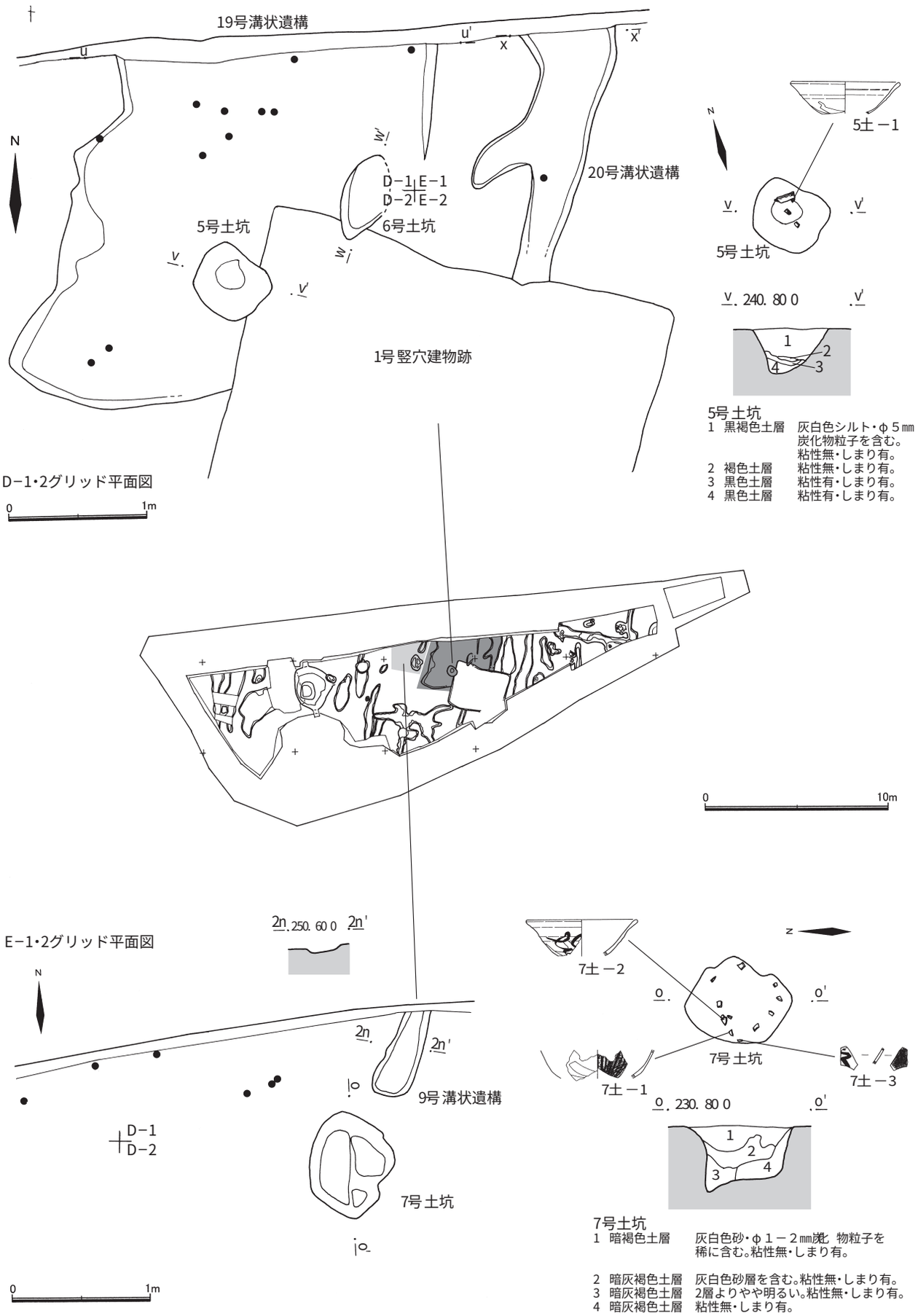
20号 溝状遺構
1　暗褐色土層　粘性無・しまり有。
2　暗褐色土層　暗灰褐色砂を含む。粘性無・しまり有。
3　黒色土層　粘性有・しまり有。
4　暗褐色土層　暗灰褐色砂層・５㎜炭化物粒子を含む。
5　暗灰褐色砂層　粘性無・しまり有。



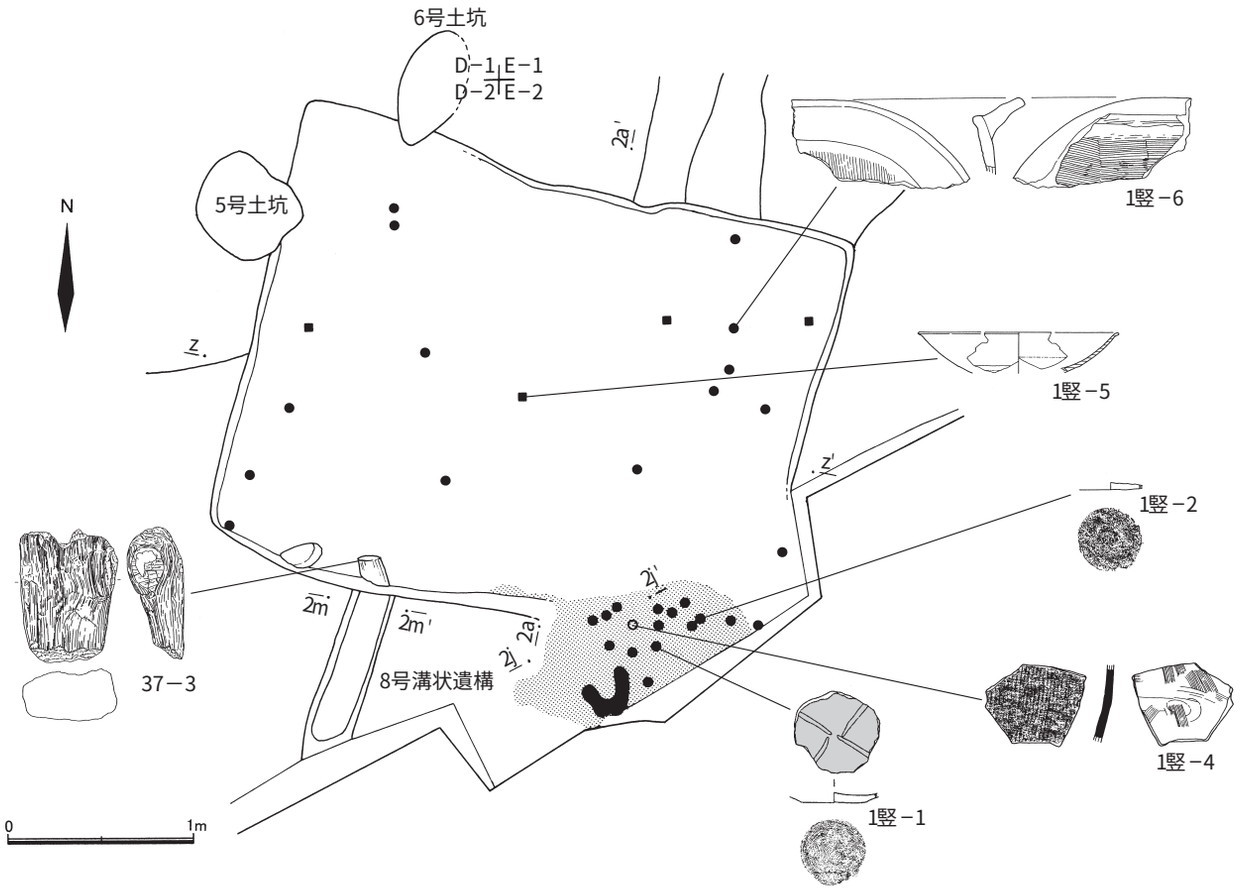
5号 溝状遺構・18号 溝状遺構
1　暗褐色土層　灰白色砂を含む。粘性無・しまり有。
2　暗褐色土層　粘性無・しまり有。
3　灰白色砂層　粘性無・しまり有。
4　暗褐色土層　粘性無・しまり有。
5　暗灰褐色砂層　暗褐色土層混じり。粘性無・しまり有。

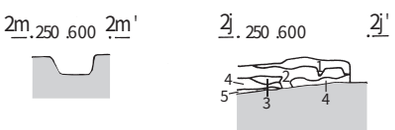


第９図　第Ⅲ面断面図



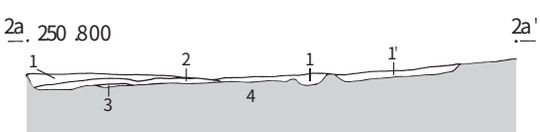
第10図　第Ⅲ面遺構図（D−1・2、E−1・2グリッド）





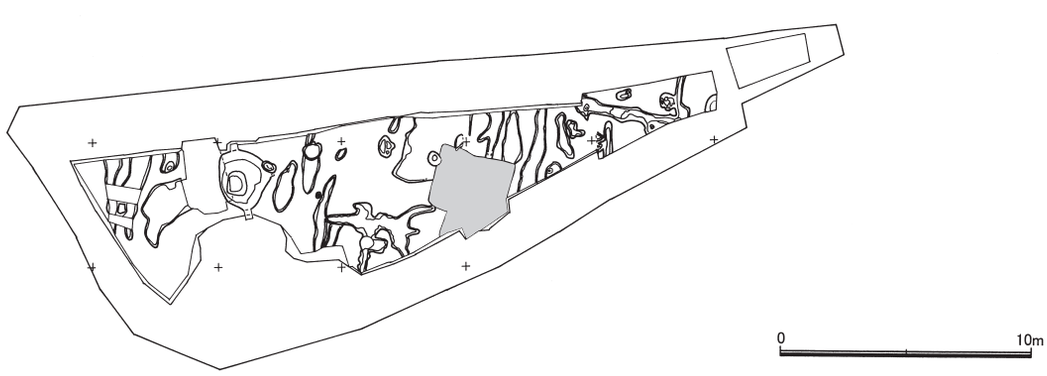
1号竪穴建物跡炭化物集中
1 黒色土層　　炭化物粒子の集積層。粘性無・しまり有。
2 暗灰褐色土層　φ２－３㎜の炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
3 暗褐色土層　　φ１－２㎜の炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
4 灰色シルト層　粘性無・しまり有。
5 暗褐色土層　　粘性無・しまり有。

1号竪穴建物跡（東西）
1 暗褐色土層　　φ１－２㎜炭化物を含む。粘性無・しまり無。
2 暗灰褐色砂層　暗褐色土を含む。粘性無・しまり無。
3 暗褐色シルト層　粘性有・しまり有。
4 暗灰褐色砂層　暗褐色土を含む。粘性無・しまり無。
5 暗灰褐色砂層　粘性無・しまり無。

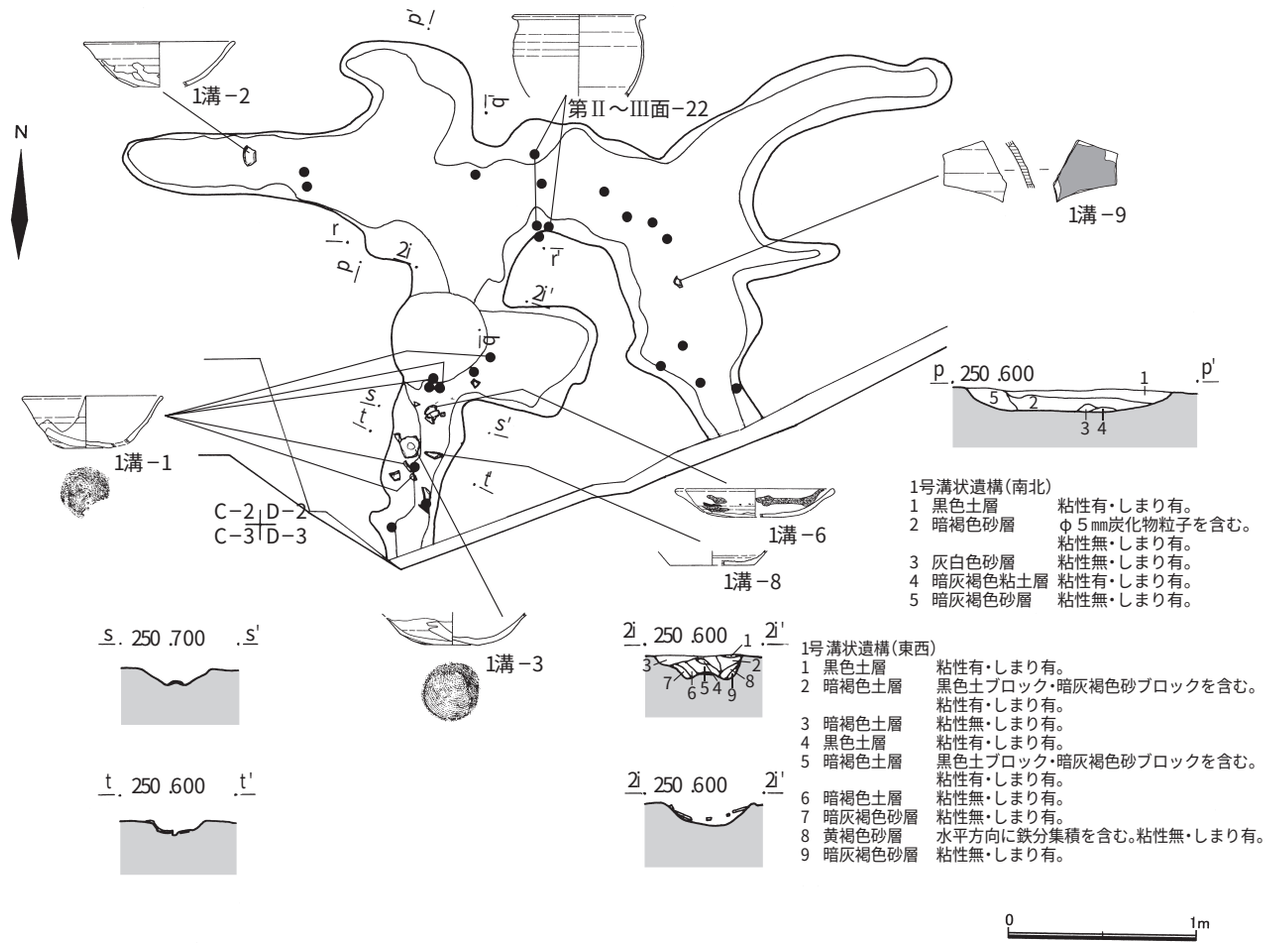


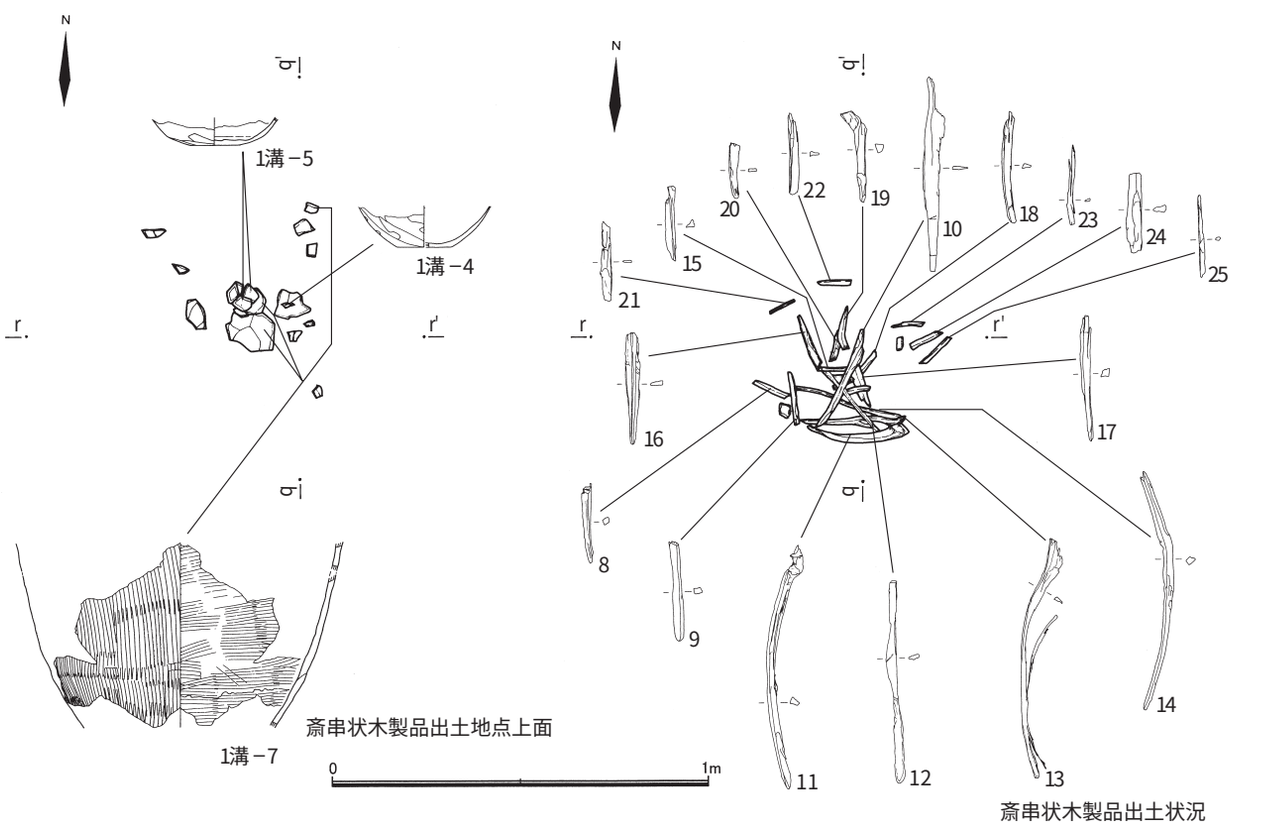
1号竪穴建物跡（南北）
1 暗褐色土層　　φ１－２㎜炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
1'暗褐色土層　　灰白色砂を含む。粘性無・しまり有。
2 黒褐色土層　　炭化物粒子の集積層。粘性無・しまり有。
3 灰白色砂層　　粘性無・しまり有。
4 暗灰褐色砂層　粘性無・しまり有。

0　1m

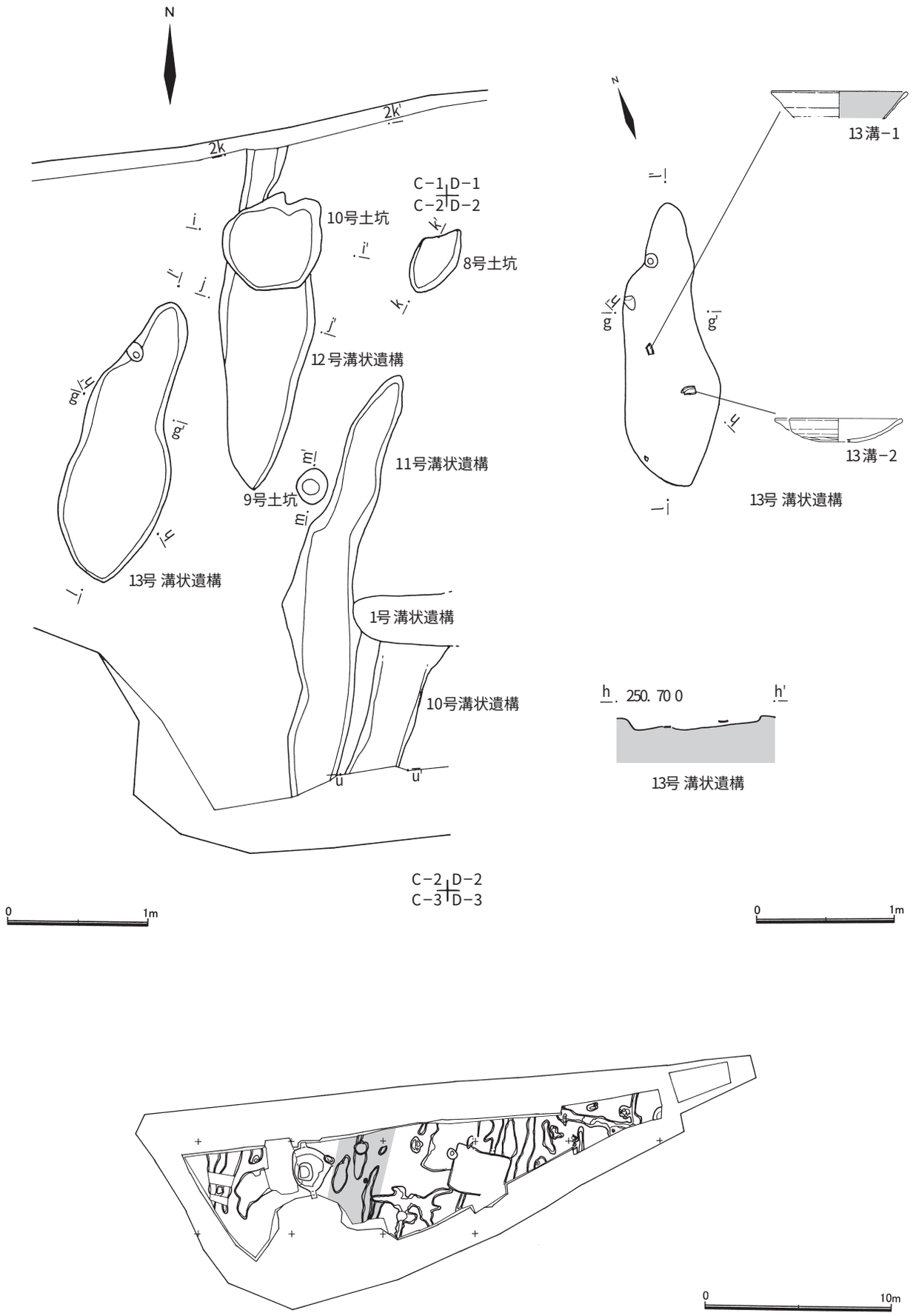


第11図　第Ⅲ面遺構図（Ｄ－２、Ｅ－２グリッド）

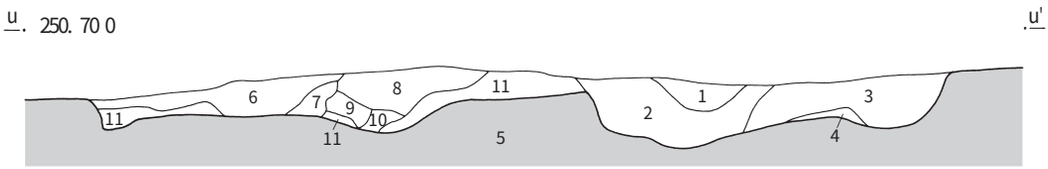




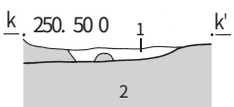
第12図　第Ⅲ面遺構図（Ｃ－２、Ｄ－２グリッド）



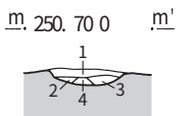
第13図　第Ⅲ面遺構図（C－2グリッド）



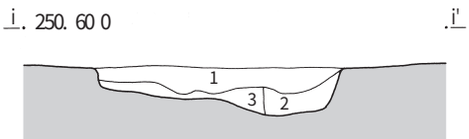
19号溝状遺構
1 灰白色砂層　黒色土ブロックを含む。粘性無・しまり有。
2 灰白色砂層　粘性無・しまり有。
3 灰白色砂層　暗褐色土ブロックを含む。粘性無・しまり有。
4 暗褐色土層　黒色土ブロック、灰白色砂を含む。粘性無・しまり有。
5 暗灰褐色砂層　粘性無・しまり有。
6 暗褐色土層　φ１－２㎜炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
7 暗褐色土層　灰白色砂を含む。粘性無・しまり有。
8 暗褐色土層　φ１－２㎜炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
9 暗褐色土層　φ２－５㎜炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
10 暗褐色土層　粘性無・しまり有。
11 暗灰褐色砂層　粘性無・しまり有。



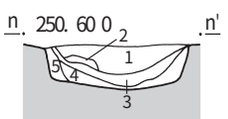
8号土坑
1 暗褐色土層　粘性無・しまり有。
2 暗灰褐色砂層　粘性無・しまり有。



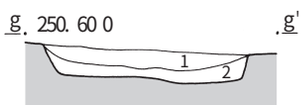
9号土坑
1 黒色土層　粘性無・しまり無。
2 灰白色砂層　粘性無・しまり無。
3 暗灰褐色砂層　灰白色砂を含む。粘性無・しまり無。
4 暗灰褐色砂層　粘性無・しまり無。



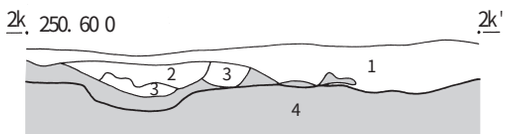
10号土坑
1 黒褐色土層　粘性無・しまり有。
2 暗褐色土層　粘性有・しまり有。
3 暗灰褐色砂層　地山層。粘性無・しまり有。



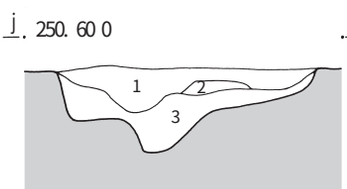
10号溝状遺構
1 暗褐色土層　黒色土、灰色砂を含む。粘性無・しまり有。
2 暗褐色土層　灰白色砂を含む。粘性無・しまり有。
3 黒色土層　炭化物粒子の集積層。粘性無・しまり有。
4 暗褐色土層　粘性無・しまり有。
5 暗灰褐色シルト層　粘性有・しまり有。



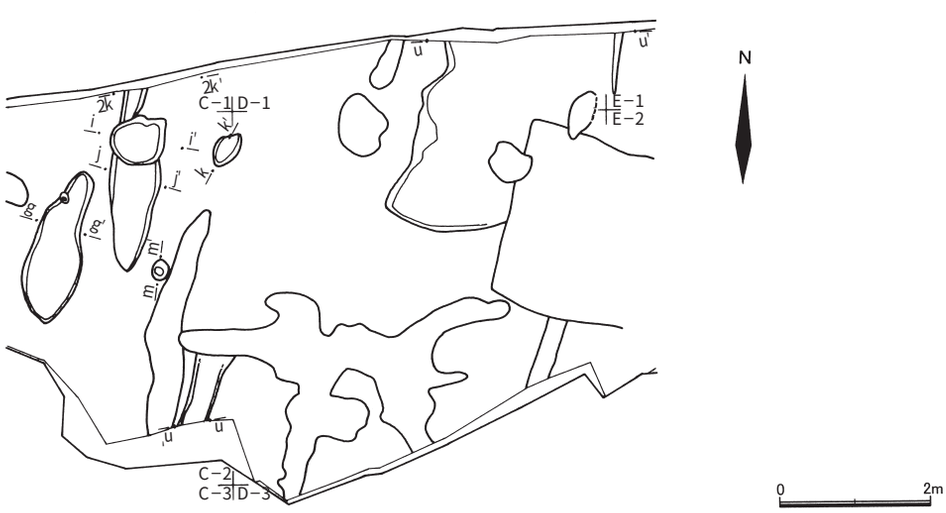
13号溝状遺構
1 暗褐色土層　粘性無・しまり有。
2 暗灰褐色砂層　暗灰褐色粘土ブロック・植物片を含む。粘性有・しまり有。



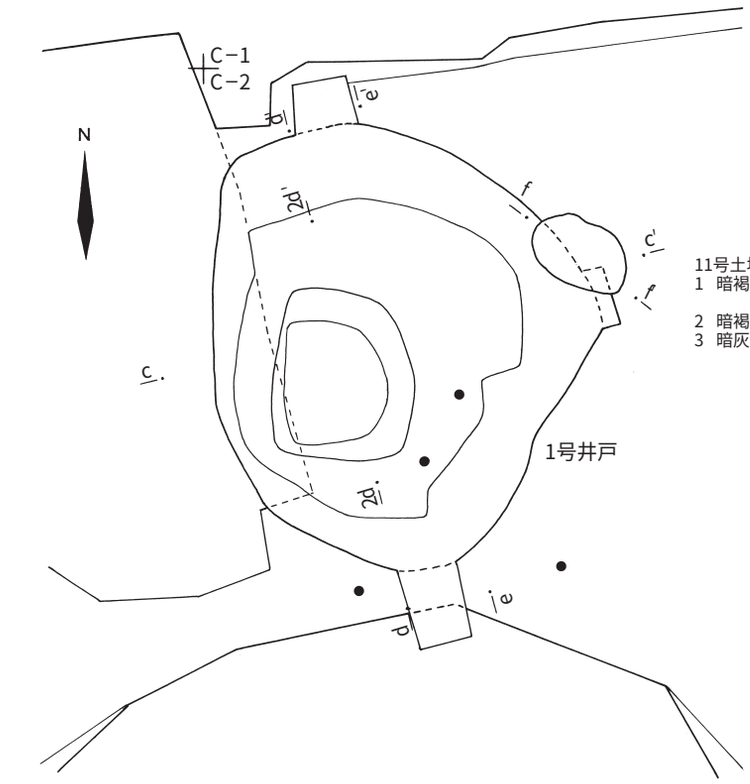
12号溝状遺構
1 暗褐色土層　灰白色砂を含む。粘性無・しまり有。
2 暗褐色土層　粘性無・しまり有。
3 暗褐色土層　暗灰褐色砂を含む。粘性無・しまり有。
4 暗灰褐色砂層　粘性無・しまり有。

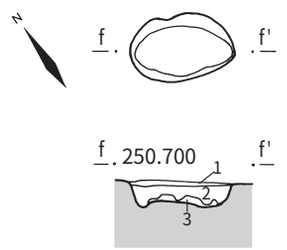


12号溝状遺構
1 暗褐色土層　φ５㎜炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
2 灰色砂層　粘性無・しまり有。
3 暗灰褐色砂層　暗灰褐色粘土ブロック・植物片を含む。粘性有・しまり有。

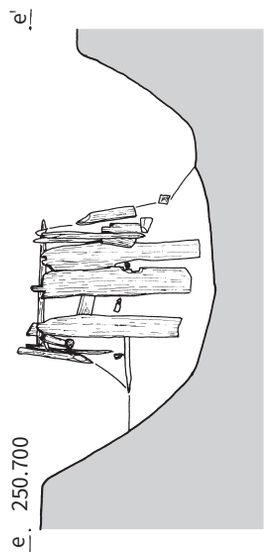


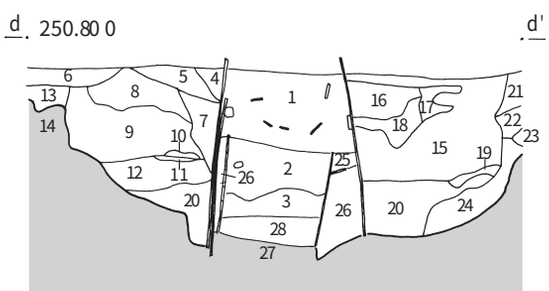
第14図　第Ⅲ面断面図

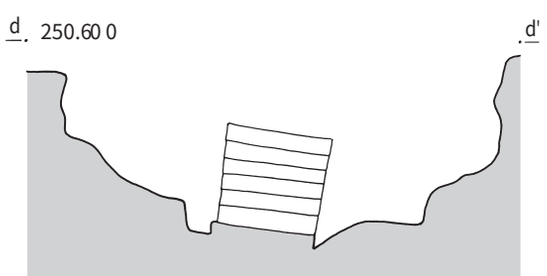




11号土坑
1 暗褐色土層　上部に黒色土層を有す。
　φ１－２㎜炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
2 暗褐色砂層　暗灰褐色粘土ブロックを含む。粘性有。しまり有り。
3 暗灰褐色砂層　粘性有・しまり有。





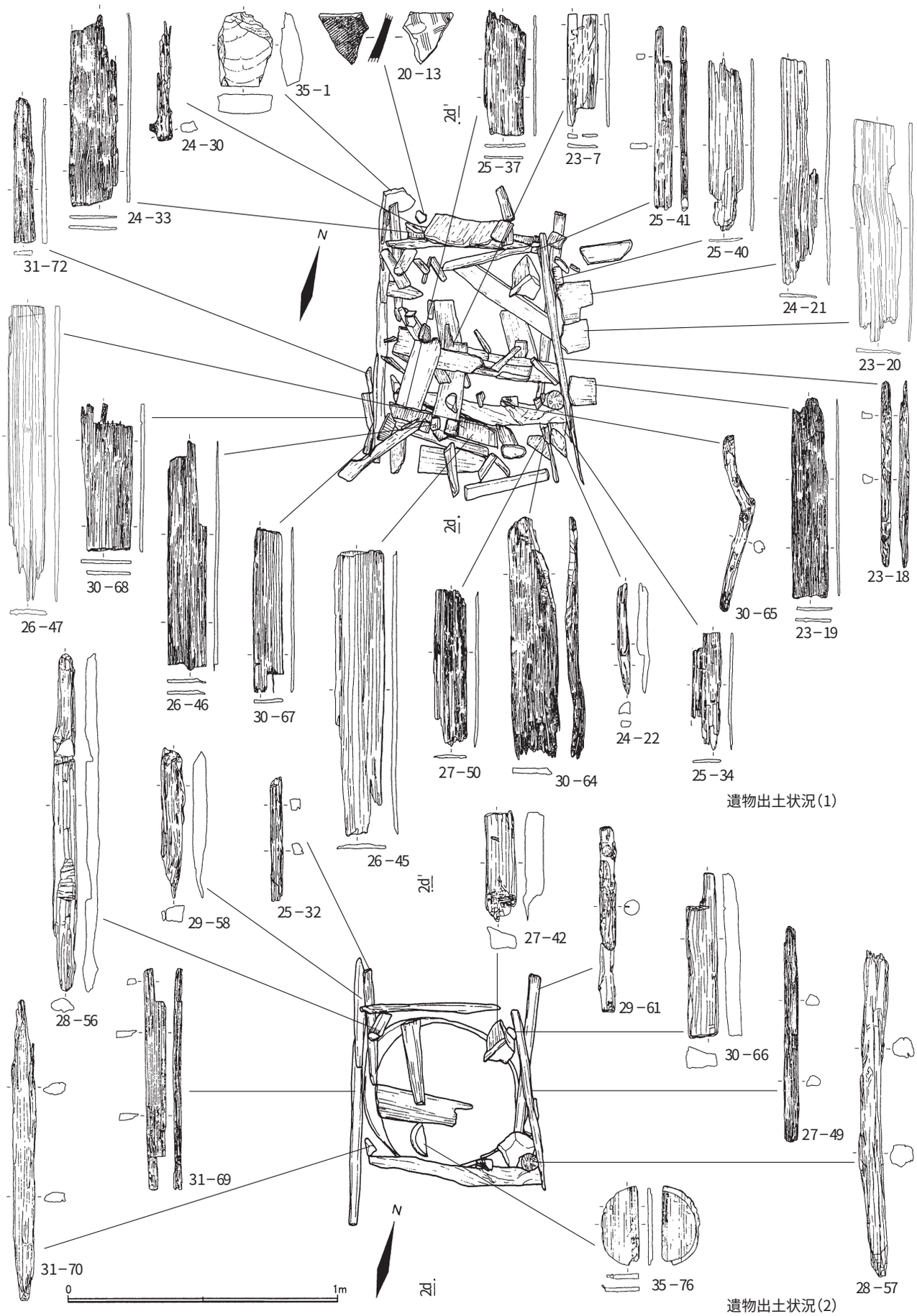


1号井戸

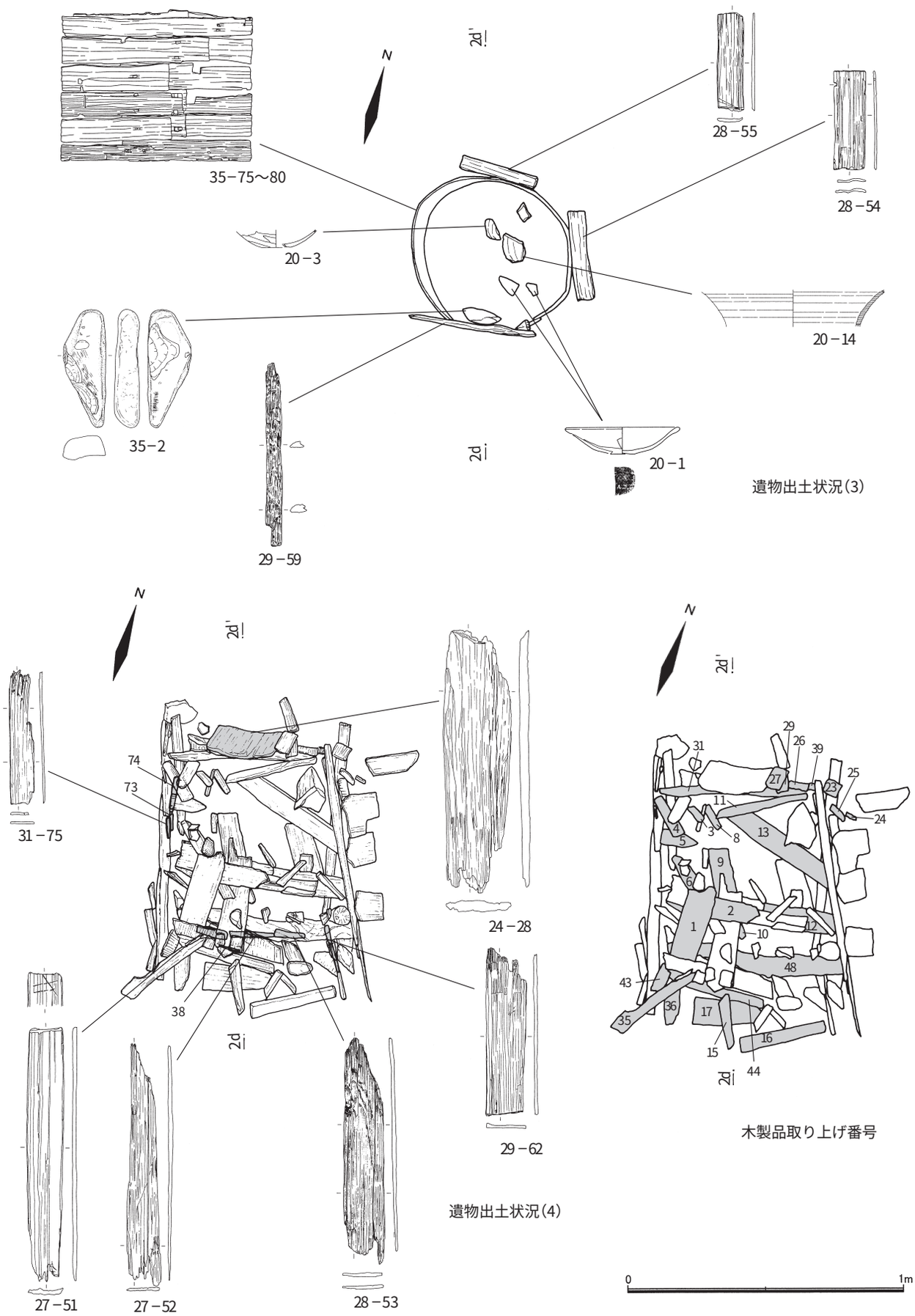
1	暗褐色土層	細砂を含む。粘性無・しまり有。
2	暗褐色シルト層	灰色砂を含む。粘性無・しまり有。
3	灰色砂層	粘性無・しまり無。
4	黒褐色砂層	粘性無・しまり有。
5	暗褐色シルト層	粘性無・しまり有。
6	灰白色砂層	暗褐色シルトを含む。粘性無・しまり有。
7	暗黄褐色土層	黄褐色土層は鉄分集積の可能性あり。粘性無・しまり有。
8	暗褐色シルト層	φ２－３㎜炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
9	暗褐色土層	水平方向に灰色砂を含む。粘性無・しまり有。
10	暗褐色シルト層	粘性無・しまり有。
11	黒色土層	遺物包含層。粘性有・しまり有。
12	暗褐色土層	粘性無・しまり有。
13	暗褐色シルト層	粘性有・しまり有。
14	灰色砂層	粘性無・しまり有。
15	暗褐色土層	φ２－３㎜炭化物粒子を含む。粘性無・しまり有。
16	褐色土層	粘性無・しまり有。
17	黄褐色砂層	粘性無・しまり有。
18	褐色土層	φ5cm粘土ブロックを含む。粘性有・しまり有。
19	灰色砂層	粘性無・しまり有。
20	暗褐色土層	粘性無・しまり有。
21	暗褐色土層	粘性無・しまり有。
22	灰色砂層	粘性無・しまり無。
23	暗灰褐色砂層	粘性無・しまり無。
24	暗灰色砂層	粘性無・しまり無。
25	砂礫層	φ５cm礫を主体とする。粘性無・しまり無。
26	暗灰褐色砂層	粘性無・しまり有。
27	粗砂層	粘性無・しまり無。
28	シルト混じり細砂層	粘性無・しまり無。

0　1m

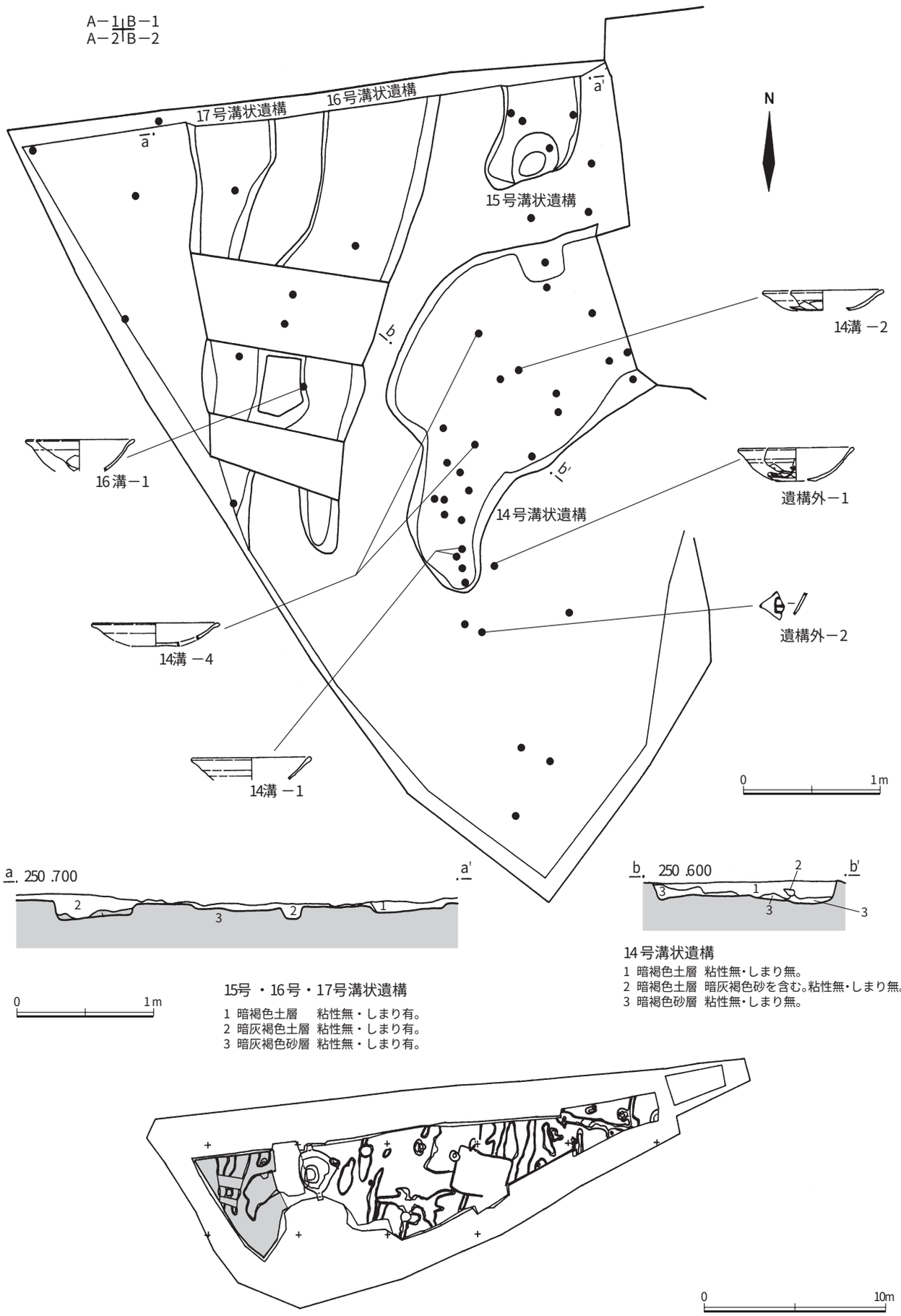
第15図　第Ⅲ面遺構図（Ｃ－２グリッド）



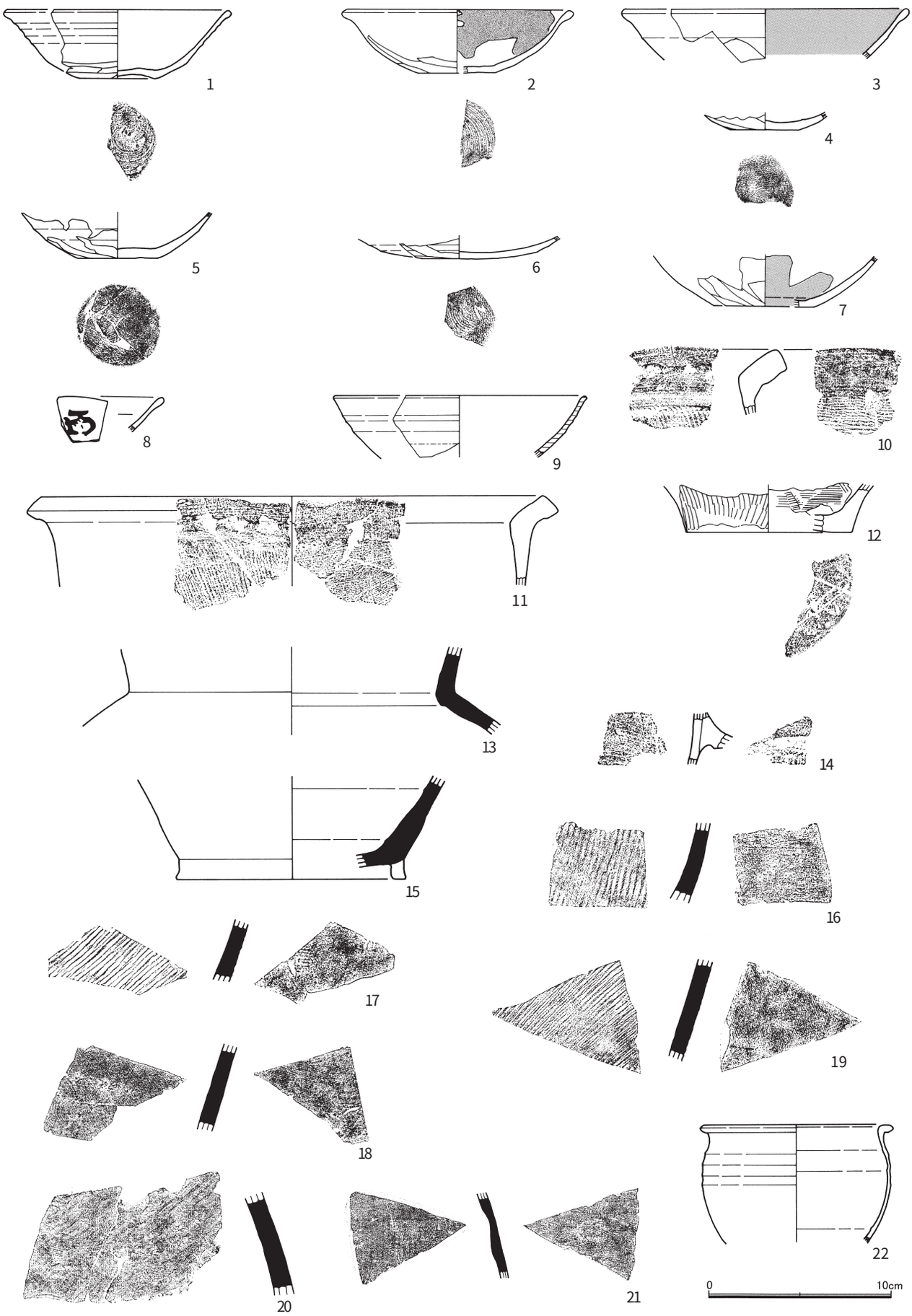
第16図　１号井戸出土遺物分布図（１）



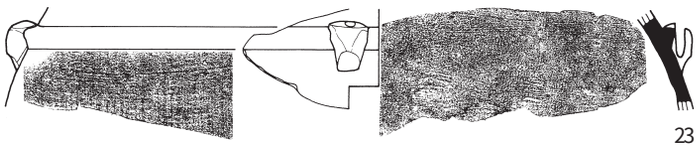
第17図　1号井戸出土遺物分布図（2）



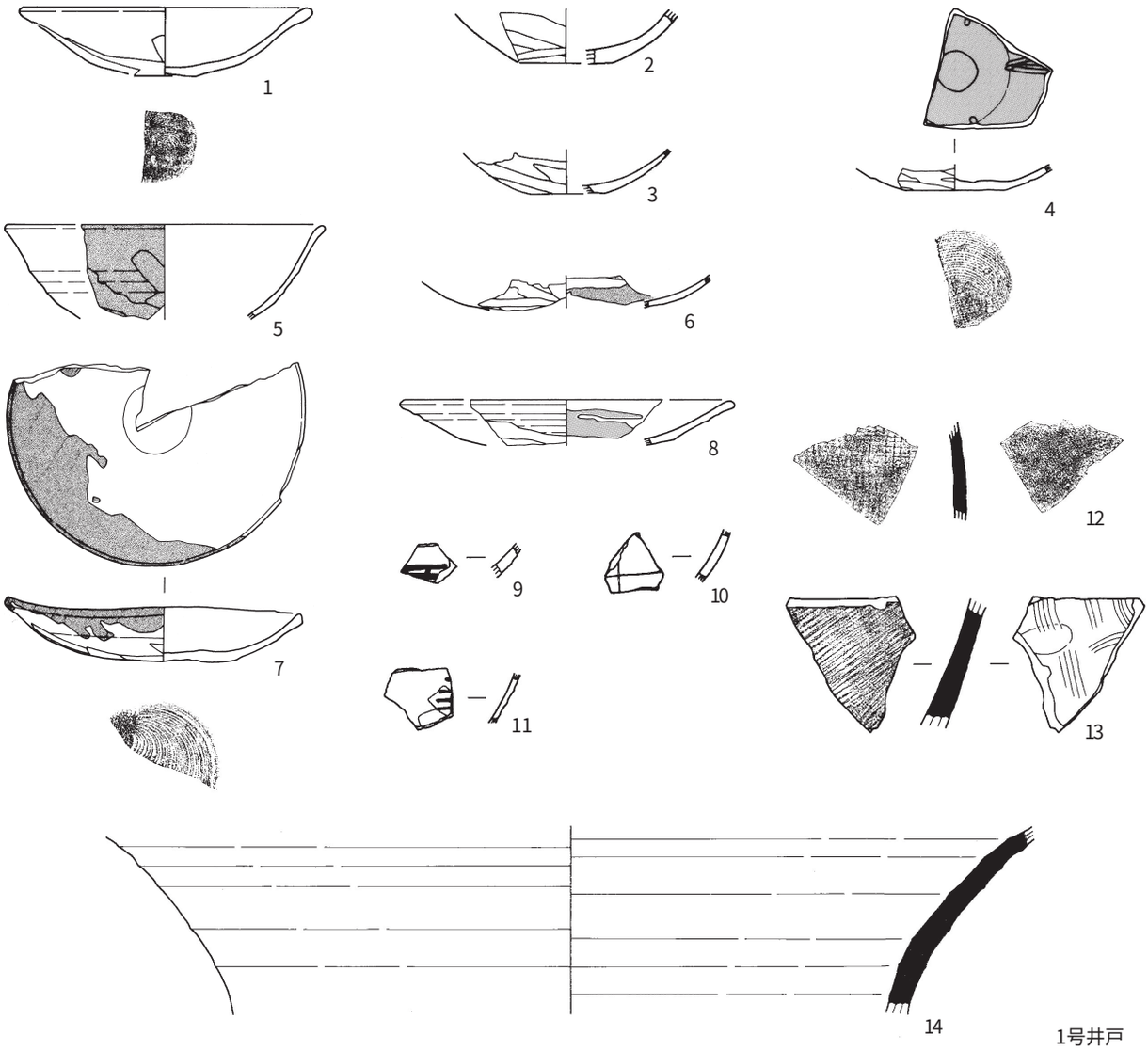
第18図　第Ⅲ面遺構図（A－2、B－2グリッド）



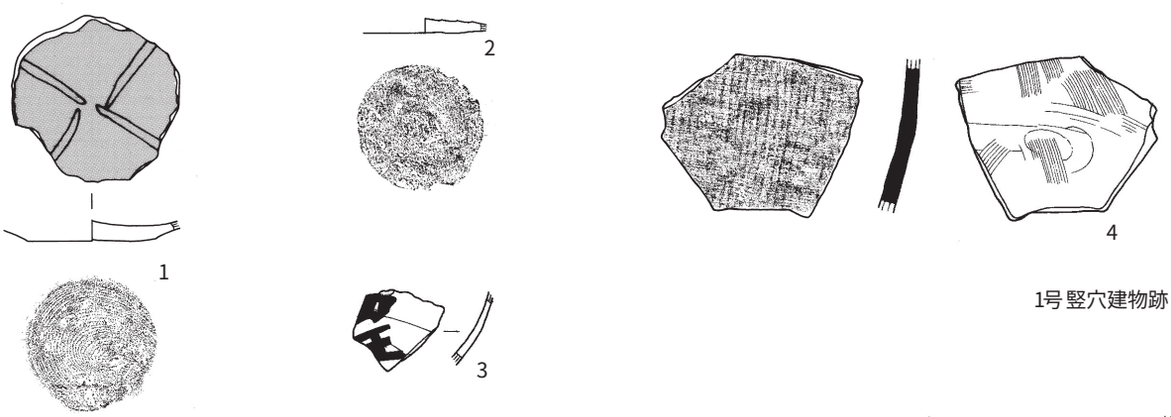
第19図　第Ⅱ～Ⅲ面出土遺物



第Ⅱ～Ⅲ面



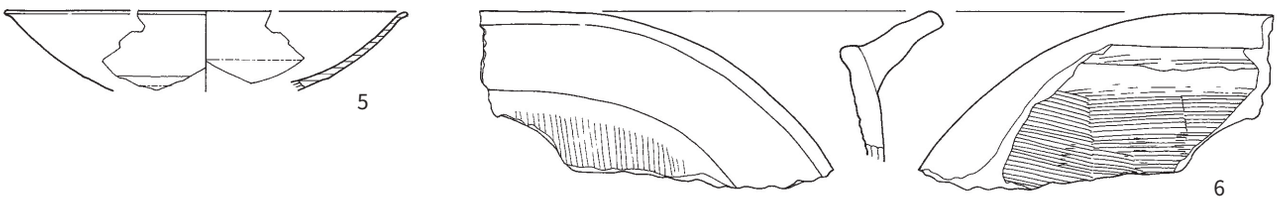
1号井戸



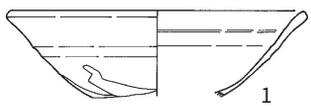
1号 竪穴建物跡

0 10cm

第20図　第Ⅱ～Ⅲ面・第Ⅲ面出土遺物

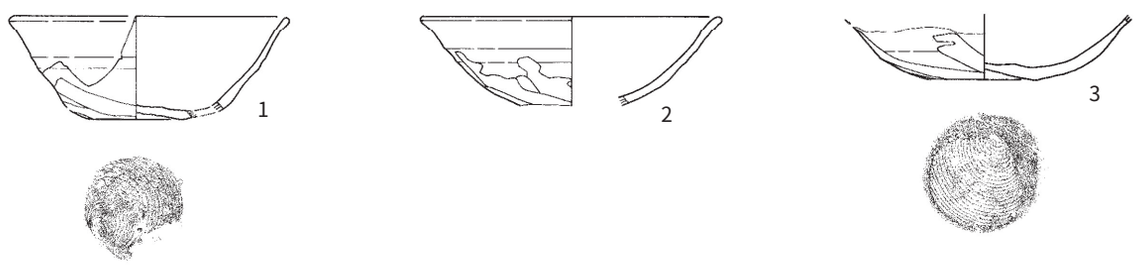


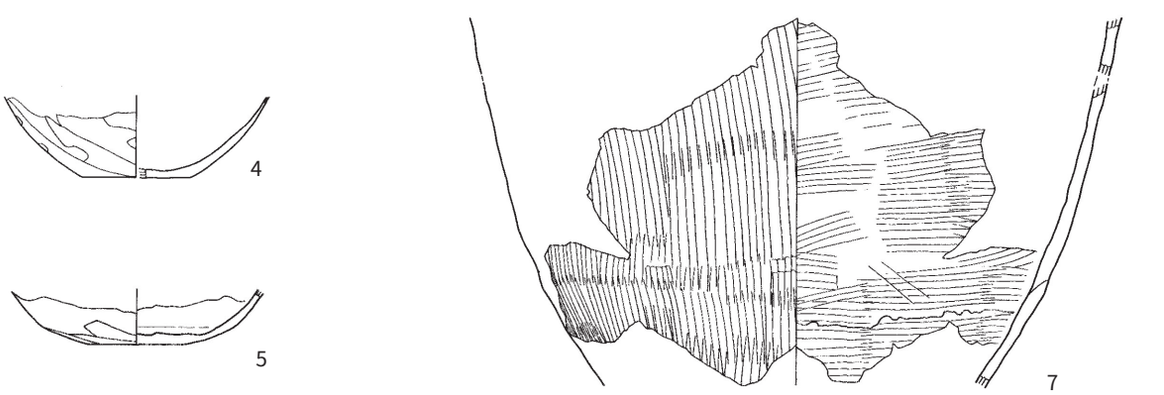
1号竪穴建物跡

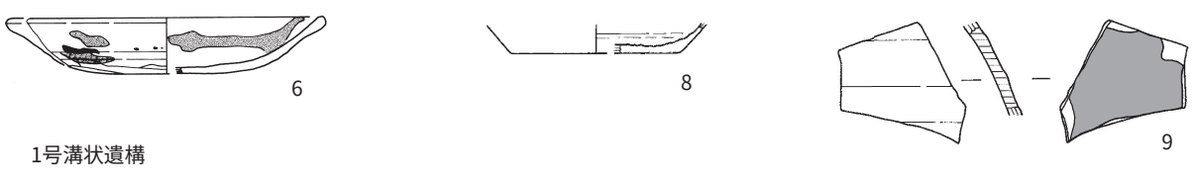


5号土坑

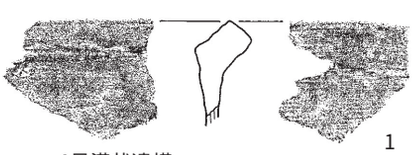
7号土坑



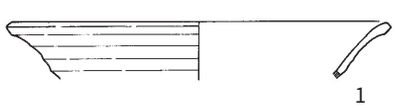




1号溝状遺構



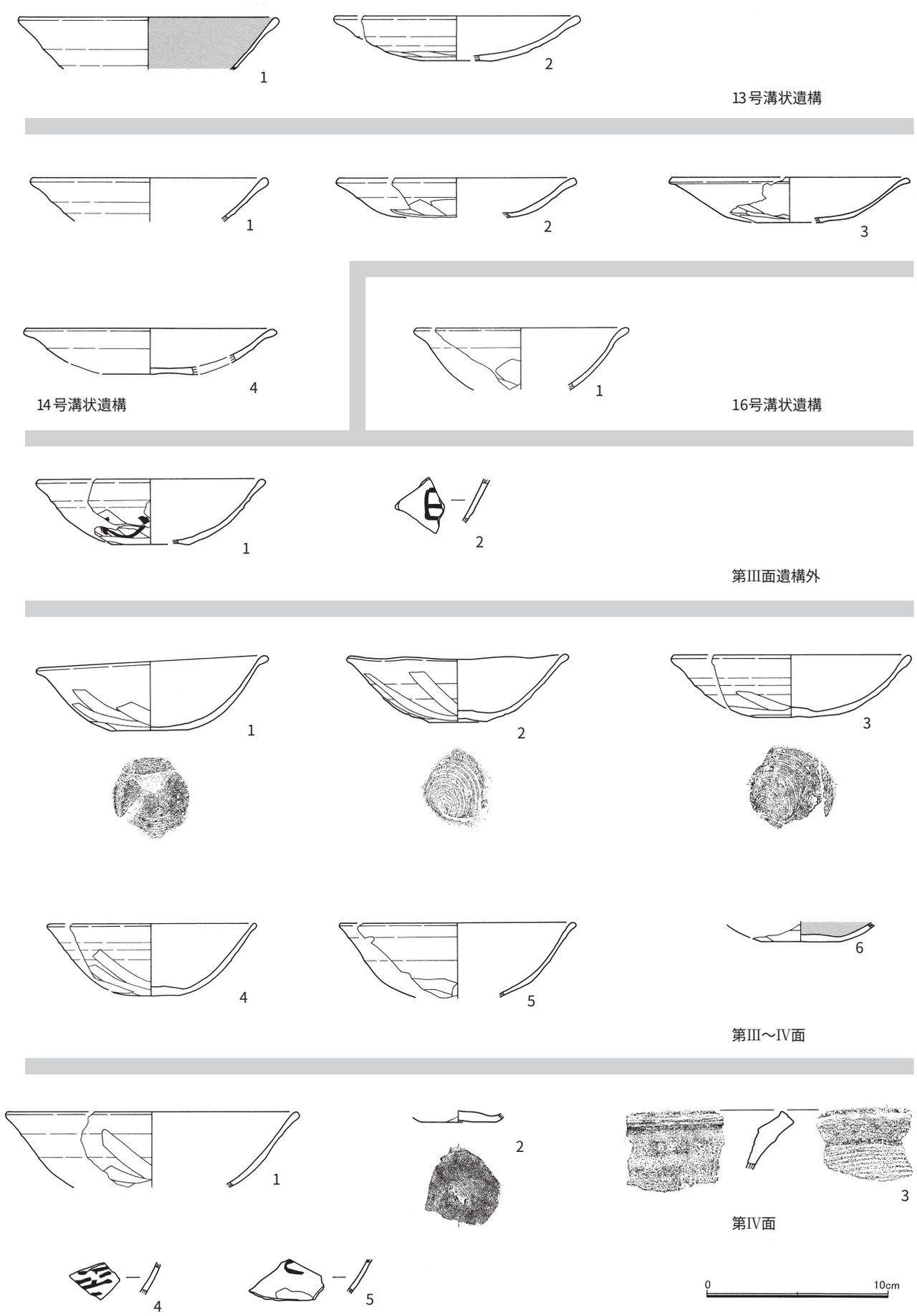
6号溝状遺構



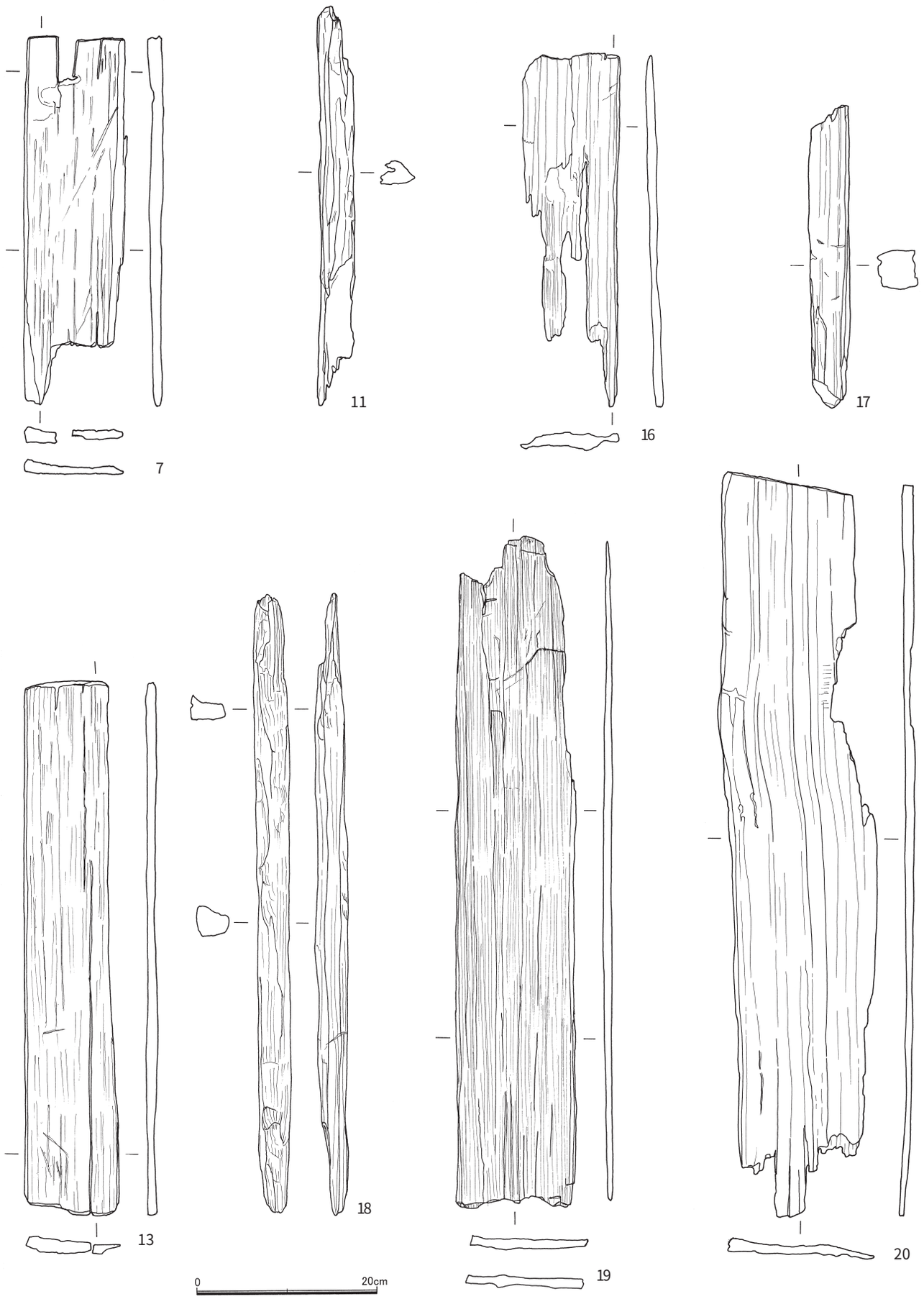
11号溝状遺構

0 10cm

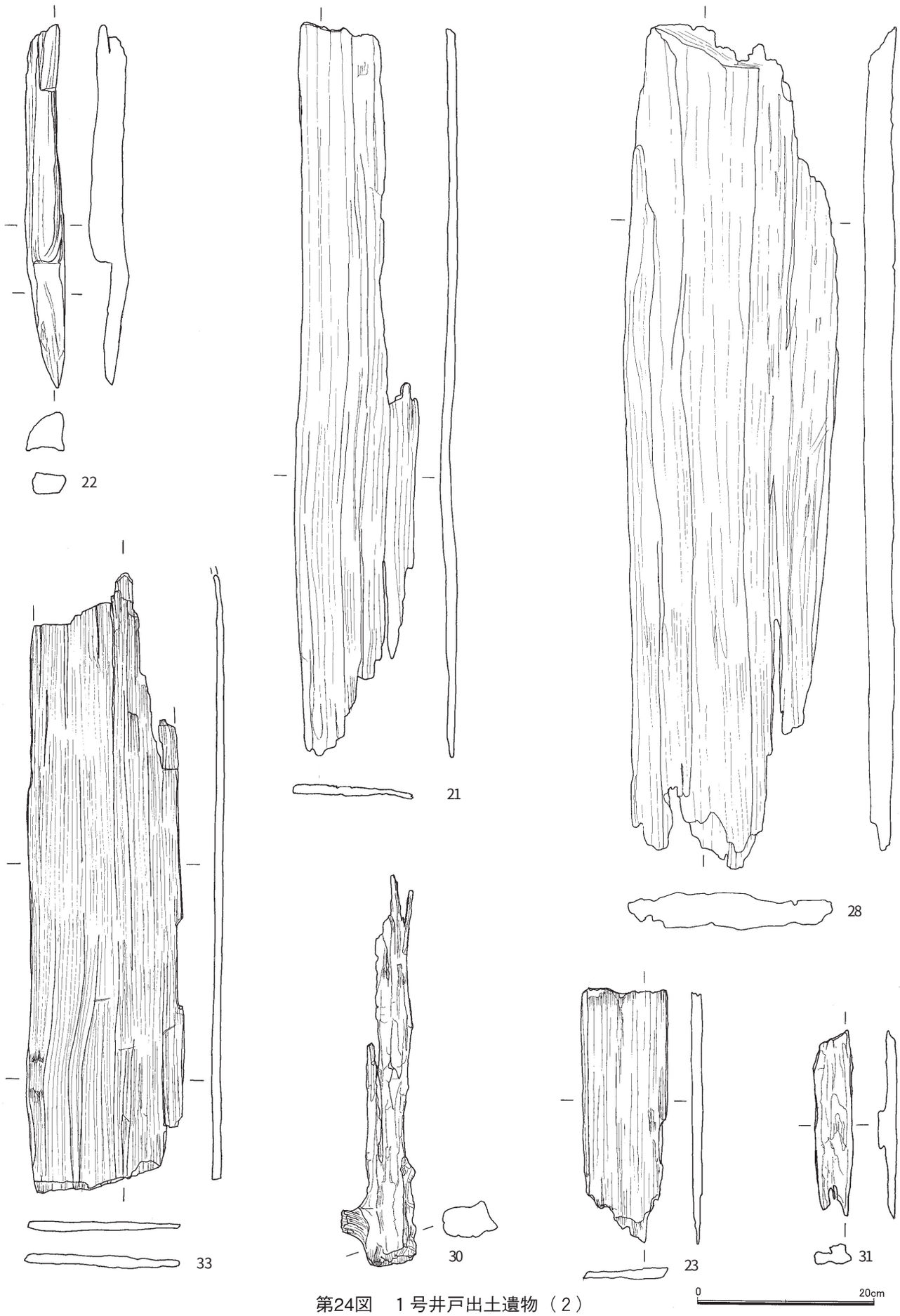
第21図　第Ⅲ面出土遺物



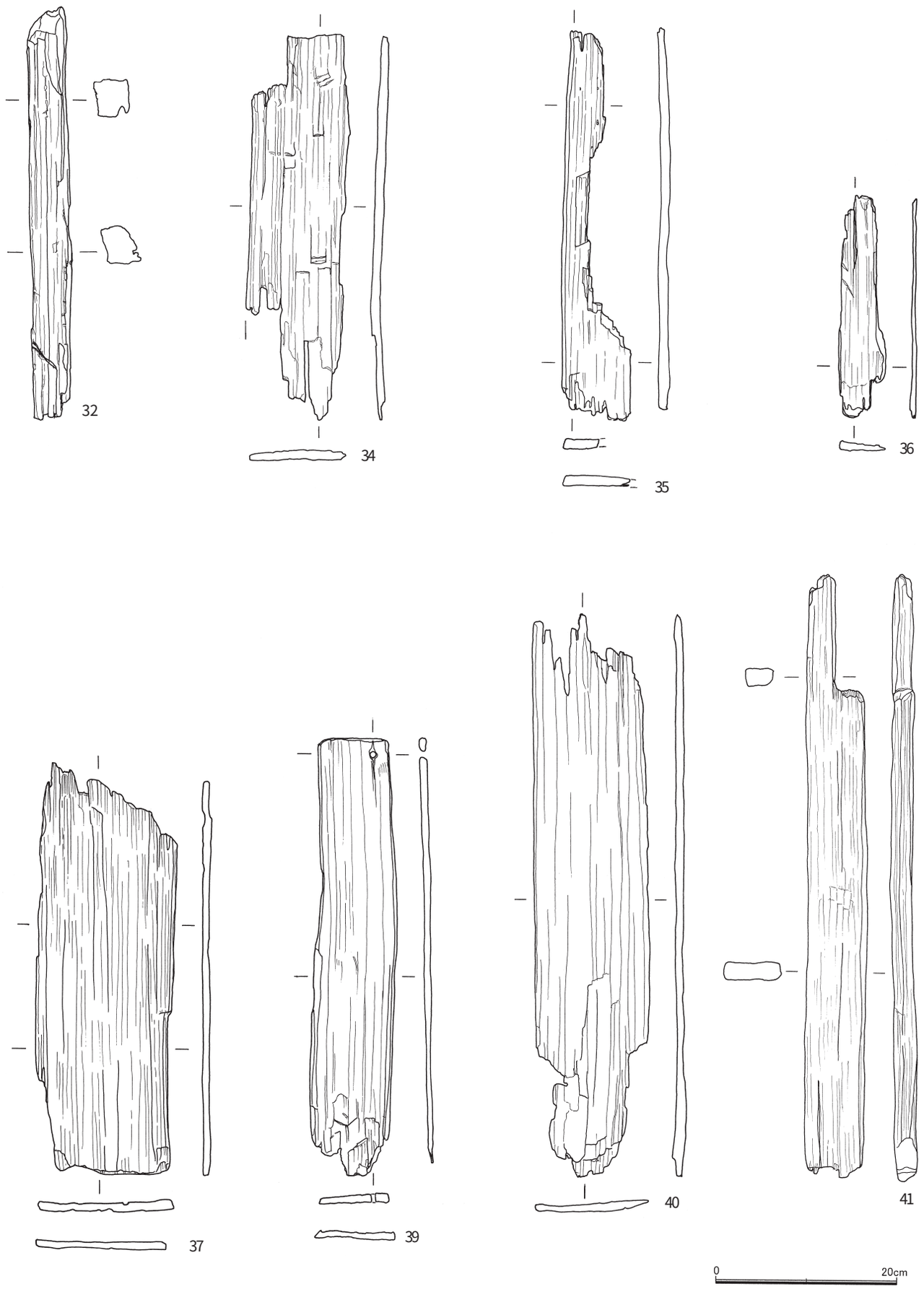
第22図　第Ⅲ面・第Ⅲ～Ⅳ面・第Ⅳ面出土遺物



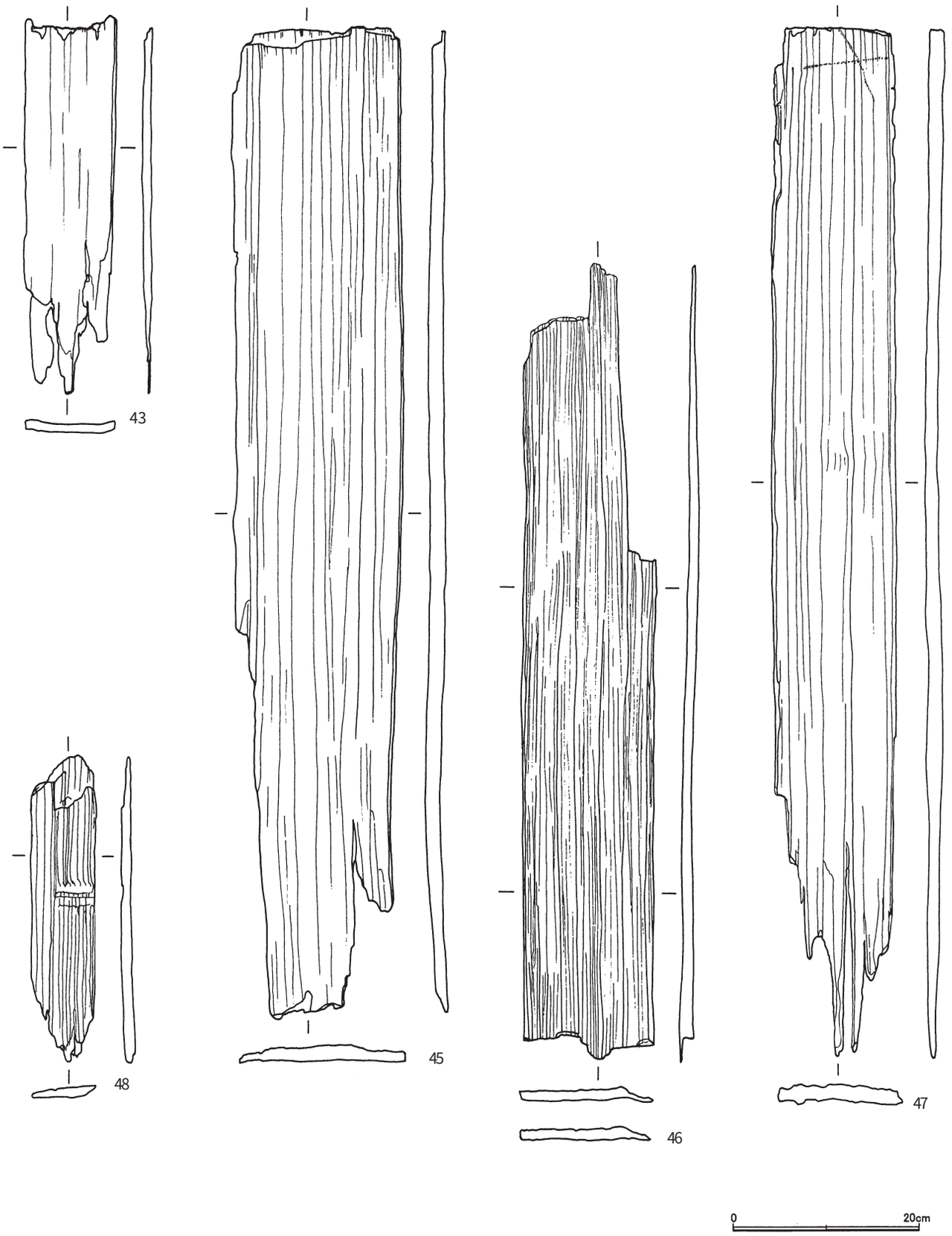
第23図　１号井戸出土遺物（１）



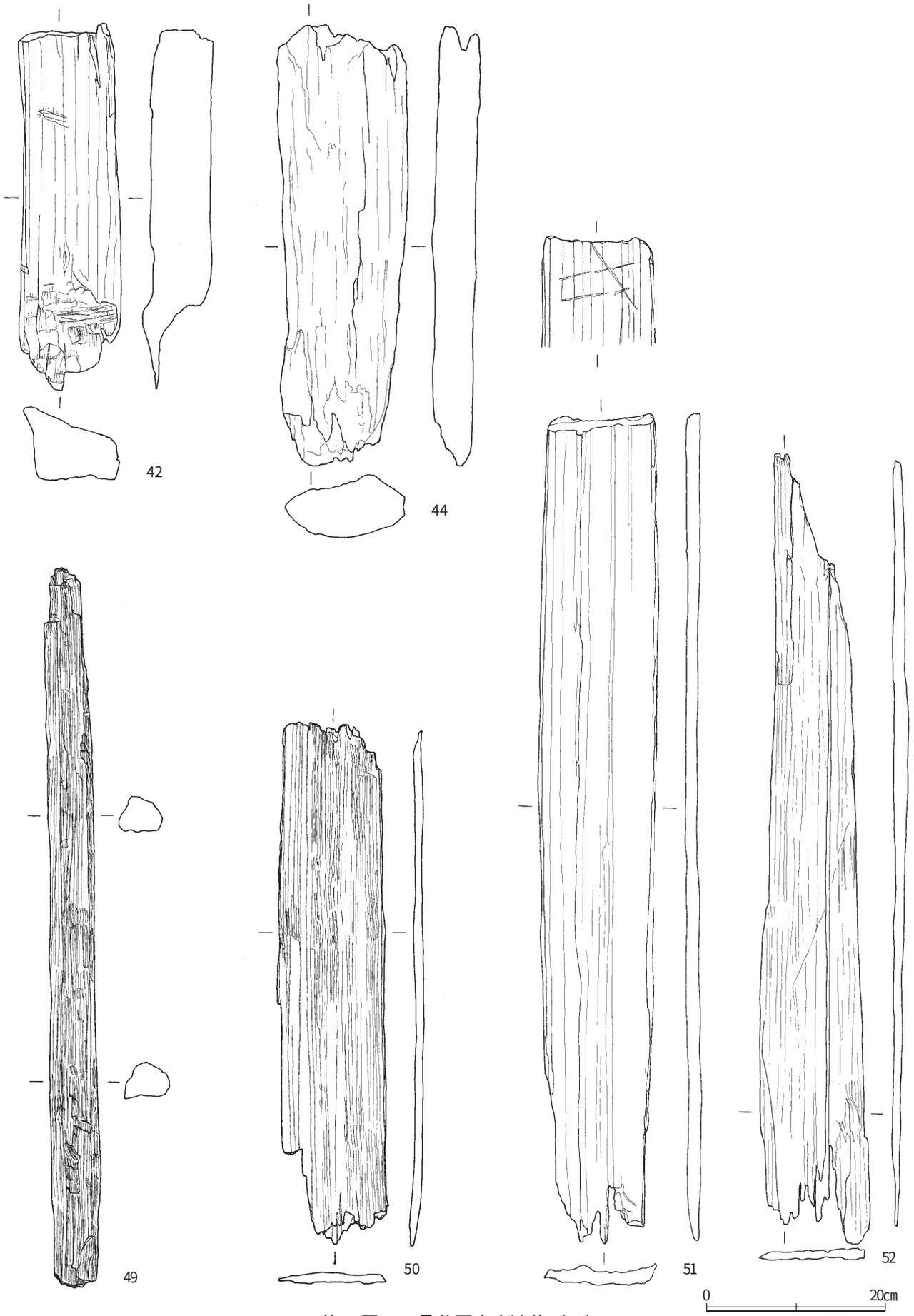
第24図　１号井戸出土遺物（２）



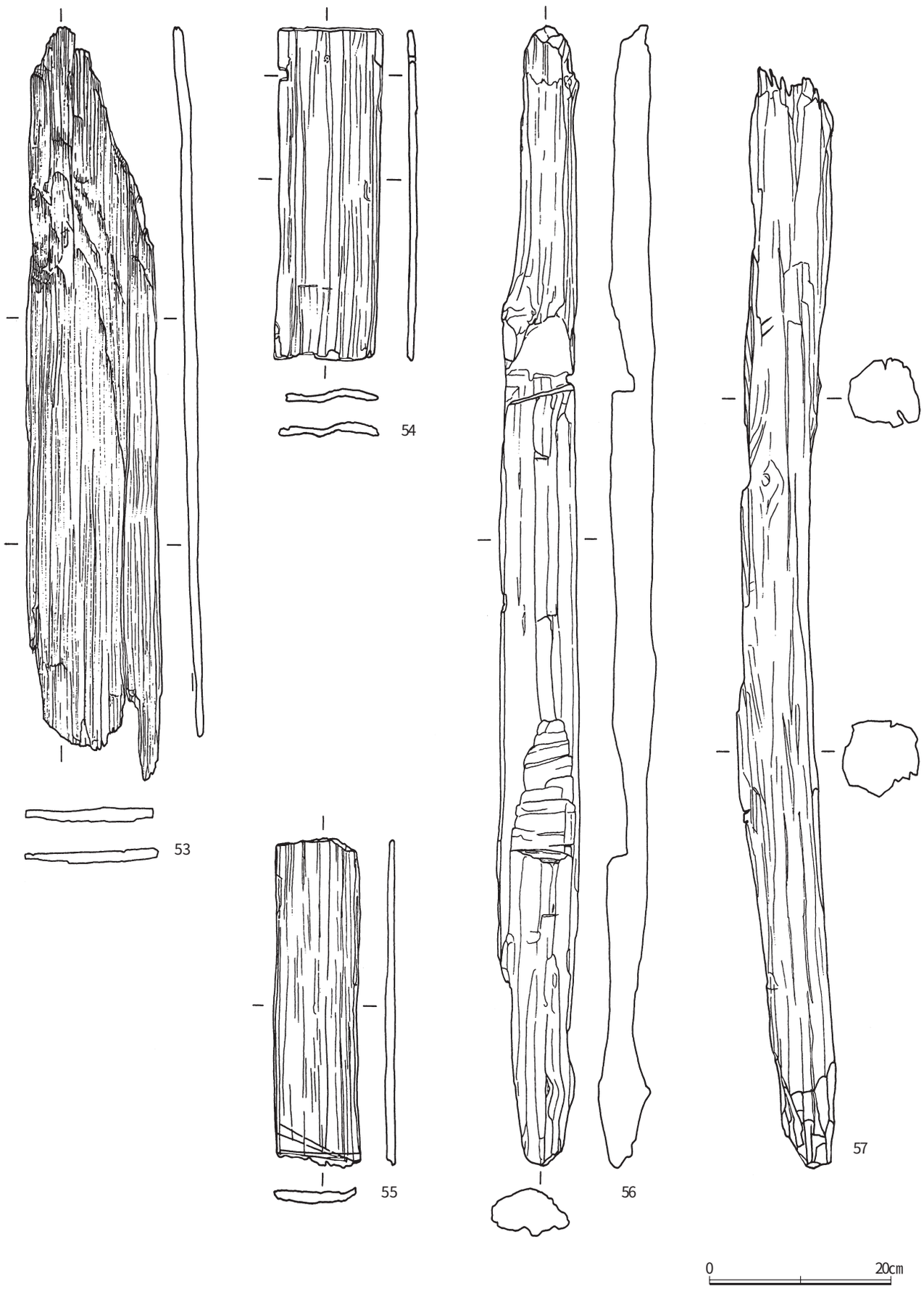
第25図　１号井戸出土遺物（３）



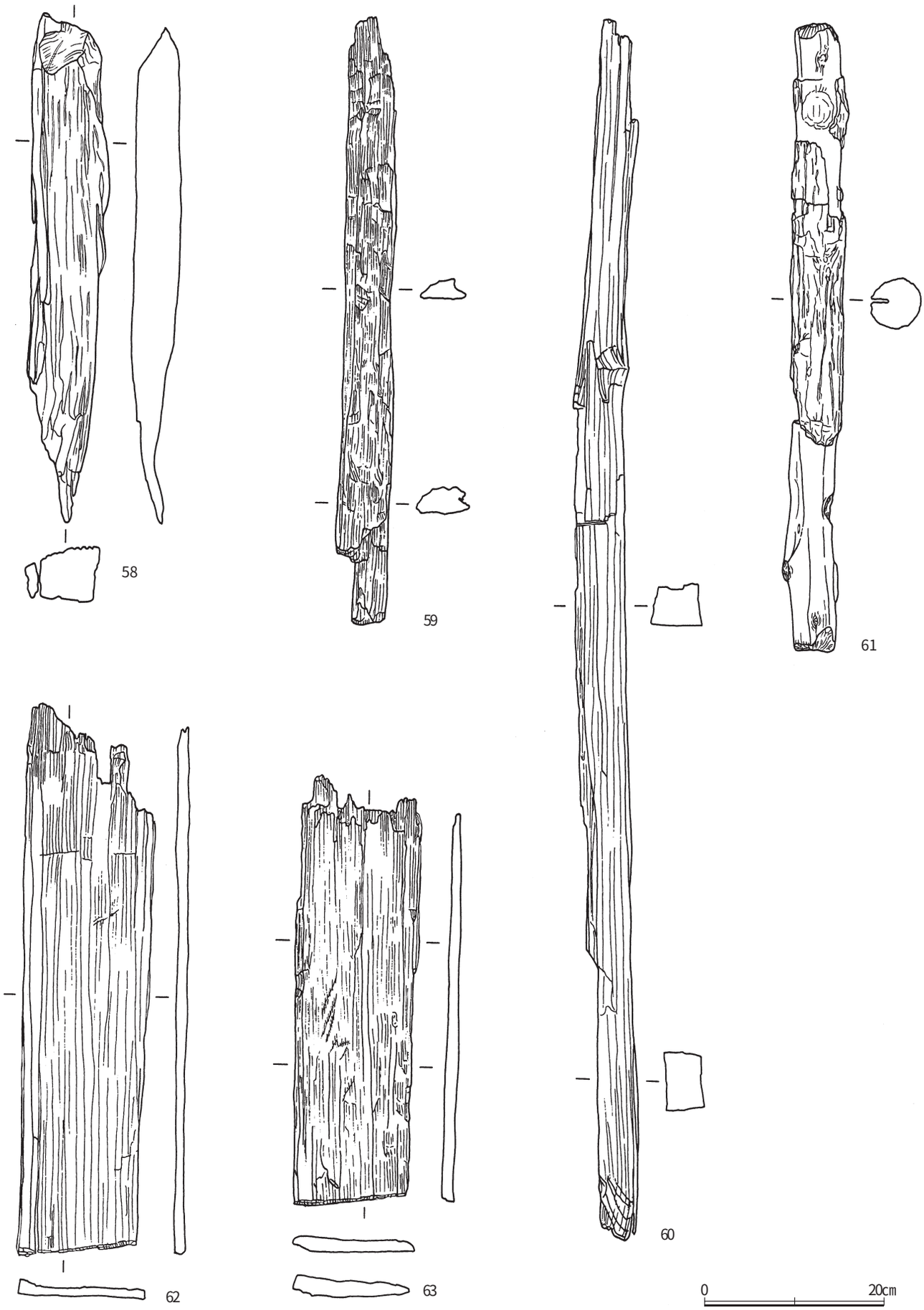
第26図　１号井戸出土遺物（４）



第27図　１号井戸出土遺物（５）

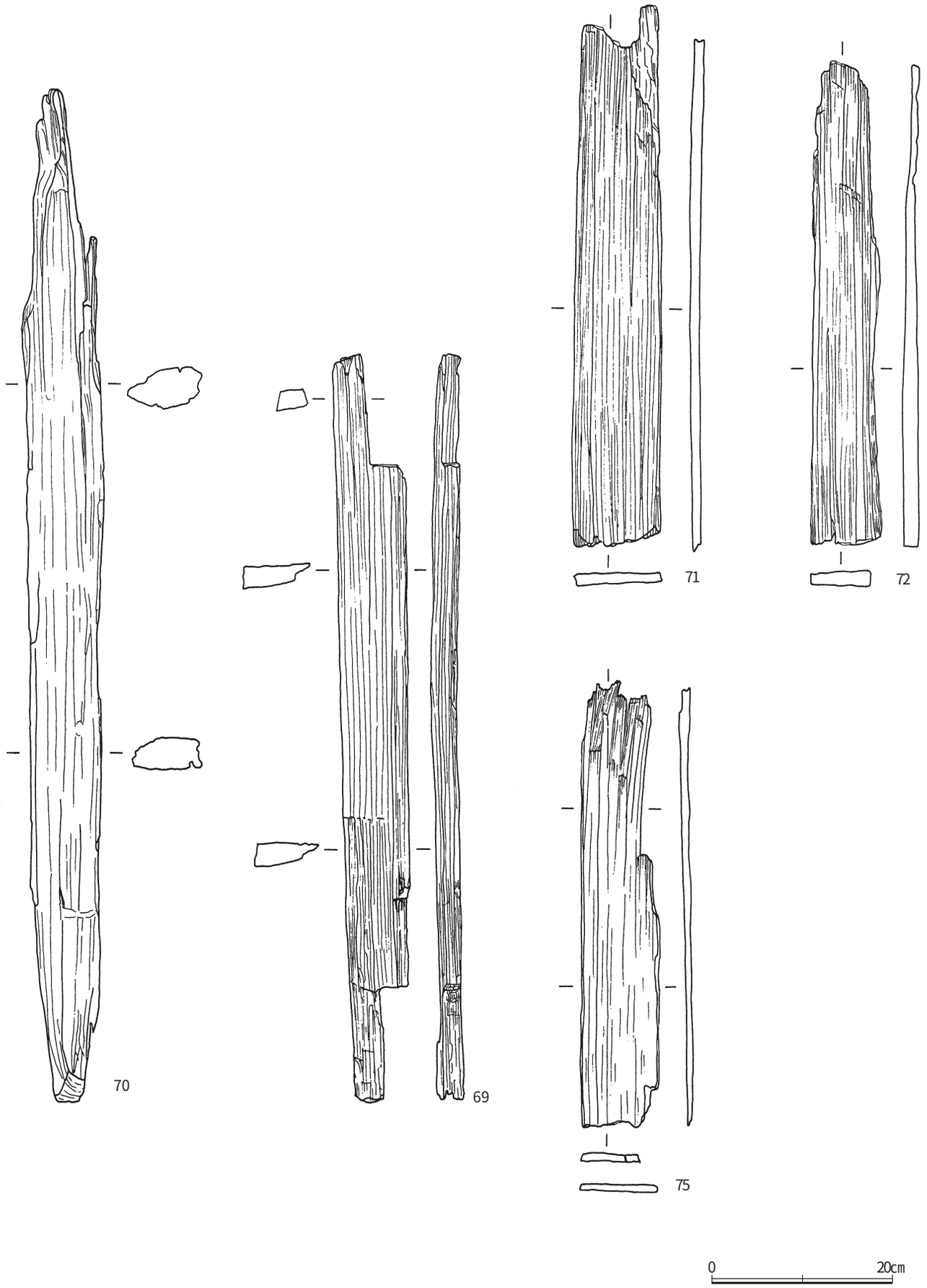


第28図　１号井戸出土遺物（６）

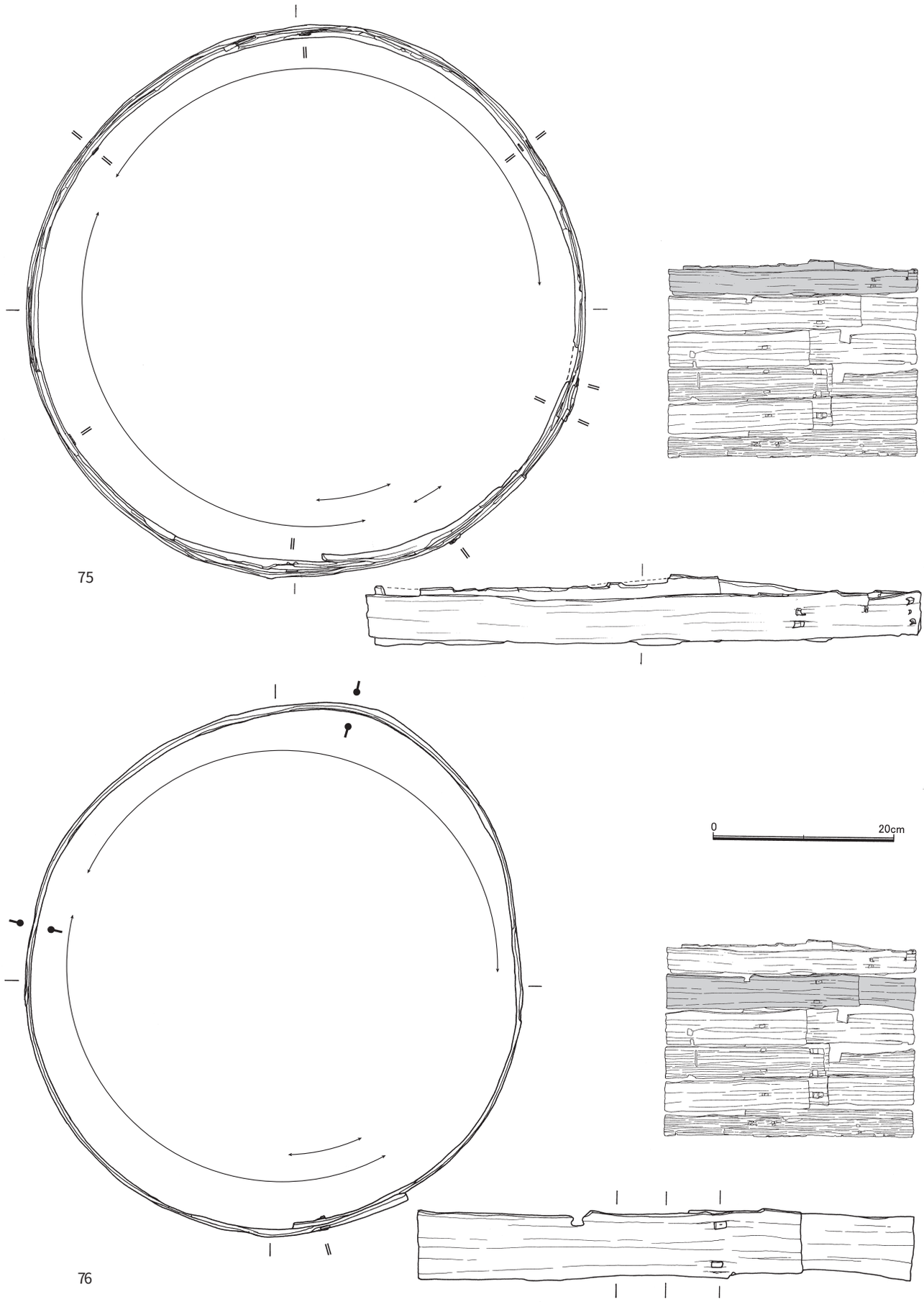


第29図　１号井戸出土遺物（７）

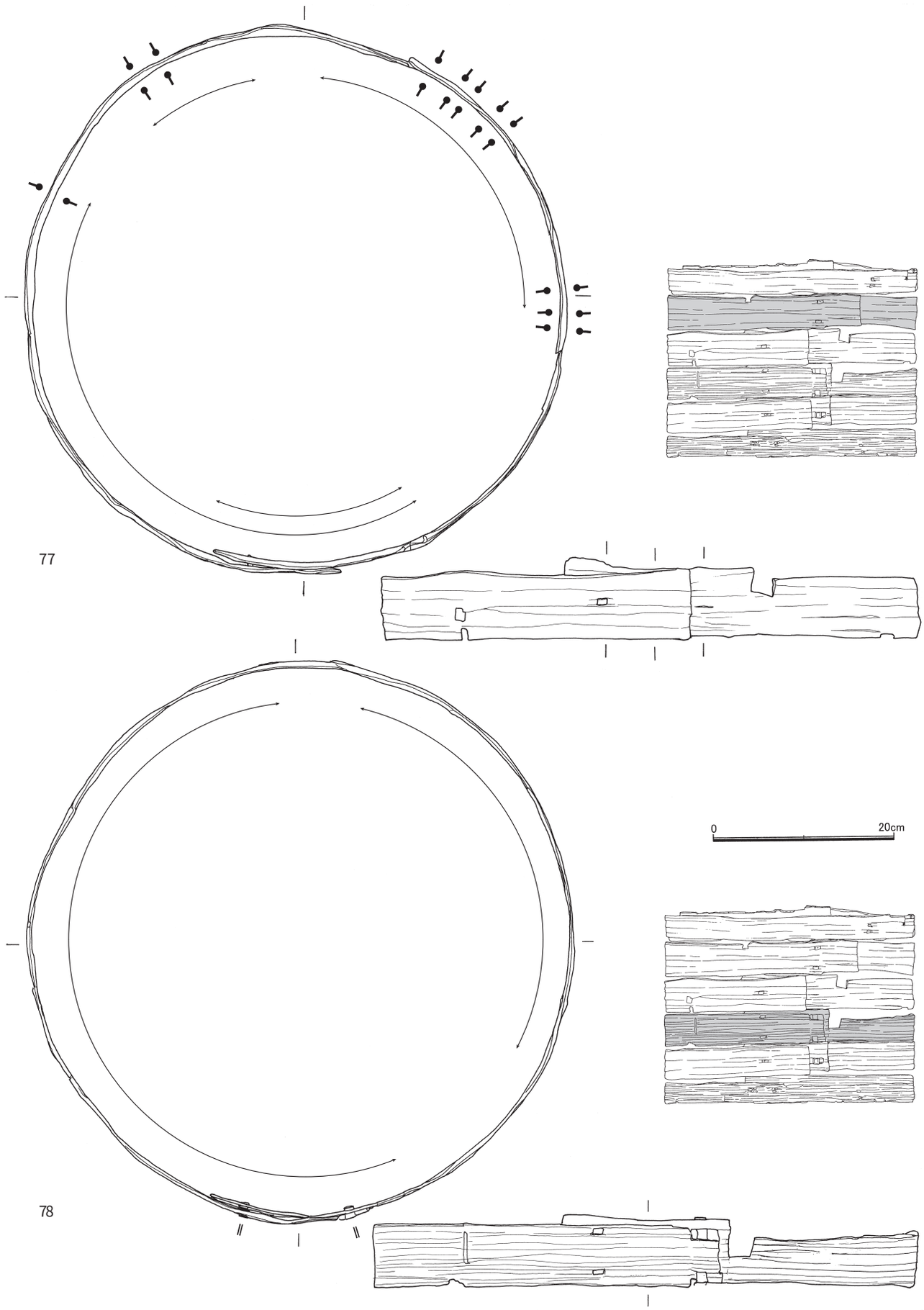
第30図　１号井戸出土遺物（８）



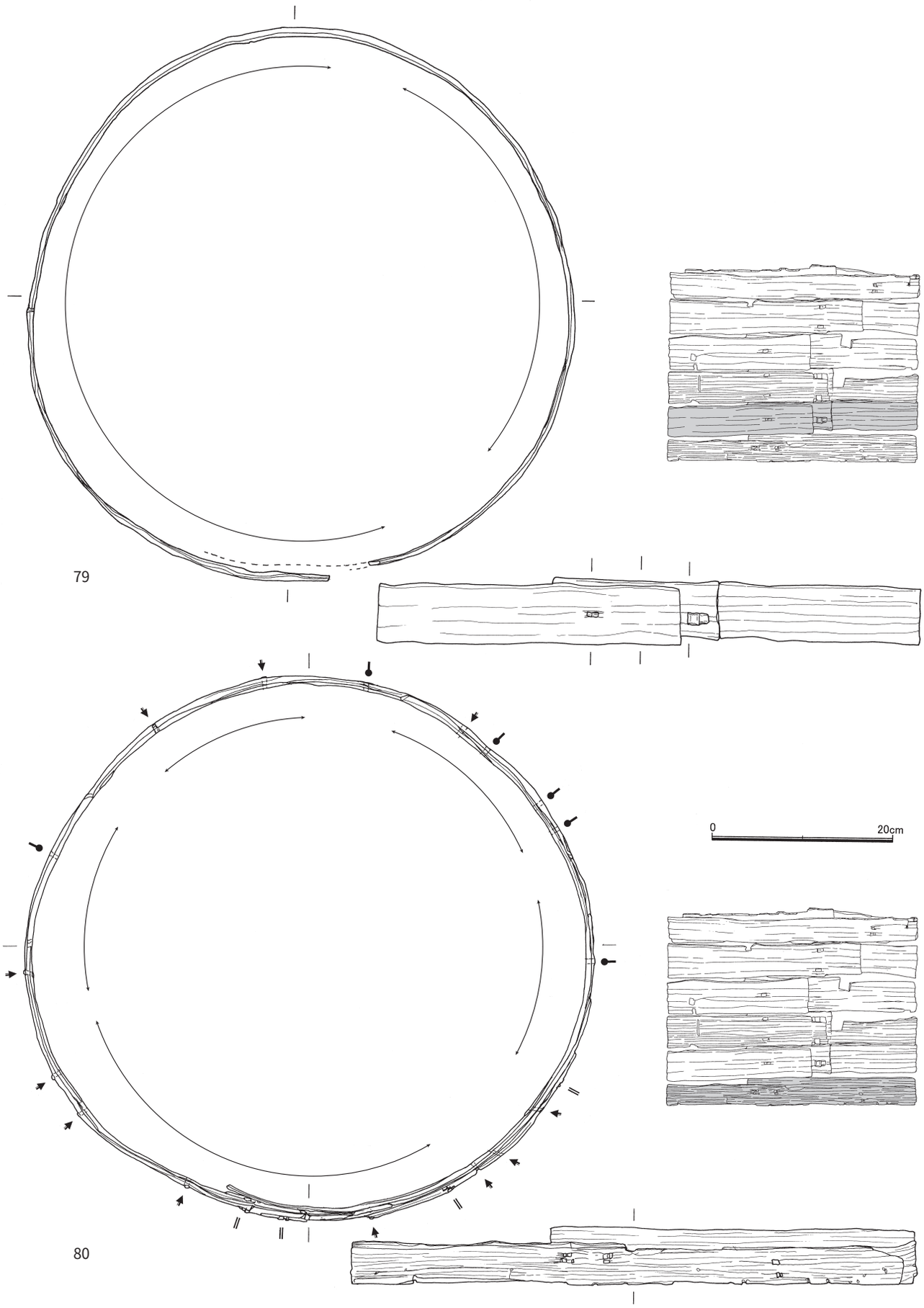
第31図　１号井戸出土遺物（９）



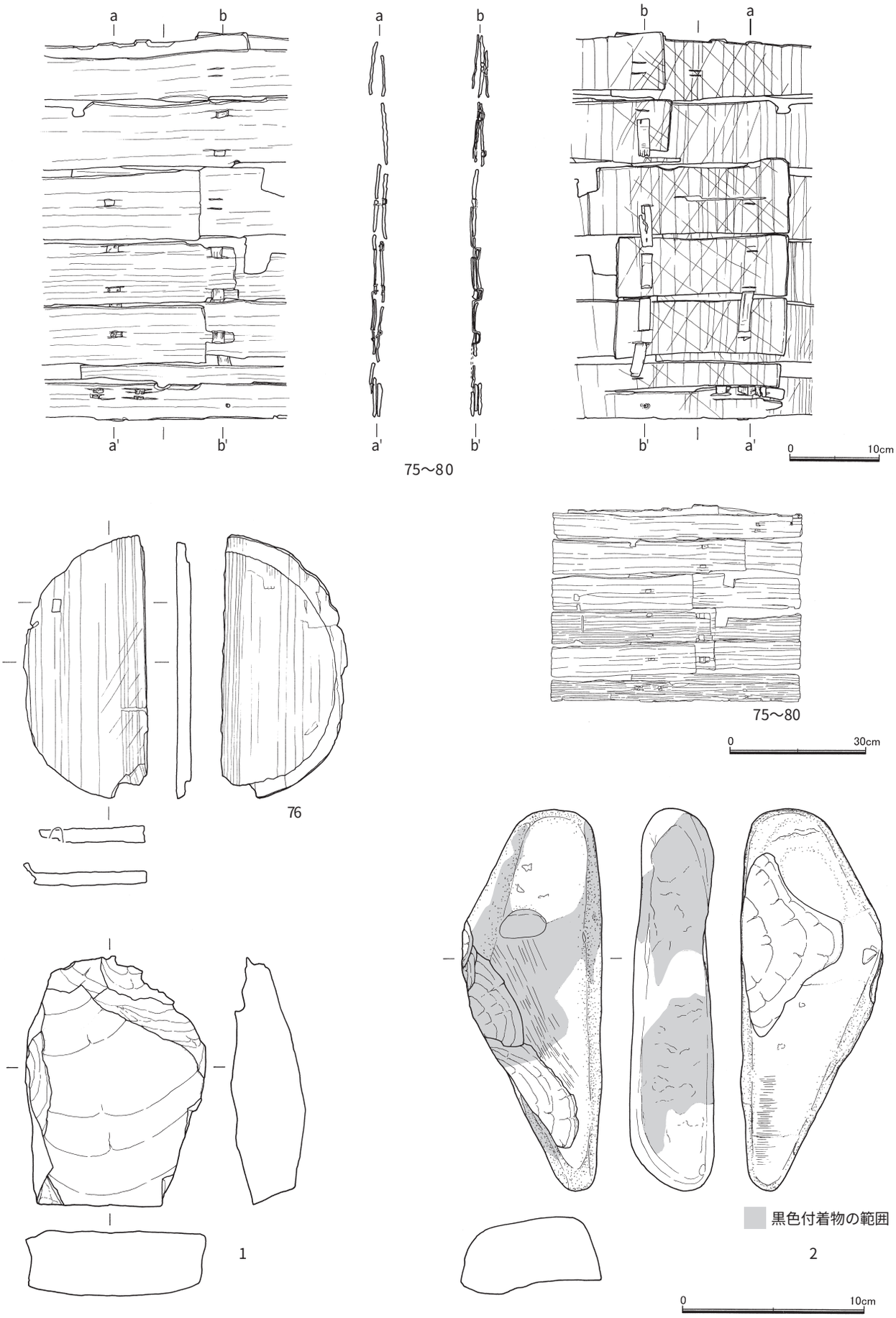
第32図　１号井戸出土遺物（10）



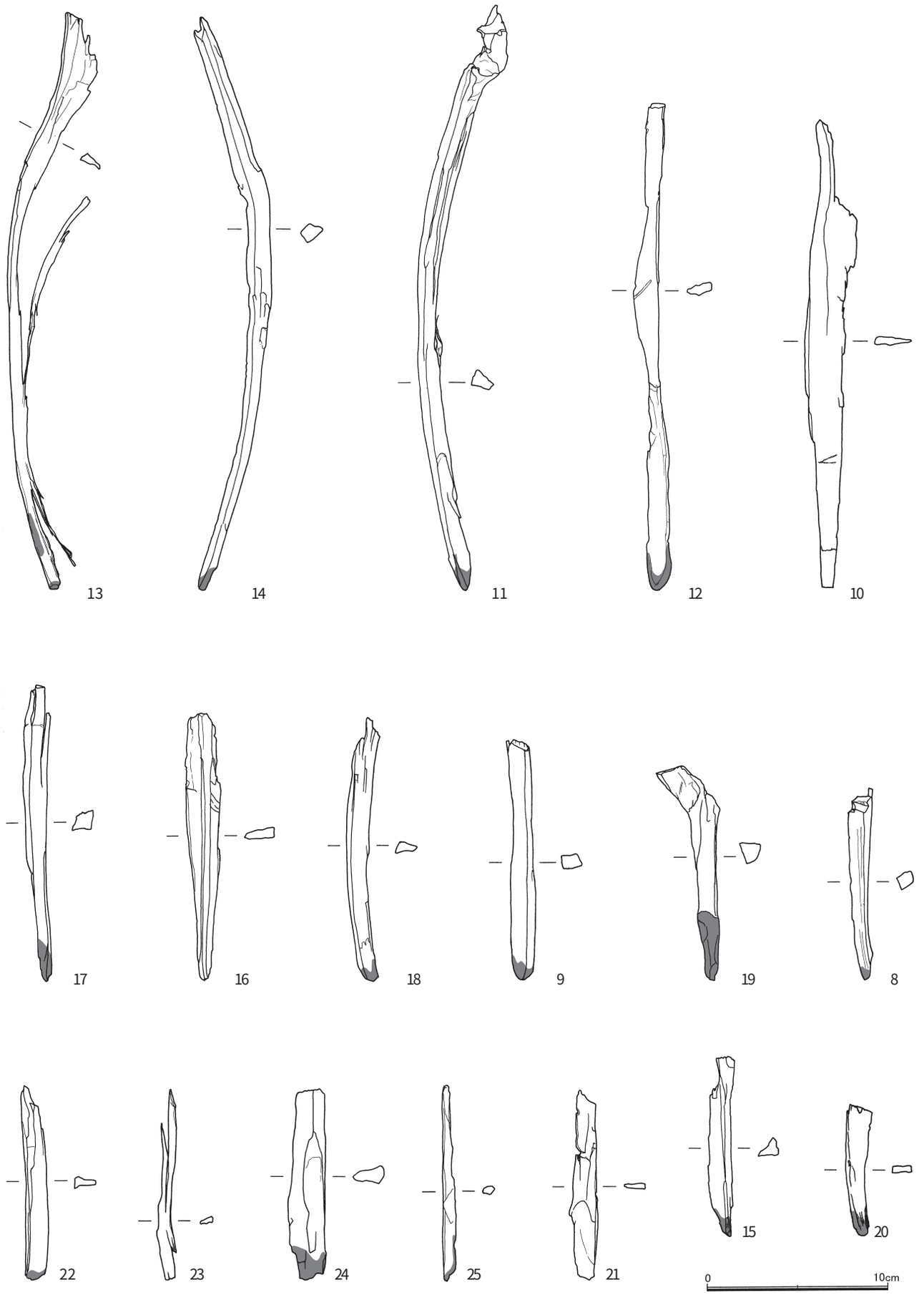
第33図　１号井戸出土遺物（11）



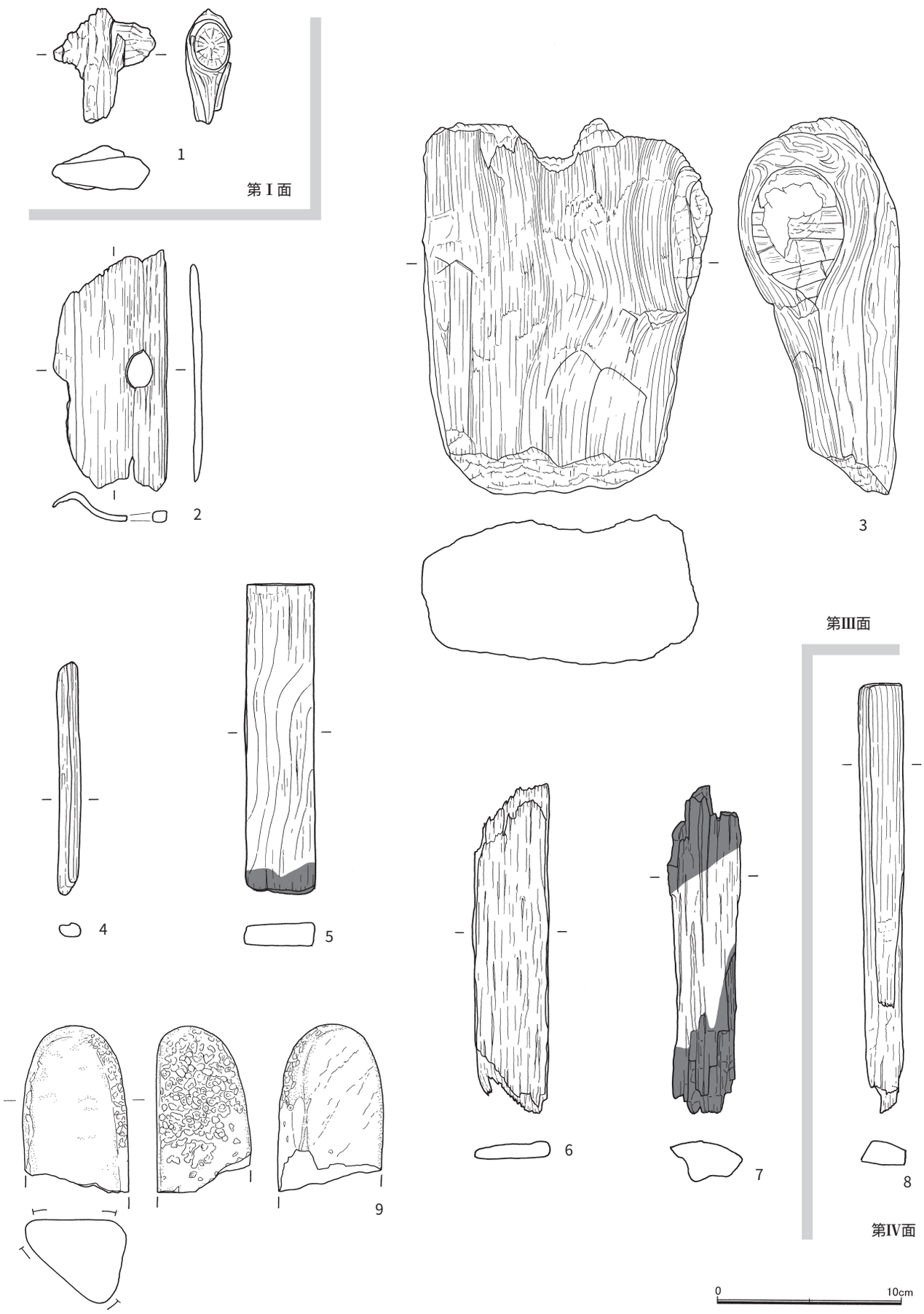
第34図　１号井戸出土遺物（12）



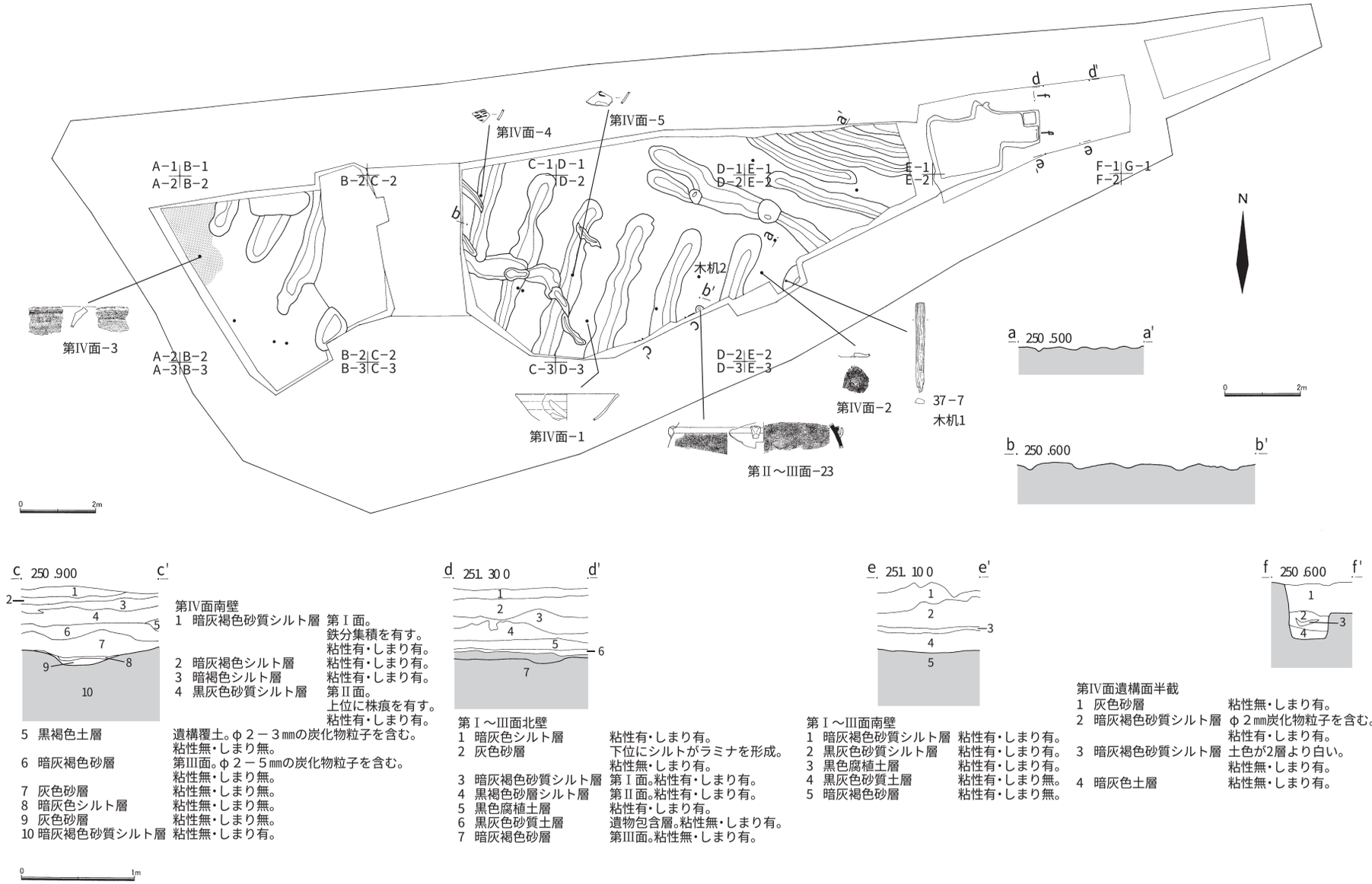
第35図　1号井戸出土遺物（13）



第36図　1号溝状遺構出土遺物



第37図　第Ⅰ面・第Ⅲ面・第Ⅳ面出土遺物



第IV面南壁

1	暗灰褐色砂質シルト層	第Ⅰ面。鉄分集積を有す。粘性有・しまり有。
2	暗灰褐色シルト層	粘性有・しまり有。
3	暗褐色シルト層	粘性有・しまり有。
4	黒灰色砂質シルト層	第Ⅱ面。上位に株痕を有す。粘性有・しまり有。
5	黒褐色土層	遺構覆土。φ２－３㎜の炭化物粒子を含む。粘性無・しまり無。
6	暗灰褐色砂層	第Ⅲ面。φ２－５㎜の炭化物粒子を含む。粘性無・しまり無。
7	灰色砂層	粘性無・しまり無。
8	暗灰色シルト層	粘性無・しまり無。
9	灰色砂層	粘性無・しまり無。
10	暗灰褐色砂質シルト層	粘性無・しまり有。

第Ⅰ〜Ⅲ面北壁

1	暗灰色シルト層	粘性有・しまり有。
2	灰色砂層	下位にシルトがラミナを形成。粘性無・しまり有。
3	暗灰褐色砂質シルト層	第Ⅰ面。粘性有・しまり有。
4	黒褐色砂層シルト層	第Ⅱ面。粘性有・しまり有。
5	黒色腐植土層	粘性有・しまり有。
6	黒灰色砂質土層	遺物包含層。粘性無・しまり有。
7	暗灰褐色砂層	第Ⅲ面。粘性無・しまり有。

第Ⅰ〜Ⅲ面南壁

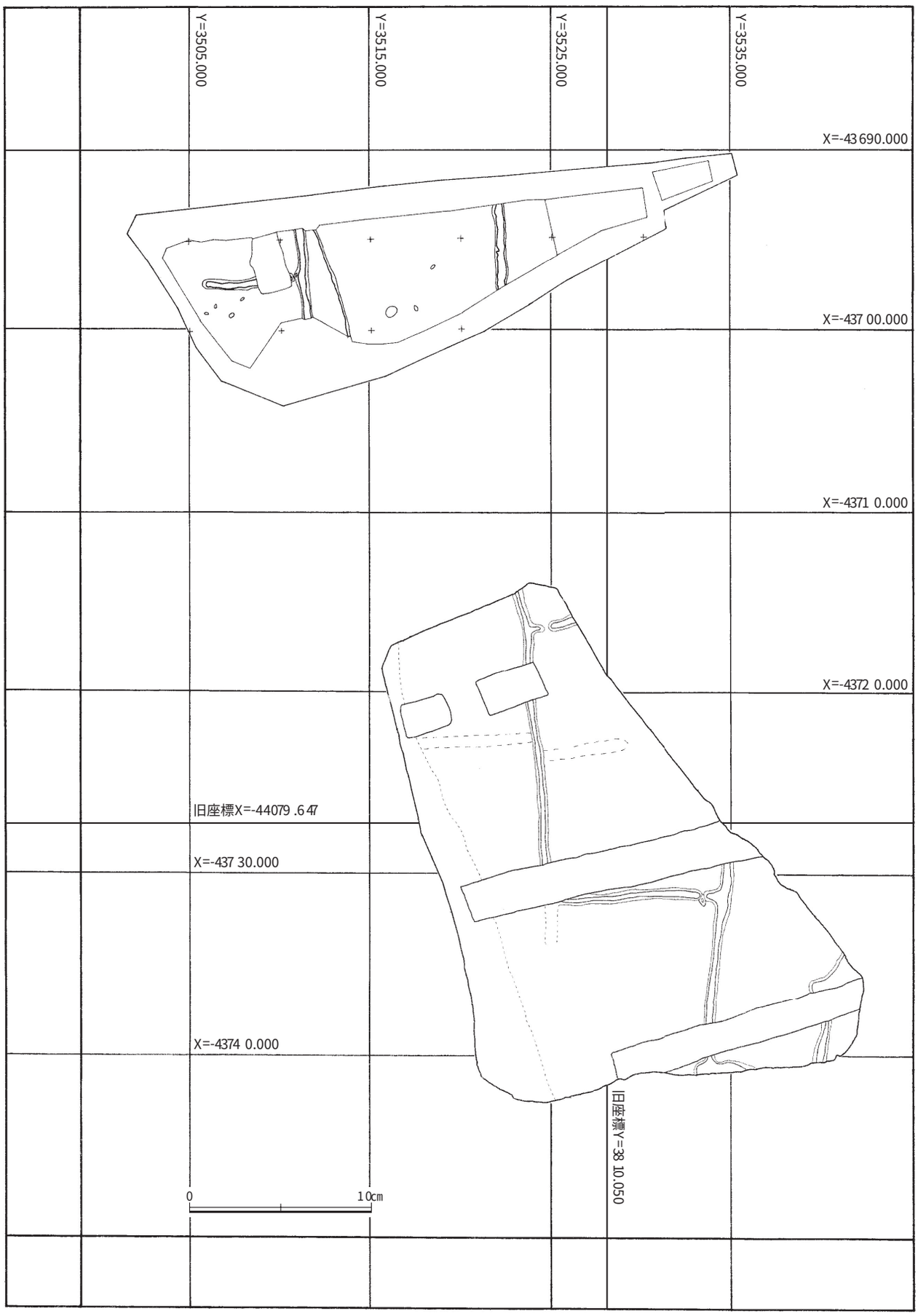
1	暗灰褐色砂質シルト層	粘性有・しまり有。
2	黒灰色砂質シルト層	粘性有・しまり有。
3	黒色腐植土層	粘性有・しまり有。
4	黒灰色砂質土層	粘性有・しまり無。
5	暗灰褐色砂層	粘性有・しまり無。

第IV面遺構面半截

1	灰色砂層	粘性無・しまり有。
2	暗灰褐色砂質シルト層	φ２㎜炭化物粒子を含む。粘性有・しまり有。
3	暗灰褐色砂質シルト層	土色が2層より白い。粘性無・しまり有。
4	暗灰色土層	粘性無・しまり有。

0 1m

第38図　第Ⅳ面遺構図



第39図　第１次・第４次調査地点平面図

斎串状木製品
…１号溝状遺構内より出土
その出土状況から祭祀具と考えられる

写　真　図　版

第Ⅰ面全景

畦畔検出状況

畦畔検出状況

畦畔検出状況

水口検出状況

土層堆積状況

株痕検出状況

株痕半截状況

図版 2　第Ⅱ面調査

第Ⅱ面全景

第Ⅱ面株痕検出状況

第Ⅱ面株痕検出状況

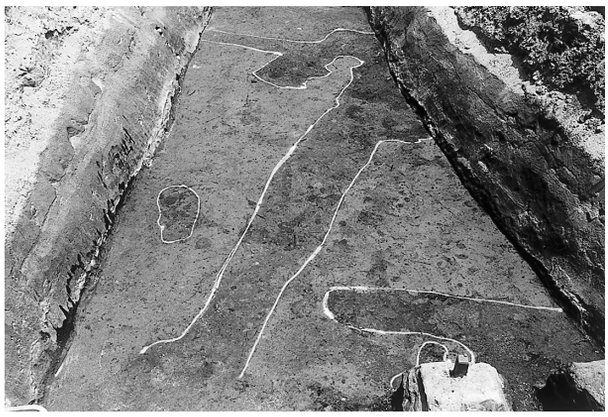
第Ⅱ面株痕検出状況

第Ⅱ面株痕検出状況

第Ⅱ面株痕検出状況

土層堆積状況

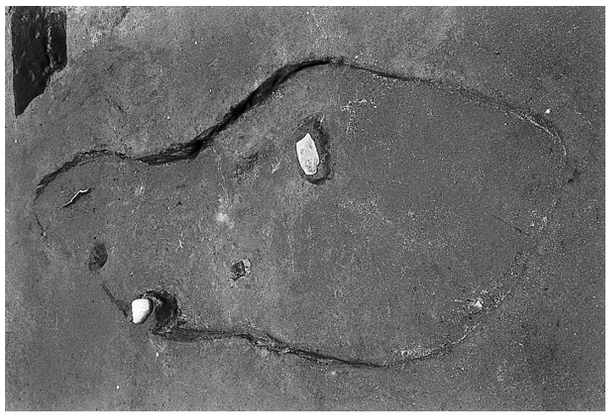
調査風景



2 号溝状遺構検出状況

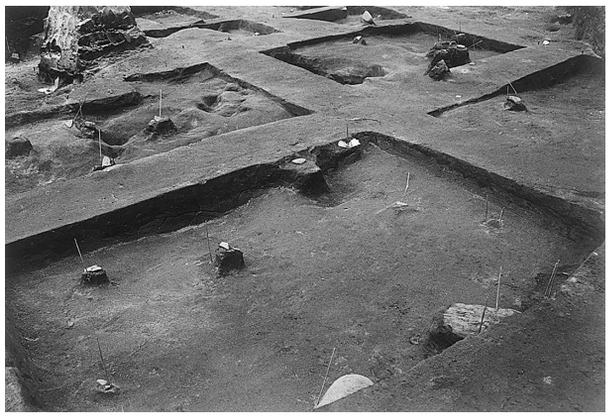
2 号溝状遺構　木片半截状況

2 号溝状遺構　木片検出状況



13号溝状遺構　遺物出土状況

1 号竪穴建物跡検出状況



1 号竪穴建物跡半截状況

1 号竪穴建物跡　炭化物集中半截状況

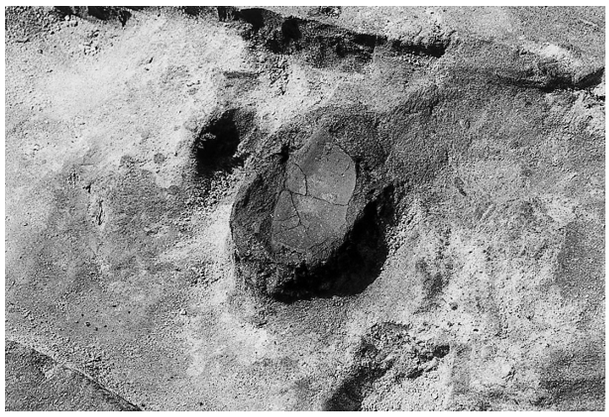
土層堆積状況

図版 4　第Ⅲ面調査（2）

1 号溝状遺構検出状況

1 号溝状遺構　遺物出土状況

1 号溝状遺構　遺物出土状況



1 号溝状遺構　遺物出土状況

1 号溝状遺構　斎串状木製品出土状況

1 号溝状遺構　斎串状木製品出土状況

1 号溝状遺構　斎串状木製品出土状況

1 号溝状遺構　遺物出土状況

1 号井戸検出状況

1 号井戸検出状況

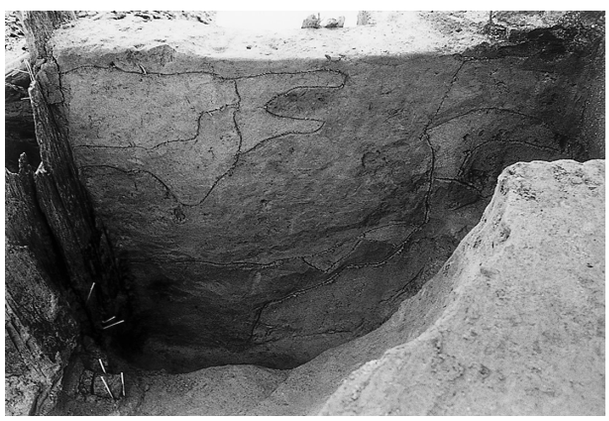
1 号井戸　木枠検出状況

1 号井戸　木枠検出状況

1 号井戸　木製品出土状況

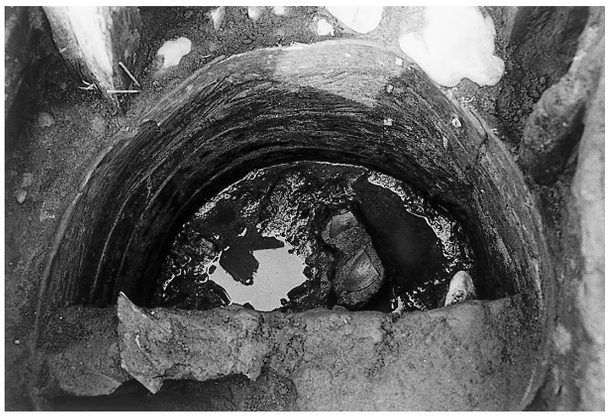
1 号井戸半截状況

1 号井戸半截状況



1 号井戸半截状況

図版 6　第Ⅲ面調査（4）



1 号井戸　遺物出土状況

1 号井戸　曲物検出状況

1 号井戸　遺物出土状況

1 号井戸　木枠検出状況

1 号井戸　木枠検出状況

1 号井戸　木枠検出状況

1 号井戸　曲物検出状況

1 号井戸完掘状況

第Ⅳ面全景

畝跡検出状況

畝跡検出状況

畝跡検出状況

畝跡検出状況

木杭検出状況

土層堆積状況

第Ⅳ面下掘り下げ状況

図版 8　1 号井戸出土遺物（1）

第23図ー 7

第35図ー76

第25図ー39

第25図ー41

第27図ー42

第28図ー54

第28図ー57

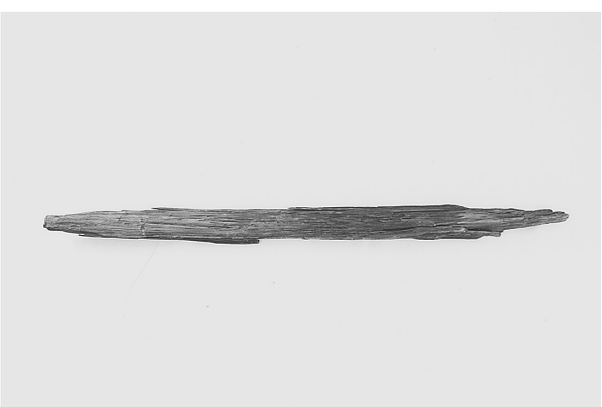
第29図ー58

第29図ー60

第30図ー65

第30図ー66

第31図ー69



第31図ー70

第32図ー75

第32図ー75

第32図ー75

図版10　1号井戸出土遺物（3）

第32図ー76

第32図ー76

第32図ー76

第33図ー77

第32図ー77

第33図ー77

第33図ー78

第33図ー78

第33図ー78

第34図ー79

第34図ー79

第34図ー79

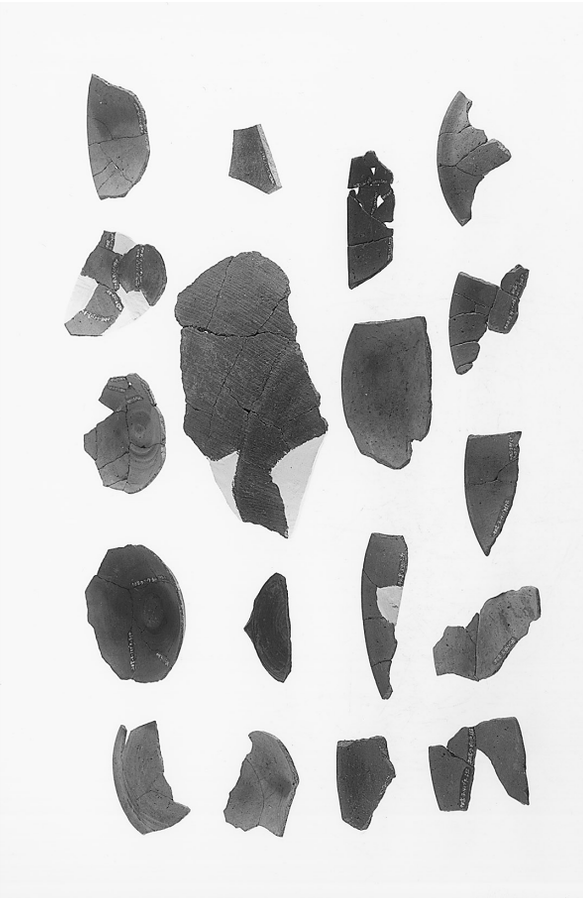
第34図ー80

第34図ー80

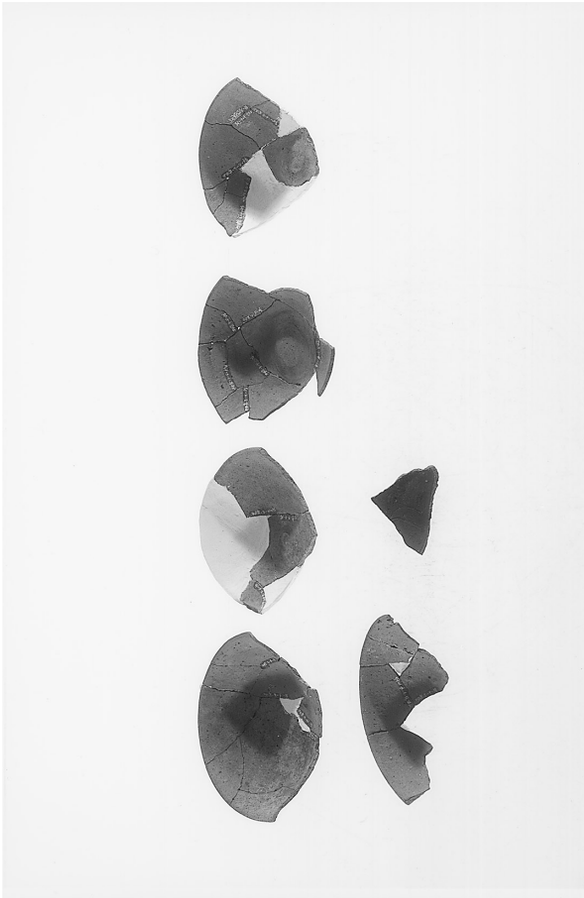
第34図ー80

第33図ー77・78　第34図ー79

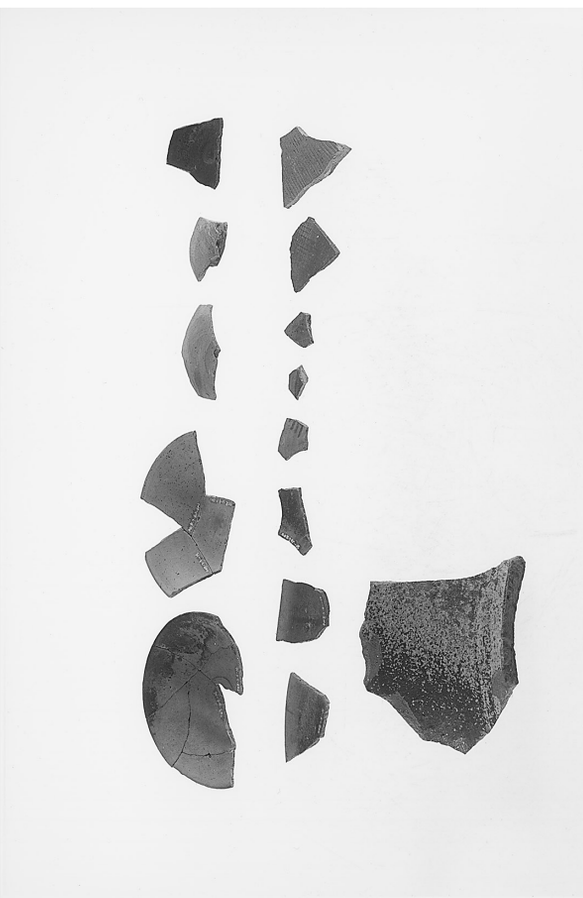
図版12　出土遺物（1）



1号溝状遺構出土遺物

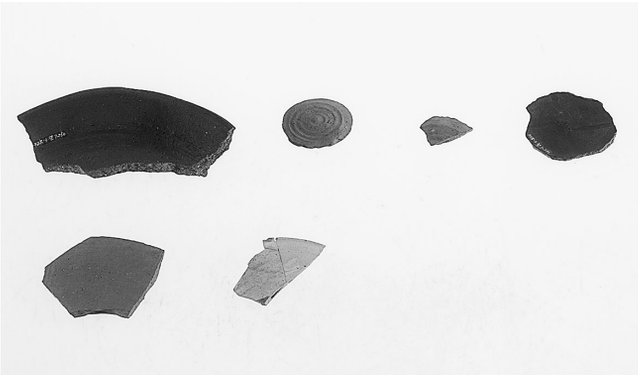


第Ⅲ～Ⅳ面出土遺物

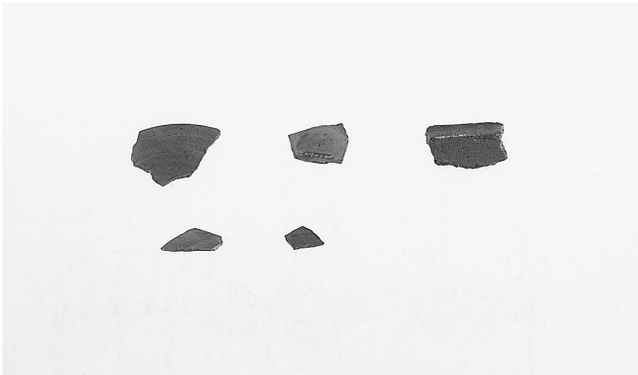


1号井戸出土遺物

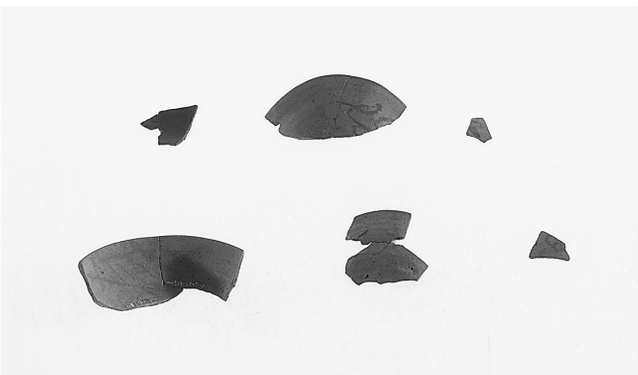
第Ⅱ～Ⅲ面出土遺物



1号竪穴建物跡出土遺物

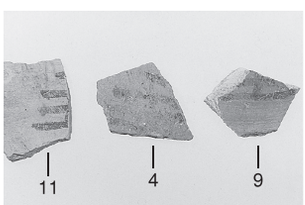


第Ⅳ面出土遺物



5・7号土坑、第Ⅲ面遺物外出土遺物

1号井戸　煤付着土師器



第20図　井戸ー9・11
第22図ー4

第21図　1溝ー6

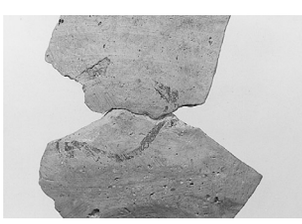
第19図　第Ⅱ～Ⅲ面ー8

第20図　1竪ー3

第22図　第Ⅲ面遺構外ー2

第21図　7土ー3

第21図　7土ー2



第22図　第Ⅲ面遺構外ー1

第22図　第Ⅳ面ー5

第20図　井戸ー10

第20図　第Ⅱ～Ⅲ面ー23

第21図　1溝ー9

報　告　書　抄　録

ふりがな	ひらたみやだいにいせき
書名	平田宮第２遺跡
副書名	新山梨環状道路建設に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第244集
著者	網倉邦生　酒井玄曉
発行者	山梨県教育委員会 山梨県土木部
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地・電話	〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923　TEL055-266-3016
発行年月日	2007年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひらたみやだいにいせき 平田宮第２遺跡	山梨県中央市下河東 1110番地他	19383	43	35° 36′ 22″	138° 32′ 19″	平成17年５月16日 ～ 平成17年７月14日	444㎡ （調査対象面積450㎡）	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平田宮第２遺跡	水田跡	平安～鎌倉	水田跡・株痕	木製品	
	集落跡	平安	竪穴建物跡１軒・井戸１基・溝状遺構20基・土坑11基	土師器・木製品（斎串状木製品・曲物など）・石器	井戸（木枠・曲物を伴う）、祭祀跡（１号溝状遺構内で確認された）
	畑跡	平安	畝状遺構・杭痕・炭化物集中	土師器・木製品	

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第244集

平田宮第２遺跡

新山梨環状道路建設に伴う発掘調査報告書

平成19年３月20日　印刷

平成19年３月30日　発行

編　集　山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923

Tel　055-266-3016　　Fax　055-266-3882

http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.htm

発　行　山梨県教育委員会

山梨県土木部

印　刷　株式会社　少國民社